

令和元年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール

実施報告書

令和2年3月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015年度受賞

【表紙写真】 第三中学校セカンドスクール（長野県北安曇郡白馬村）

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱	5
プレセカンドスクール実施要綱	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	12
令和元年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	14
各小中学校の日程及び主な活動内容	
＜小学校セカンドスクール＞	
第一小学校	16
第二小学校	21
第三小学校	26
第四小学校	31
第五小学校	36
大野田小学校	41
境南小学校	46
本宿小学校	51
千川小学校	56
井之頭小学校	61
関前南小学校	66
桜野小学校	71
＜中学校セカンドスクール＞	
第一中学校	78
第二中学校	82
第三中学校	86
第四中学校	90
第五中学校	94
第六中学校	98
＜プレセカンドスクール＞	
第一小学校	104
第二小学校	108
第三小学校	112
第四小学校	116
第五小学校	120
大野田小学校	124
境南小学校	128
本宿小学校	132
千川小学校	136
井之頭小学校	140
関前南小学校	144
桜野小学校	148

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度
 - ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度
 - ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度
 - ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度
 - ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度
 - ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度
 - ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度
 - ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が活かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度
 - ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度
 - ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。
- 平成14年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。

- 平成15年度
 - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール*を4校にて試行。
*プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
 - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）
- 平成23年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。
- 平成25年度
 - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。

- 平成26年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われた（長野県飯山市）。
- 平成27年度
 - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施した。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行った。
- 平成28年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力した。
- 平成29年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 平成30年度
 - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更した。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校6校、中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 令和元年度
 - ・第三小学校が、セカンドスクールとプレセカンドスクールの実施地を入れ替え、セカンドスクールを新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールを群馬県片品村で行った。
 - ・第四中学校が長野県飯山市から群馬県みなかみ町へ実施地を変更した。
 - ・新学習指導要領との調和、事業の持続可能性の検討等を行うため、「長期宿泊体験活動検討委員会」を設置した。
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の「子供の農山漁村体験活動の充実・推進に向けた手引き」において、大野田小学校と第四中学校のセカンドスクールの事例が掲載された。
 - ・新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会の「子ども農山漁村体験の果たす教育的意義」をテーマとした講演会において、セカンドスクールの意義について講演を行った。

武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。

(活動内容)

第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舍内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童及び生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。
- (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

(活動内容)

第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成14年度)

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					
第一中学校	長野県豊科町 (6泊7日)	東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2 平成4年 …長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

※3 平成5～6年…岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成15年度～)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校						新潟県魚沼市		(6泊7日)
第二小学校		平成16年11月1日 南砺市へ新設合併						
第三小学校				群馬県片品村			(7泊8日)	
第四小学校								(6泊7日)
第五小学校	群馬県川場村							
大野田小学校								
境南小学校	(7泊8日)							(6泊7日)
本宿小学校								
千川小学校						山形県鶴岡市		(6泊7日)
井之頭小学校						長野県飯山市 戸狩		
関前南小学校							(8泊9日)	(7泊8日)
桜野小学校	山形県遊佐町 (7泊8日)						(5泊6日)	(7泊8日)
第一中学校	長野県北安曇郡 白馬村							
第二中学校			平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併					
第三中学校								
第四中学校								
第五中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					
第六中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	(平成17年11月1日) 甲州市へ新設合併					千葉県 館山市
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市					
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)							
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)						
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)						
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市	
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	(平成18年3月27日) 香取市へ新設合併	東京都檜原村			
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村					
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)							
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)					

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
東京都 檜原村	→	山梨県 富士河口湖町						
山梨県 富士河口湖町								
							群馬県利根郡 片品村	
山梨県 山中湖村								
山梨県 北杜市			→	山梨県 山中湖村				
				→	山梨県 山中湖村		→	山梨県 富士河口湖町
			→	山梨県 富士河口湖町				
						→	東京都 奥多摩町	
山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村							

令和元年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

(令和元年5月現在)

種別	学校名	実施日	実施場所	現地宿舎	
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月25日(水)～10月1日(火)	6泊7日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9月29日(日)～10月6日(日)	7泊8日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	9月24日(火)～9月30日(月)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	5月30日(木)～6月5日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校	9月12日(木)～9月18日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校	9月19日(木)～9月25日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9月18日(水)～9月24日(火)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	本宿小学校	9月24日(火)～9月30日(月)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9月19日(木)～9月25日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9月25日(水)～10月1日(火)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	10月1日(火)～10月7日(月)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
桜野小学校	9月22日(日)～9月28日(土)	6泊7日	長野県飯山市	民宿	
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月26日(木)～9月30日(月)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 ホテル1泊
	第二中学校	5月21日(火)～5月25日(土)	4泊5日	新潟県十日町市松之山	農家2泊 旅館2泊
	第三中学校	9月30日(月)～10月4日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 ホテル2泊
	第四中学校	9月25日(水)～9月29日(日)	4泊5日	群馬県利根郡みなかみ町	キャンプ1泊 農家2泊、ホテル1泊
	第五中学校	9月17日(火)～9月21日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 ホテル1泊
	第六中学校	9月4日(水)～9月8日(日)	4泊5日	長野県安曇野市	農家1泊 公営宿泊施設3泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	9月18日(水)～9月20日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第二小学校	10月7日(月)～10月9日(水)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	6月5日(水)～6月7日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	9月11日(水)～9月13日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	9月25日(水)～9月27日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6月19日(水)～6月21日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校	10月2日(水)～10月4日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	本宿小学校	10月2日(水)～10月4日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	千川小学校	10月9日(水)～10月11日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校	10月9日(水)～10月11日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿
	関前南小学校	9月18日(水)～9月20日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	9月12日(木)～9月14日(土)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月25日～10月1日(6泊7日)

参加人数 男子37名 女子35名
計72名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 民宿の周りを散策したり、自然体験活動に取り組んだりすることで武蔵野との違いに気付き各教科等で既に習得した知識や経験と結び付けながら、新たに知識を獲得する能力を身につける。
- ・ 稲刈りや伐採などの体験活動の際に、安全に気をつけて体を動かす力を育む。
- ・ 事前学習からたてた自らの課題について、体験活動や現地の方へのインタビューなどから集めた情報を取捨選択する力を育む。
- ・ 課題の探究に向けて、他者と協働的に活動に取り組み、異なる意見を生かして新たな学びを獲得しようとする力を育む。

○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床 朝食	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	9:00	林業体験薪割り等	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	12:00	昼食	9:00	農業体験 稲刈り	10:00	駒見山ハイキング
13:30	開校式	13:00	林業体験 伐採	11:30	須原小訪問	12:30	昼食 教員交代
15:00	守門地区散策	16:15	班長会議	12:30	昼食	14:15	目黒邸見学
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	13:30	農業施設見学	15:15	昔話を聞く会
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	健康観察・入浴	16:30	健康観察・入浴
19:00	はじめましての会	19:00	天体観測	17:30	夕食	17:30	夕食
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	19:00	手紙書き	19:00	語らいの時間
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
9月29日(日)		9月30日(月)		10月1日(火)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	課題別学習	9:00	わら細工作り	8:00	荷物整理・大掃除		
12:00	昼食	11:30	郷土食作り体験	9:30	セカンドスクールまとめ		
13:40	課題別学習	12:00	昼食	10:30	閉校式		
16:15	班長会議	13:30	宿別体験	11:00	守門発		
17:00	健康観察・入浴	15:30	セカンドのまとめ	12:40	昼食(赤城高原 S.A)		
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	14:00	トイレ休憩		
20:00	語らいの時間	18:00	夕食 感謝の会	15:30	学校到着・帰校式		
21:00	就寝準備	20:30	語らいの時間	16:00	解散		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・5月に魚沼から送っていただいた苗を水田に植え、米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学んだ。また総合的な学習の時間では、「学ぼう、日本の米」というテーマを設定し、米に関して興味・関心のある内容を調べ、紙面にまとめた。
- ・1学期後半に魚沼に関する情報を集め、各自が特に深めたい内容を課題に設定した。夏休みには各自の課題についての資料を集めた。夏休み後に、グループごとに資料をもとに調べたり、現地で質問したり、見て確かめたいことについての意見交換を行った。
- ・社会科で林業について学び、林業体験で行うことの具体的なイメージをもてるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールを通しての学びや成長、体験内容等を4年生に向けて発表した。また、課題別学習については、魚沼市と武蔵野市との比較を通して、今後武蔵野市に貢献できそうなことを出し合ったり、また魚沼市に提案できることを考えたりして、それらを発表した。
- ・国語の学習で、7日間を通して自分が一番努力したことや成長したことを考え、文章にまとめた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

3グループに分かれ、現地ガイドの説明を受けながら、小出スキー場の駒見山の頂上を目指してハイキングをした。途中で見かけた植物の名前の由来や、昆虫の種類などを説明していただいた。またトチの実の笛や朴の葉のお面等を作っていただくなど、自然の中の遊びも教わった。新たな知識を得て、自然の楽しみ方も実感することができた。



【植物について教わっている様子】

2 星空観察

須原スキー場の駐車場に夜7時に集合し、秋の星空の説明を聞きながら実際に観察をした。天候に左右されやすい活動なので、2日目に設定し、以降5日目まで順延可能な内容を考えた。当日は天候もよく、満点の星空の下、多くの星や天の川を観察することができた。4年生の理科で学習した内容の復習だけでなく、火星や土星等の惑星や月についても学習することができた。今後の学年の学習にもつながる発展的な内容にも触れ、星座や宇宙への興味・関心が一層深まった。

<社会体験活動>

1 農業体験

農業に関する活動では、稲刈りや脱穀の体験、倉庫の見学、藁細工作成を行った。魚沼農耕舎の方のご指導により、稲を刈る作業とはざ掛けを体験した。鎌の使い方、束ね方等を説明していただいた後、田んぼに移動し、実際に鎌を用いて稲刈りを行った。魚沼農耕舎の方が半年間丁寧に育ててきた稲だということを事前に指導したことで、落ち穂まで大切に扱う様子が見られた。また、手刈りをした後に目の前でコンバインを動かしてもらい、現在の農業が非常に効率的に行われていることを目の当たりにし、機械のありがたみを実感することができた。脱穀は、足踏み式の脱穀機を用いて行った。脱穀機を回すスピードを足でコントロールすることが難しかったが、各宿の方に補助していただきながら、上手に作業することができた。昔の人の知恵について学びを深め、機械を活用する効率のよさを実感できた。倉庫の見学では、運ばれてきた稲が玄米になる工程を見学し、低温の中で保存されている米の袋に関して説明を聞いた。見学を通して、米作りに従事する人々の苦労や工夫を知ることができた。藁細工では、農家が藁を活用して生活に役立つ物を作ることを教わり、宿の方に藁の編み方を教わりながら鍋敷きを作成し、自然と人間との共生について考えを深めることができた。



【コンバインによる稲刈りを見学】



【宿のお父さんに藁細工を教わる様子】

2 林業体験

福山森林体験の森で、炭焼き窯から炭をかき出す作業、丸太を斧や機械を使用して割り、薪にする作業を行った。炭焼き窯での作業では高温の中で仕事をする大変さを実感できた。また薪割り体験では、道具の正しい扱い方を学んだ。伐採体験では、木をのこぎりで短く切り分け、運び出す作業も行い、友達と協力して作業を行うことができた。

3 課題別学習

魚沼市を知る学習として「観光」「産業」「雪国の暮らし1」「雪国の暮らし2」の4グループに分かれて、事前に調べた資料から内容を厳選し学習した。「観光」ではJR只見線乗車と西福寺開山堂の見学、「産業」では米糶工場・酒蔵の見学と魚沼そばパスタ商品開発の話、「雪国の暮らし1」では、長岡市の県立歴史博物館の見学、「雪国の暮らし2」ではスキー場や除雪車等の見学を行った。魚沼市の特色である雪国の暮らしや観光、産業について、施設見学等を通して、武蔵野市と比較しながら実社会・実生活について考えることができた。



【JR 只見線乗車】



【実物大の展示 県立歴史博物館】

4 須原小学校との交流体験

3日目には、魚沼市立須原小学校の5年生と交流をした。児童は事前に自分の写真や紹介文を送り合っていたことで当日会えることを心待ちにしていた。須原小学校の校長先生に武蔵野市との違いについて紹介していただいたり、お互いの学校や地域に関するクイズを出し合ったり、全員で仲間集め等のレクリエーションを行った。第一小からは「COSMOS」の歌を披露した。その後、グループごとに昼食をいただいた。また、須原小学校のご厚意により校庭で一緒に遊ぶ機会を設定することもできた。いつも遊んでいる校庭の3倍もの広さに児童は喜び、とても生き生きと遊ぶことができ、有意義な時間となった。



【須原小学校との交流会】

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

6日目の昼食は、各宿で餅つきを行った。地元でとれたもち米を使って調理することで、地産地消の考え方の大切さを改めて実感した。また、家庭科で学んだ調理法や、社会科で学んだ食料生産に関わる内容について思い出し、振り返ることもできた。

2 宿別体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験を行ったり、近くを散策して生えている植物についてお話をいただいた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験したことで、食材を作り育てる人たちの工夫や苦勞、また食べ物のありがたさを改めて実感できる機会となった。



【収穫したサツマイモを運ぶ様子】

○児童の感想

- ・ふだん食べているお米があんなに大切に育てられているんだと初めて知りました。これからは、すべての食べ物を大切にして「いただきます」や「ごちそうさま」と心を込めたいです。
- ・セカンドスクールで特に心に残ったことは、雪国での昔の生活についての話を聞いたことです。魚沼では、冬の雪道を歩くときに藁靴や蓑などの藁で作った防寒具を使っていたと聞き

ました。食料としてだけでなく、様々な道具の材料にもなる稲を育ててきたことは本当にすごいことだと感じました。

- ・雪国のくらしや米作りは、社会科の教科書や資料集で見て知ってはいたけど、実際に見て手に取ったことで、重さや触り心地、作業の大変さなどがわかりました。本やインターネットで新しいことを知ることも大切だけど、本物を見るのが一番面白いと感じました。
- ・天体観測が一番心に残りました。東京は街の明かりが強いから星は数えるほどしか見えません。しかし、魚沼では星空を見るのに邪魔な光が少ないのでまるでプラネタリウムにいるようでした。天の川がわかったのが感動しました。
- ・私はずっと須原小学校の5年生と会えるのが楽しみでした。須原小のみんながとても元気に挨拶をしてくれたので驚きました。みんなと仲良くなれてよかったです。初めて会う人にも元気に挨拶をするところを見習いたいです。交流会でできた友達とこれからも交流してみたいです。
- ・宿のお父さんとお母さんがいつも優しく関わってくれたので、行くまでの不安がすぐなくなりました。いつも作ってくれるご飯もおいしかったし、本当の家族みたいでした。帰るときにはさみしくて帰りたくないと思いましたが、「また遊びにおいで」と言ってくれたので今度は冬の新潟に遊びに行きたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・総合的な学習の時間で、5月に魚沼市から送っていただいた苗を水田に植え、セカンドスクール後もその稲を育て収穫した。調理でお米を炊く実習を家庭科で行う際、実際に育てた米も一緒に炊いていただいた。米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学ぶことができた。
- ・課題別学習に関しては、セカンドスクール実施後、現地で学んだ自然や地域の特性から興味・関心をもった事柄について追究し4年生や保護者に伝える活動を通して、魚沼市と武蔵野市の違いに気付いたり、武蔵野市の生活に繋げて考えたりすることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・課題別学習では、「新潟県立歴史博物館」や「魚沼醸造」などの新しい見学先を開拓することができた。「くらし」や「産業」といった各テーマにとどまらず、新潟の自然環境の特色や歴史的な成り立ちまで総合的に学べる貴重な見学施設であったため、今後は全員で見学することも検討していきたい。
- ・児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼の民宿の方は高齢化傾向にある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、見通しをもち、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていく等、対応していく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市

9月29日～10月6日(7泊8日)

参加人数 男子31名 女子31名
計62名

○セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきをもとに環境と人とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・利賀村の自然や人々の生活などに自ら課題をもち、主体的に追究する力を付ける。
- ・学習したことを工夫してまとめ、伝える力を付ける。
- ・利賀村の人々と心の交流をし、豊かな自然体験活動を通して、自然や利賀村の暮らしに対する興味関心を高める。

○日程表

9月29日(日)		9月30日(月)		10月1日(火)		10月2日(水)	
7:30	集合(武蔵境駅)	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:02	武蔵境駅発	8:30	地域散策	9:00	ハイキング	9:00	課題別学習
9:32	東京駅発	9:30	そば打ち体験	12:00	昼食	12:00	昼食
12:20	新高岡駅着	11:30	昼食	13:00	ハイキング	13:30	そばの郷資料館見学
13:40	新高岡駅発	13:00	稲刈り体験	15:00	そばの郷着	14:30	民宿別活動
14:30	利賀村着 開校式	16:00	民宿着	16:00	民宿着	17:00	入浴
15:30	民宿着 はし作り	17:00	入浴	17:00	入浴	18:00	夕食
17:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	20:00	ありがとうの会準備
18:00	夕食	20:00	民宿の方のお話	20:00	手紙書き(家族へ)	21:30	就寝
21:00	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝		
10月3日(木)		10月4日(金)		10月5日(土)		10月6日(日)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	朝会 林業体験	9:15	利賀小との交流	10:00	相倉合掌集落見学	9:00	閉校式
13:00	昼食	12:00	給食	12:30	民宿着 昼食	12:10	新高岡駅発 車内昼食
13:45	岩魚つかみ体験	13:35	縄ない	13:30	民宿別活動	14:52	東京駅着
16:30	民宿着	15:45	民宿着	17:00	入浴	15:17	東京駅発
17:00	入浴	17:00	入浴	18:00	夕食	15:54	武蔵境着
18:00	夕食	18:00	夕食		ありがとうの会		解散式
20:00	民宿の方の話	20:00	ありがとうの会準備	21:30	就寝	16:20	解散
21:30	就寝	21:30	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - ① 「武蔵野の森を育てる会」の方を招いて、実際に樹木や森林の話をしていただいた。
 - ② 森林について課題を設定し、社会科の学習につなげた。
 - ③ 利賀村について、自然や特産物、伝統、歴史などを調べた。
- ・1学期後半から2学期にかけて社会科で農業について学習し、米作りの工夫や仕事をしている人の思いを学んだ。
- ・社会科の単元を入れ替え「森林とわたしたちの暮らし」の学習を2学期に行った。
 - ① 人工林や天然林のはたらきなどを調べ、その役割について学んだ。
 - ② 林業について学習し、林業の仕事をしている人の工夫や思いを学んだ。
 - ③ 土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについて学んだ。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだこと、感じたことをまとめ、4年生に発表した。発表する内容ごとにグループに分かれ、しおりの内容をもとに模造紙に活動内容をまとめ、発表内容を話し合い、工夫して伝えた。
- ・セカンドスクールでの体験を作文や新聞にまとめた。
- ・自分たちで刈ったお米を炊き、おにぎりパーティーをした。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

当日は天候にも恵まれ、現地のインストラクターに先導してもらい、ハイキングを行うことができた。1グループにつき一人のインストラクターがついてくれたのでグループごとに利賀村の森林の話やそこに生息する動植物の話をおもしろく聞くことができた。植物に触れながら、植物の名前やその特徴を学び、生活の中でどのように使われてきたのかについても知ることができた。社会で学習した人工林、天然林についても、森林を歩いたり実際に樹木に触れたりすることで、その違いについて理解を深めることができた。



【ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 稲刈り

鎌を使って稲を刈る、わらで稲を結ぶ、結んだ稲をはさにかける、という一連の流れを体験した。また、脱穀も体験したことで、昔の農作業の大変さを実感した。稲刈り後は、ライスセンターで稲の精米行程を見学した。学校での学習と、利賀での農作業体験、ライスセンター見学を通して、米が食卓に届くまでの人々の努力や苦労を実感した。

2 林業体験

木の伐採方法や枝打ちについて話を伺った後、一人一人がのこぎりを使って「丸太玉切り体験」を行った。

今回は例年とは違い、ミズナラの木の植林を体験した。苗木を収集し、指定の場所へ運び、植林することで、森をつくり、育てていくという林業に携わる仕事を体験した。この体験と学校での学習とを結び付け、林業の大切さについて学びを深めることができた。

3 利賀小学校との交流

今年度も利賀小学校との交流の前半は、利賀小学校から初午の踊りを披露してもらったほか、学校を案内してもらったなどした。また、男子と女子に分かれ、麦屋節も教えてもらった。後半は、第二小学校の学校紹介やクイズ、今年の運動会で行った踊りや団体演技を披露したり、「Smile again」を歌うなどした。その後、利賀小学校の児童と一緒に給食を食べた。

<生活・文化体験活動>

1 岩魚つかみ

キャンプ場の百瀬川の浅瀬に2つの区切りをつくり、生きた岩魚をつかむ体験をした。児童は、苦戦しながらも、普段はできない活動に積極的に取り組んだ。その後、つかまえた岩魚をさばき、内臓を取り除く作業を行った。一人一人が岩魚の命と向き合い、真剣に取り組むことができた。普段何気なく食べている物も、すべて命をいただいていることを改めて実感し、「いただきます」の本当の意味を考えながら一口一口しっかりと味わって残さずに食べた。

2 民宿での体験活動

6班に分かれ民宿に分泊した。1週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができるようになった。同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを、身をもって感じることもできた。

さらに、民宿の方との温かい触れ合いを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもちろん、普段お世話になっている方々に対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えること



【芋ほり体験】

ができた。民宿別活動では、野菜の収穫や選別する体験、裏庭の散策、五平餅づくりなど、各民宿の特色ある仕事や利賀の伝統的な活動を体験した。



【五平餅づくり体験】

○児童の感想

- ・武蔵野市と違い利賀村には豊かな自然があって驚いた。
- ・普段はできない貴重な体験ができて楽しかった。
- ・セカンドスクールでは、民宿の方や指導員の先生、担任や引率の先生など多くの方に支えられていることがわかった。
- ・岩魚つかみ体験では、実際に岩魚をつかんでさばくことで命の大切さを学ぶことができた。これから食べ物を食べる時には残さず感謝して食べたい。
- ・稲刈り体験では最初は上手に刈ることができなかったが、利賀の方や指導員の先生に教えてもらったから上手に刈りとることができた。
- ・7泊8日お世話になった民宿の方とお別れするのはとても寂しかったが、7日目の夜にみんなでありがとうの会を行い感謝の気持ちを伝えることができてよかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度も総合的な学習の時間「利賀の森は地球を守る」として実施した。

セカンドスクールでは、ハイキングや散策、林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりした。民宿の方にも利賀村の森林や自然についてのお話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。

セカンドスクール後は、児童一人一人が、民宿での活動や様々な活動を通して学んできたことを新聞にまとめたほか、学習発表会において児童が劇の要素も取り入れた台本を作成し、学んできた成果を分かりやすく発表したりした。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・日程及びプログラムの組み方については、全般的に充実した体験活動を行うことができた。充実した自然体験活動をはじめ、民宿ごとに特色のある活動を行うことができたが、活動時間が長引くことがあったので、次年度は15時までに活動が終わるようにプログラムを組む。
- ・ねらいを達成するために「ハーモニー」というテーマを設定し、自分が集団の中で何ができるかを常に意識させたことで、児童は本番でも友達と深く関わり、切磋琢磨しながら、様々なことを乗り越えることができた。

- ・「自分のことは自分でできるようになる」ことを目標に民宿での生活や活動を行った。初めは民宿の中で整理整頓が苦手だった児童が、周りの児童の助けを借りながら徐々に自分の身の回りのことができるようになっていき、児童の変容を感じた。
- ・民宿の見回りの際に、他の民宿の片付けの様子や工夫した点を伝えると、児童は競うように部屋の整頓を始めた。児童の取り組みや工夫がほかの班の児童に良い刺激を与え、学年全体として、民宿での生活を充実させることができた。
- ・次年度は実施期間を1泊減らし6泊7日となるので、活動内容を精選し、まとめられる活動はひとまとめにするなど短い時間の中でも充実した活動になるよう中身の濃いものにする。

第三小学校

新潟県南魚沼市

9月24日～9月30日(6泊7日)

参加人数 男子37名 女子25名
計 62名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長期の宿泊により、生活上の自立に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・自然の中で豊かな体験活動を通して、南魚沼の自然や暮らしの工夫に関する知識を深める。
- ・南魚沼の自然や地域の特性について自ら課題をもち、主体的に課題を追究する力を育てる。
- ・南魚沼の歴史や文化に触れ、引き継がれてきた地域のよさや人々の努力に気づき、進んで表現しようとする力を育む。
- ・地域の人々との交流を通して、人間関係を深めるとともに、それらの人々や保護者に対する感謝の念を育てる。
- ・自主的な集団生活を通して、児童相互に理解し合うことや協力し合う態度を育む。

○日程表

9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:00	起床	6:30	起床
8:30	出発	7:30	朝食	6:30	朝食	7:30	朝食
11:30	開校式	9:00	朝会	7:45	朝会	8:30	朝会
12:00	各宿あいさつ	9:30	稲刈り体験	8:00	観光協会出発	9:30	塩沢小との交流会
12:30	昼食(弁当)	12:00	昼食(弁当)	10:00	水族博物館見学		学校案内
13:30	避難訓練・周辺散策	13:30	脱穀見学	11:30	水族博物館出発	13:00	昼食
14:00	笹団子作り体験	15:00	カントリーエレベーター見学	12:30	昼食(天領の里)	14:30	座禅体験(龍澤寺)
16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	13:30	紙風船作り体験	16:30	夕方の会
17:00	入浴	17:00	入浴	14:30	出雲崎見学	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	15:30	出雲崎出発	18:00	夕食
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	17:30	観光協会到着	19:00	学習の記録
20:30	健康観察	20:30	健康観察	18:00	入浴	20:30	健康観察
21:00	消灯	21:00	消灯	19:00	夕食	21:00	消灯
				20:00	学習の記録		
				20:30	健康観察		
				21:00	消灯		

9月28日(土)		9月29日(日)		9月30日(月)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	朝会	8:30	食材準備	9:00	朝会
9:16	電車移動	9:30	朝会	9:30	勤労奉仕活動
9:30	機織り体験 牧之記念館見学	10:00	火おこし体験 豚汁体験	11:00	昼食
12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	閉校式
13:33	電車移動	14:00	万華鏡作り体験	12:30	出発
15:00	農業体験	15:00	感謝の会準備	15:45	学校到着
16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	16:00	解散
17:00	入浴	17:00	入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	学習の記録	19:00	感謝の会		
20:30	健康観察	20:00	学習の記録		
21:00	消灯	20:30	健康観察		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールのめあてや出発までに行う調べ学習について、スライドショーをもとに確認した。昨年度の活動を振り返り、さらに調べたいことや知りたいことをもたせるようにした。
- ・南魚沼市の自然や気候、特産物、雪国ならではの暮らし方などから、各々が課題を決め、インターネットや図書資料で情報を集めて、課題解決をした。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成し、事前を送付した。
- ・班長、副班長、生活係、保健係、学習係、レクリエーション係の係ごとに、各式の司会、朝会の司会、学習の記録の書き方、部屋の整理整頓の方法を考え、準備を行った。
- ・指導員との交流会、塩沢小学校との交流会の係を作り、プログラム、遊びや発表の内容を考え、準備した。学校・地域紹介では、自分の学校や地域の特色を知り、発表内容をまとめた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験をまとめ、「セカンドスクールで学んだこと」をテーマに学校文集「ぶさんの子」の作文を書いた。
- ・事前に調べたことに加えて、実際に行って気付いたことや学んだことをまとめて、自分の学習課題に基づいたガイドブックを作った。
- ・3学期には、4年生に向けてセカンドスクール報告会を行った。自分の学習課題について体

験したことや学んだことを伝え、4年生のセカンドスクールへの意欲付けを行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 出雲崎見学

出雲崎見学では、社会科で日本各地の地形について学んだこともあり、太平洋側と日本海側の地形や気候の違いにも目を向けることができた。また日本海の様子や海岸線の特徴についても、理解を深めることができた。

2 上越市立水族博物館見学

昨年度のプレセカンドスクールでは、ハイキングを行うことで植物や山々の名前を知り、南魚沼市の自然に関する理解を深めた。今年度は日本海に生息する生き物について学習するために、上越市立水族博物館見学をした。普段は見られない深海に生息する魚や小魚の群れの様子など、熱心に見学する様子が見られた。実際にヒトデや魚に触れることができる場所では、生き物の生態についての理解を深めた。

<社会体験活動>

1 稲刈り体験

民宿の方の指導で、稲刈りの手順や鎌の扱い方を知ってから稲刈りを行った。4人組の稲刈り班を作り、「刈る、束ねる、結ぶ、運ぶ」という作業を分担して行った。ひもで結ぶ作業が難しく、友達と協力し合って作業を行った。きつく結ぶことではざかけをしたときに稲が落ちないことを知り、農家の方の苦労や工夫を知ることができた。



【稲刈りの様子】

稲刈りの後は、機械で脱穀する様子を見学した。機械がない時代は全て手作業で行っていたことを知り、農業の大変さと美味しくお米を食べられる有り難さを実感できた。

また、カントリーエレベーターを見学することで、収穫された米がどのようにして保存されているのかを学ぶことができた。質問タイムでは、働いている人の数や仕事の内容など多くの質問があり、意欲的に見学できた。

2 農業体験

各宿の方に、さつまいもや枝豆の収穫の仕方やどのように育ててきたかを教わった。どこが花で、どこが実なのかなど、植物のつくりにも興味をもって活動していた。泥だらけになりながら、収穫の大変さを実感した。

3 河原体験(火おこし体験)

河原では、マッチと新聞紙と薪を使って火おこしをした。なかなか火がつかず苦労しながら

も、薪の組み方を教わり、試行錯誤しながら取り組んだ。どの班も火をおこすことができ、豚汁作りに取り掛かった。作っている間も火から目を離さず、火の大きさを調整することができた。出来上がった豚汁と、朝に自分で作ったおにぎりを食べたが、「おかわりしたい」という児童が多く、各宿の豚汁の鍋は空になった。火おこし体験を通して小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり温めたりすることができることを実感していた。

＜生活・文化体験活動＞

1 笹団子作り体験

地域の方に笹団子の作り方を教わった。あんの量や包み方などをよく見て、集中して取り組んでいた。「なぜ笹で包むとよいのか」について教わり、昔の人の知恵を知ることができた。できたての笹団子を食べ、「柔らかい」「おいしい」などの声があがった。自分で作った笹団子をおいしく食べることができ、教えてくれた地域の方に感謝の気持ちをもつことができた。

2 座禅体験

龍澤寺で座禅体験をした。ほとんどの児童が警策で打たれることを希望し、「バシッ」という音が境内に響いた。上杉謙信とゆかりのある寺であることや龍澤寺の歴史についても住職から聞き、日本文化や現地の歴史に触れるよい体験になった。



【座禅体験の様子】

3 塩沢小学校との交流会

塩沢小学校の5年生と交流会を行った。学校・地域紹介では、互いの地域の違いに気付き、南魚沼市の自然の豊かさを感じると同時に、自分たちの地域のよさについても実感することができた。後半の遊びの時間には、互いに交流が深まるように、混合チームを作ってゲームを行い、仲を深めた。

交流会の後には、6年生による学校案内があった。雪国ならではの設備や学校の造りに驚き、6年生の説明を熱心に聞いていた。地域の小学生との交流は初めての試みだったが、短い時間の中で互いのことを知り、交流を深めることができた。

4 塩沢紬の機織り、紙風船・万華鏡作り体験

各自で工夫を凝らして、紙風船・万華鏡作り体験を行うことで、現地の特産品を知り、伝統工芸への理解を深めた。形や大きさ、色合いを考えて、楽しみながら体験することができた。

塩沢紬の機織り体験では、一人5センチメートルずつ織り、クラスで1枚の布に仕上げた。色とりどりの作品は、学校の展覧会でも展示した。昨年度のプレセカンドスクールでも体験したので、機織りのコツを早くつかみ、手際よく織る児童が多かった。

5 鈴木牧之記念館見学

鈴木牧之の記念館では、雪国の伝統的な家の工夫や暮らし方などを知り、東京での生活との違いに気付くことができた。昔から伝わる知恵を知り、受け継がれていることを学んだ。

6 勤労奉仕活動

最終日、お世話になった宿の方に対して感謝の気持ちを込めて活動をした。階段や廊下を丁寧に水拭きしたり、掃除機をかけたりと、感謝を行動で示すことができた。「他に掃除をするところはありますか」「次は何をすればよいですか」と自分から声をかけ、進んで取り組むことができた。

○児童の感想

- ・心に残ったのは、稲刈り体験だ。普段は当たり前のように食べていた米を作ることがこんなに大変だとは知らなかった。
- ・宿で1週間過ごして、友達と意見が合わないことがあったが、みんなで話し合っ解決した。男女の仲が深まったと思う。
- ・塩沢紬の機織り体験では、手作りのよさを感じた。今は機械で何でも作ることができるが、「機織り」という伝統文化を大事にしたい。
- ・宿のお父さん、お母さんが優しく、毎日食べるご飯も楽しみだった。またこの宿に泊まりたいと思った。
- ・塩沢小学校には、長靴が入る靴箱があったり、天体望遠鏡があったりと、自分の学校にはない物があり、おもしろかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

ファーストスクールでは、「自分のことは自分で」「集合時間には遅れない」「安全に気を付けて活動する」といった基本を学ぶことができた。今回のセカンドスクールでは、長期間の宿泊なので、それらの基本的なきまりを、気を緩めずに最後までしっかり守ることをめあてにした。担任の指示がなくても児童が声をかけて行動できるようになったのは、成長の一つである。また、宿の方や地域の小学生など、多くの人と関わり合う中で、人との結び付きを学ぶことができた。友達同士の関係においても、「どうすれば互いが気持ちよく過ごせるか」を学び、普段の生活に生かされている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・宿が近く、教員が見回りをしやすかった。緊急の場合もすぐに駆けつけることができたのがよかった。
- ・稲刈り体験、火おこし体験、万華鏡作り体験など、様々な体験活動に宿の方が積極的に関わってくれたおかげで、交流を深めることができた。
- ・様々な体験活動ができたことは有意義であったが、ガイドがあった方がよい活動と、なくてもよい活動とを見直していきたい。

第四小学校

長野県飯山市

5月30日～6月5日(6泊7日)

参加人数 男子26名 女子22名
計48名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山市での生活や体験活動を通して知的好奇心や探究心を喚起し、山地に暮らす人々の生活の工夫について学ぶ。
- ・生活の自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・学んだことや体験したことをファーストスクールに戻ってからの学習や生活に活かす。
- ・地域の良さや課題を考える力を身に付ける。
- ・豊かな情操や感性、人間関係を育むとともに、自主性や協調性を育てる。

○日程表

5月30日(木)		5月31日(金)		6月1日(土)		6月2日(日)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食	9:00	田植え体験	9:00	とん平ハイキング	9:00	森林観察
13:30	戸狩到着・開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:00	飯山について	13:30	雪国の暮らし	15:00	手すき和紙体験	13:30	料理名人に学ぶ
15:00	箸作り	15:00	遊び名人に学ぶ	16:30	手紙書き		
17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴、星空観察	19:00	入浴	19:00	入浴
	語らいの時間		語らいの時間		語らいの時間		語らいの時間
	今日の収穫		今日の収穫		今日の収穫		今日の収穫
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

6月3日（月）		6月4日（火）		6月5日（水）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	飯山市内見学	9:00	焼き板作り	8:00	荷物整理
12:00	昼食		笹ずし作り		部屋掃除
13:30	わらざうり作り	12:00	昼食	9:30	閉校式
16:30	健康観察	13:00	里山の暮らし体験	10:00	戸狩出発
17:30	夕食	14:00	セカンドスクールのまとめ	12:00	昼食
19:00	キャンプファイヤー	16:00	宿の方への手紙	15:00	学校到着・到着式
20:30	入浴	17:00	健康観察	15:30	解散
	語らいの時間	17:30	入浴、お別れ夕食会		
	今日の収穫	19:00	感謝の交流会		
			今日の収穫		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・本やインターネットなどを活用して自分の調べたい内容について情報収集し、目的地である飯山についてのイメージを膨らませる。
- ・興味のあるテーマを選択し、新聞にまとめ、発表する。
- ・セカンドスクール全体を通しての課題を設定する。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの体験や課題についての学びを新聞にまとめ、発表する。
- ・お世話になった方々を招き、飯山で学んだことと感謝の気持ちを伝える交流会を企画、運営する。
- ・総合的な学習の時間や社会科の学習と関連させ、新たな課題について調べ学習を行う。
- ・4年生が有意義なセカンドスクールを実施できるよう、自分たちの経験からのアドバイスやイメージづくりのヒントになるようにセカンドスクール発表会を行う。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 とん平ハイキング

とん平高原ハイキングでは、各宿の方から飯山で見られる植物や生き物の説明を受け、児童は武蔵野市との環境の違いを感じていた。教えてもらった草遊びで夢中になって遊んでいる場面もあり、武蔵野市では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむことができた。

途中のリフト乗り場では飯山市内を一望し、人々が昔から守り抜いてきた里山について話を聞くことができた。とん平の頂上では、盆地の様子を一望できた。山と川が長い年月をかけて創り出した地形の美しさに、児童も感動している様子だった。

2 ブナ林観察

鍋倉山の「森の家」の施設内にある雑木林の中を散策し、宿の方からブナの木が果たす役割や伐採の歴史など詳しく説明を受け、標高の高い地域で見られる「ブナ林」について理解を深めた。ブナを漢字で書くと「樺」。人々が以前ブナを「木では無い」といってたくさん伐採してしまったという話は、特に児童の印象に残ったようで、自分たちの生活を振り返り、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。今年度は雪がまだ残り、木の根元にある雪だけが解けて見られる「根開き」を目の当たりにし、その幻想的風景に見とれていた。

<社会体験活動>

1 田植え体験

体験前に宿の方から、おいしい米を作るには冷たい水やよい土作りが必要であること、また天候によって水の量を変化させるなど毎日の世話が重要であることなどを教わった。田植え体験では、初めは土の感触やそこに棲む生き物に驚き、声を上げたり、入ることに抵抗をみせたりする児童もいたが、しばらくすると夢中で田植えに取り組む姿が見られた。ひもを使って苗を一つずつ手作業で揃えて植えることで、「おいしい米を作るためにこのような工夫や努力があったんだ」と感じ取った児童が多くいた。飯山の棚田の様子も、その下に大きく広がる信濃平の田んぼの様子も見ることができ、帰京前後に学習した社会科の農業や食糧生産への関心、理解も深まった。

2 手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが行われていた。地域に伝わる伝統工芸を学んでほしいと考え、飯山市内でも数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行った。飯山和紙を折って染料で染める活動をするクラスと、実際に手すきで和紙を作るクラスに分かれて学習を行った。職人さんの和紙に対するこだわりが工場内の雰囲気に出ており、児童も緊張感をもって集中して作業をしていた。一つ一つのこだわりが伝統工芸を作り上げているということに対して、児童も理解を深めた様子であった。

<生活・文化体験活動>

1 箸作り

セカンドスクール滞在中、毎日の食事で使用する箸なので、児童もよい箸を作ろうとまだ使い慣れない小刀の使い方を一生懸命聞き、竹を削っていた。作業が思うように進まない児童もいたが、宿の方に教わりながら、全



【箸作り】

員が箸を完成させることができた。宿の方に遠慮がちであった児童も、時間を共有する中で徐々に打ち解けていった様子であった。

2 わらぞうり作り

児童は指導員の先生方からアドバイスをもらいながら、2時間以上も座ってわらぞうり作りに取り組んだ。根気のいる作業であった分、完成したときの喜びも大きく、実際にわらぞうりを履いて感触を確かめながら歩いたり走ったりする児童の姿が見られた。雪国の生活や人々の工夫を知るとともに、わらぞうり一つを作り上げるために多くの時間を費やすことを感じ取ることができた。



【わらぞうり作り】

○児童の感想

- ・私のセカンドスクールを一言で表すと「ふれあい」です。人と自然どちらもたくさんふれあいましたが、私は人とのふれあいをとても感じました。理由は二つあります。一つ目は、友達とのふれあいです。一番身近にいたからこそ、けんかをしました。しかし、みんなで話し合い、お互いの気持ちを理解することで打ち解け合うことができたと思います。二つ目は、宿のお父さん、お母さんとのふれあいです。お父さんには一日目の箸作りや二日目の遊び名人のどろだんご作りなど、たくさんのことを教えてもらいました。お母さんには、毎日14人分のご飯を作ってもらいました。私は、これから友達など人との関わりを大切にしていきながら人と関わりたいです。
- ・僕はセカンドスクールで初めて経験したことがたくさんあります。僕はこの中でも一番楽しかったのは田植えです。今では機械であるのが主流ですが、人が植える体験をやるので最初は「大変そう」と思っていたけれど、それは違いました。始めは真っすぐ植えられなかったけれど、徐々に真っすぐ植えられるようになり、「楽しい」と思えるようになりました。
- ・私のセカンドスクールを色で表すと「にじいろ」です。セカンドスクールでは仲間と喜怒哀楽を共に過ごし、いろいろな気持ちを経験したからです。また、セカンドスクールで私の心に二つの言葉が刻まれました。一つ目が「絆の深まり」、二つ目が「初めての経験」です。「絆の深まり」は、同じ仲間と7日間共に過ごして、つらいことや悲しいことはもちろんあったけれど最終的には「絆の深まり」が感じられました。「初めての経験」はセカンドスクールの全てでした。飯山に行ったこと、お父ちゃん・お母ちゃんに会ったこと、友達と約7日間ずっと共に過ごしたことの全てが「初めての経験」でした。セカンドスクールを一言で表すと「充実した7日間」です。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

本校では、セカンドスクールを第5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から3学期まで、今年度は63時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名 (・は主な内容)
1 学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』 4月～6月 (35時間、うち現地では30時間) 「飯山ってどんなところ？」 ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習のテーマを選択し、インターネットを活用した調べ学習を行う。 ・調べ学習でまとめたことを、ワークシートにまとめ、情報交換を行う。
	「セカンドスクール」 5月下旬 ・現地での体験による課題の追求 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見
	「セカンドスクールをまとめよう」 ・事前学習や現地で学んだことを新聞に表現する。
2 学期	『飯山からの贈り物①』 10月～12月 (16時間) 「セカンドスクールを伝えよう」 ・セカンドスクールを振り返り、新たな課題を話し合う。 ・新たな課題について調べ、まとめる。 「セカンドスクール交流会」 ・宿の方たちへの感謝の気持ちを伝える。
3 学期	『飯山からの贈り物②』 (12時間) ・セカンドスクールで見つけた新たな課題である環境についての調べ学習 「総合の学習のまとめをしよう」 ・セカンドスクールを中心とした1年間の総合まとめ ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事前学習を計画的に行ったことで、様々なテーマについて本やインターネットで調べたことを計画的に記録し、セカンドスクールでの学習や事後学習に生かすことができていた。飯山市内見学で行う、飯山の歴史や産業についての学習を意図的に行ったのもよかった。
- ・飯山の自然に親しみ、宿の方の温かさに触れ、武蔵野市ではできない体験をすることができた。現地の方からの体験談や実際の物を目にしての話は児童にとって生きた学びになっていた。
- ・宿数が6宿から4宿に変わったことから、部屋がせまく児童のストレスが高まった。

第五小学校

新潟県南魚沼市

9月12日～9月18日(6泊7日)

参加人数 男子37名 女子34名
計71名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と触れ合ったり、体験したりすることを通して、地形や自然、文化の大切さを理解する。
- ・食料生産や地域の食文化への理解を深める。
- ・進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を育成する。
- ・相手や目的に応じて、東京都と新潟県の違いについて分かりやすくまとめ、表現できる力を育成する。
- ・自ら進んで活動したり学習したりしようとする態度を養う。
- ・一人一人のよさを認め合いながら協力し、問題の解決に向けた探求に取り組もうとする態度を養う。

○日程表

9月12日(木)		9月13日(金)		9月14日(土)		9月15日(日)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:30	バス出発	7:30	朝食	7:15	朝食	7:30	朝食
11:30	八海山到着	9:30	農業体験 稲刈り	8:15	坂戸山登山	9:00	自然観察(上の原)
12:00	昼食	12:00	宿帰着・昼食	12:00	宿帰着・昼食	11:00	ぬか釜炊爨
13:00	八海山ロープウェイ						
14:30	開校式	14:00	雲洞庵 座禅体験	14:00	農業施設見学	14:30	郷土食(ちまき)作り
15:00	マイ箸づくり	16:00	民宿帰着	16:30	民宿帰着	16:30	洗濯・入浴
16:30	入浴	16:30	入浴	17:00	洗濯・入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ
20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

9月16日(月)		9月17日(火)		9月18日(水)	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:30	自然観察(ブナ林)	9:30	五十沢小学校との交流	9:30	学習報告会
12:00	昼食	12:30	昼食(給食)	12:00	昼食(宿食)
13:30	いたけバックセンター見学	13:30	五十沢小学校出発	13:00	閉校式
16:00	民宿帰着・入浴	15:30	民宿ごとの活動	16:30	学校着
18:00	夕食		夕食・感謝の会	16:40	帰校式
19:00	学習のまとめ	19:00	入浴		解散
			学習のまとめ		
20:30	健康観察	20:30	健康観察		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

米どころである南魚沼市でセカンドスクールを行うということで、大きなテーマを「米」として各自が「なぜ、おいしいお米が生産できるのか」や「おいしいお米と水や気候はどのような関係性なのか」など課題を設定し、テーマごとの調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

(1) 新たな課題の設定

事前学習のテーマを深めるとともに、現地での学習に基づいて新たな課題を設定し、調べ学習を行った。ここでは、「米」「気候、地形」「郷土食」「文化」「雪国の暮らし」の5つのテーマに絞り、グループごとに課題を深めた。調べた内容に関しては、12月に「六日町交流会」で発表を行った。

(2) 六日町交流会

お世話になった六日町の方をお迎えして交流会を開催した。感謝の気持ちを伝えたり、おにぎりパーティーを開催するなどして交流を深めた。

また、「4年生」「6年生」「保護者」「六日町の方」にセカンドスクールの学習成果を発表した。発表の方法としては、ICT機器を用いながらプレゼンテーションを行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

八海山展望台にのぼり、地形や気候についての学習を深める活動



【八海山展望台より】

を行った。事前に学習していた「米作りに適した地形」について実際に高い位置から確認することができた。

2 上の原地区における水生生物の観察

上の原地区の小川や池などで、水生生物の観察を行った。グループごとにインストラクターの説明のもと、水生生物を採取した。採取した水生生物を持ち寄り、指導員の説明のもと、採取したすべての生物を全体で共有した。都会では、決して見ることのできない生物を見たり、実際に触れたりすることができ、貴重な時間となった。

3 ブナ林ときのこ

後山地区で、ブナ林の中に入り自然観察を行った。林の中の植物や多種多様のきのこについて、ガイドの方から説明を受けながら学習を進めた。きのこの生態について詳しい説明を受けたり、実際に採取して観察したりする中で、新たな課題が生まれ、事後学習に生かすことができた。



【ブナ林での自然観察】

<社会体験活動>

1 農業体験（稲刈り及びはざかけ）

昔ながらの稲を刈る方法や稲を乾燥させる方法を体験した。鎌を使って稲を刈ったり、藁を使って刈った稲を束ねたりする活動を行った。その際、落ち穂を落とさないことや一つ一つ丁寧に作業を行うことなど、日頃食べているお米の収穫作業の大変さを改めて実感できた体験となった。



【稲刈り体験】

2 カントリーエレベーター及び精米所の見学

社会科で学習したカントリーエレベーターを実際に見学した。教科書では、分からなかった大きさや迫力を感じることができ、学んだことを深く理解することができた。さらに、働く方の「安全」「安心」「清潔」への強い思いやそのための工夫について説明を受け、働く方の「信念」や「責任」について肌で感じることもできる貴重な機会となった。



【精米所の見学】

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

「六日町の郷土食」を自分たちの手で作り、それを食するという活動を行った。民宿の方やインストラクターの指導のもと、普段経験できない調理実習に取り組むことができた。内容は、「ちまき」「まいたけご飯」「もちつき」「ぬか釜炊爨」「うどん打ち」と様々なものを体験することができた。ぬか釜炊爨では、もみ殻やわらなど稲刈りから精米までの過程で出たものを余すことなく利用していることに気付き、先人の知恵のすばらしさを実感した。

2 民宿での生活

家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げ等の活動にも取り組んだ。はじめのうちは、うまくいかないことも多く苦戦続きではあったが、指導員や民宿の方の指導のもと、最終日に向かうにつれ上手にできるようになっていく様子が見られた。また、学年のテーマである「協働」を目標に、仲間と協力して1週間を過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところに気付いたり、協力して生活していく事の大切さに気付いたりと友情を深めることができた。最終日には、お世話になった新潟の「お父さん」「お母さん」に「感謝の会」を通してお礼の気持ちを伝えた。

3 雲洞庵での座禅体験

1300年の歴史を誇る雲洞庵の雰囲気、子どもたちは「歴史の重み」を全身で感じる事ができた。また、ガイドの方の説明を受け、日本の歴史に興味を抱いている様子だった。座禅体験では、住職の方から、情報が常にあふれている現代社会において、心を無にしてしばらく自然の中に身を置くことの大切さを教わった。耳を澄ますと心地よい「自然の音」を感じることができ、有意義な時間を過ごした。



【雲洞庵での座禅体験】

○児童の感想

- ・カントリーエレベーターでは、教科書では分からなかった大きさや迫力に圧倒されました。また、おいしいお米を届けるために工夫や努力をしていることがわかりました。
- ・稲刈り体験では、足元がぬかるんでいて、腰をかがめるだけでも体力を消耗しました。お米を収穫するという米作りで一番良いところを体験したことでより農家の方の苦勞がわかりました。
- ・坂戸山登山では、友達と声を掛け合うなど協力して登りきりました。頂上に着いた時の達成感は格別でした。
- ・上の原地区での自然体験では、東京では見たことのない水生生物を見ることができてうれしかったです。生物のすみかである豊かな自然環境を私たちが守っていかなくてはならないと感じました。
- ・郷土食作りでは、インストラクターの方に教えてもらい様々な料理を作りました。昔の人から受け継がれてきた味に驚くとともに、その知恵に驚かされました。
- ・友達と1週間過ごす中で、大変なこともあったけど、それ以上に協力して頑張ったことが多く、とても充実した1週間でした。今まで以上に友達と仲良くなることができました。
- ・セカンドスクールでは、様々なことを学びました。学んだことをファーストスクールで生かし、カッコいい五小の最高学年になりたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、学年のテーマでもある「協働」について考えながら行動することができた。「自分のことは自分でやる」ということだけでなく、「仲間と協力して、生活をする」という活動の様子が多くみられた。ファーストスクールでの生活にも、セカンドスクールでの経験を生かし、最高学年になるに向けてさらに成長していくことを期待したい。

宿での生活では、毎日「お父さん」「お母さん」から温かいサポートを受けながら充実した一週間を送った。宿の方や生活指導員が何気なくやってくれていることは、決して当たり前のことではなく、感謝してもしきれないほどのものであることに、日を追うごとに気付くことができた。そして、「感謝の会」や「学習報告会」で精一杯感謝の気持ちを伝えようと、努力する姿が見られた。「思いやり」や「温かい人間関係」について肌で感じた子どもたちが、ファーストスクールでも生かしていけるように、セカンドスクールでの出来事を想起させながら指導にあたっていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

事前学習を「お米」に絞ったことで、児童に活動内容に対して明確な課題意識をもたせることができた。また、事後学習において、現地での疑問から新たな課題を設定したことにより、より意欲的に学習に取り組むことができた。

本校では、事後学習の内容を「六日町交流会」で報告している。しかし、毎年発表内容や方法が同じになっている課題がある。今後、児童の実態に応じた発表内容や方法を検討していく必要がある。

大野田小学校

長野県飯山市

9月19日～9月25日(6泊7日)

参加人数 男子60名 女子64名
計124名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・武蔵野市と飯山市を比較して違いや共通点に気づき、それぞれの特徴について理解を深める。
- ・調べ学習や体験的な活動を通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択する技能を高める。
- ・課題解決の方法を考えたり、調べ学習や体験的な活動を通して自分の考えを持ったりする力を育成する。
- ・学習したことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝える力を育成する。
- ・長野県や飯山市の自然、文化、産業、オリンピックについて興味・関心を持ち、課題を見つけずすんで調べようとする態度を養う。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力や、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:50	小布施 SA 昼食	9:00	トレッキング	8:50	課題別学習①	8:50	課題別学習②
13:20	戸狩着、開校式	11:40	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	はしづくり	13:45	農業体験① (稲刈り・脱穀)	13:45	農業体験② (宿ごと)	13:30	自然体験
18:00	夕食	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	夕食(バーベキュー)
19:00	今日のまとめ	18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	入浴
21:00	消灯	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
		21:00	消灯	21:00	消灯	20:00	星空観察
						21:00	消灯

9月23日（月）		9月24日（火）		9月25日（水）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:50	課題別学習③	9:00	宿別プログラム②	8:00	荷物整理、大掃除
12:30	昼食		郷土料理体験	9:00	学習のまとめ
13:30	宿別プログラム①	12:00	昼食	10:20	閉校式
	宿別農業体験	13:00	宿別プログラム③	10:35	戸狩出発
17:00	入浴		クラフト体験	12:00	横川 SA 昼食
18:00	夕食	15:00	お礼の会準備	15:10	学校着、帰校式
19:00	今日のまとめ	17:00	入浴	15:40	解散
21:00	消灯	18:00	夕食		
		18:50	お礼の会		
		19:50	今日のまとめ		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「戸狩の観光大使になろう」というめあてのもと、セカンドスクールで「戸狩のよさ」について学習を進め、セカンドスクール後に4年生や戸狩の方に向けてプレゼン大会を行うという見通しをもたせて学習を行った。
- ・社会科と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用して、長野県飯山市戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。また、豊かな水を生かして生活をしていることや、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることを知り、これらの特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・長野県飯山市の自然や伝統や文化、産業について本やインターネットで調べてから個人のテーマを設定し、課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・国語科と関連付け、話し合い活動を生活班のメンバーで事前に行い、考えを深めるために大切なこと（比較する、関連付ける、結合する等）を理解させた。
- ・個人のテーマについて調べたことをまとめ、互いが調べたことを報告し合った。

2 事後の学習内容

- ・戸狩で学んだことや戸狩のよさについて話し合った。
- ・戸狩観光大使として、戸狩の民宿の方々と4年生、保護者に向けてプレゼン大会を行った。
- ・プレゼン大会用のスライドをタブレットPCで作成した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

2日目に民宿の方と共に光が原トレッキングを行った。長時間歩く中で、相手を励ましたり心配したりする声かけが見られた。あいにくの雨だったものの、たくさんの種類の虫や植物、山間の豊富な水を目の当たりにして、自然の美しさを感じることができた。

6泊7日という長い宿泊行事の最初に「苦しいことをメンバーと乗り越えた」経験は、その後の活動や生活において生かす姿が見られた。



【トレッキングの様子】

2 オリ・パラ学習（カヌー体験）

3日目から5日目の午前中に行った課題別学習の一つに、オリ・パラ学習を取り入れた。学校で事前学習としてカヌー元オリンピック選手を招いてカヌーに関するお話を伺っていたので、競技としての面白さを知った上で体験することができた。

子どもたちは、体験を終えて「思ったより操作が難しかった」という感想をもつ児童が多かった。昨年から取り組んだ内容であったが、オリンピック選手の努力にふれたり戸狩の地形に関心をもったり、充実した体験活動となった。



【カヌー体験の様子】

<社会体験活動>

1 稲刈り・脱穀体験

予定していた3日目が雨予報だったため2日目のハイキング後に稲刈りを行った。1時間以上かけて一生懸命稲刈りをしたが、用意した田んぼの一部しか刈ることができなかった。作業の大変さと機械の便利さを感じることができた。翌日行った脱穀は、千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、1粒も無駄にしないように手で取ったり拾ったりした。

社会科で扱った内容を実際に体験することで、実感を伴う学びとなった。



【脱穀の様子】

2 農業体験

宿ごとに農業体験を行った。トマトや枝豆の収穫、さつまいも掘り、野沢菜の間引きなどを宿の方に教わりながら全員で協力して行った。普段食べている物がどのように育てられ、収穫

されているか知ることができた。生産者の苦勞を知り、食への感謝の気持ちをもつことができた。

<生活・文化体験活動>

1 はし作り

1日目の開校式の後、各宿に移動して最初の体験活動「はし作り」を行った。小刀とやすりを使って、セカンドスクール期間中、自分自身が使うはしを作った。竹を削る作業が予想以上に難しく、作業が思うように進まない児童もいたが、教え合いながらなんとか完成させることができた。宿の方や児童同士のコミュニケーションをとることができ、1週間のセカンドスクールが始まるという気持ちを新たにもつことができた。

2 郷土料理体験

宿ごとに長野県飯山市の郷土料理である笹ずしを作った。笹ずしの起源について説明を受け、いもなますや天井焼き、その他の郷土料理も作った。家庭科で学んだ包丁の使い方を活用したり、自分たちで作った料理を食べて食への興味を高めたりすることができた。



【笹ずし作りの様子】

○児童の感想

- ・雪が多く降る地域は大変だが、歴史を学び、地元の人々は雪を活用して生きてきたことを知った。自然を活用して観光業に力を入れていることが分かった。
- ・戸狩のよさは、豊かな水があるところだと感じた。豊かな水を守り、みんなで協力して生活していることが分かった。
- ・武蔵野市にはない自然を間近で見ることができた。それぞれの土地のよさがあると思ったので、他の土地のよさも知りたいと思った。
- ・事前に様々なことを学べたが、戸狩に暮らす人の生活については実際に自分自身が生活をして気付くことがたくさんあった。
- ・話を聞く大切さ、みんなで協力するときに大事なこと、整理整頓の仕方など、たくさんのことを学ぶことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

事前学習において、戸狩の気候や土地の特色を調べるのに加え、抱えている問題についても学んだ。単元を「戸狩観光大使になろう」と設定し、事後にプレゼン大会を設けたことで、子供たちは戸狩のよさを見つけるという目標をしっかりとってセカンドスクールを過ごしていた。どう情報を集めてどのように話し合い、考えていけばよいかを知るいい機会となった。

共同生活を通して、集団行動において大切なことを多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、

時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に変化が見られた。今後も継続していけるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・昨年度と同様に、今年度も9月中旬に実施した。米の収穫時期ということもあり、戸狩の特色を存分に味わえるプログラムを組むことができた。また、多少の雨でも実施できる内容が多く、予定を組みやすかった。今年度からハイキングの場所を光が原に変更したことで、より自然を感じられるプログラムになった。
- ・昨年度から始めたカヌー体験は、自然を感じながら運動の楽しさや難しさを味わい、児童にとって最も思い出に残った活動の一つになった。話し合い活動を毎日設定したことで、意見を出し合うよさを実感させることができた。
- ・宿数を減らし、1クラス2宿ずつ合計8宿としたことで児童の様子を把握しやすかった。各宿に指導員を男女1名ずつ配置できたので、生活自立を促したり児童が指導員に相談しやすくなったりして、集団生活の基礎を養うことができた。また、例年よりもホームシックになる児童が少なく、6泊7日という長い期間でも安心して宿での生活を送ることができた。

<課題>

- ・宿別の郷土料理体験や農業体験での食物アレルギーの確認が遅くなった。追加で食べるかもしれない食物に関しては、普段の食事と同じく、早いタイミングで確認できるようにしたい。
- ・途中帰京の児童がいた場合、保護者に迎えに来ていただく際の留意点を整理しておく必要がある。
- ・最終日に行う全体のまとめの学習内容や、それまでの学習の進め方について検討する必要がある。

境南小学校

長野県飯山市

9月18日～9月24日(6泊7日)

参加人数 男子38名 女子38名
計76名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自己のよさを理解し、集団生活の中で折り合いを付けながら生活する力を養う。
- ・友達と協力し、話し合いを通して他のよさを認め、理解する力を育む。
- ・飯山の自然や暮らしの特徴を理解し、得た情報を取捨選択しながら考え、表現する力を育成する。
- ・課題別のグループにおいて、情報の交換やよりよいまとめ方を考え、また飯山のよさや課題について、調べたことをもとに解決策を考える力を育む。
- ・集団生活を通して、自分の役割に対する責任感を育成する。
- ・力を合わせて目標を達成し、よりよくしていこうとする態度を養う。
- ・飯山の人々との交流や、集団生活を通して他者理解や協調性を学ぶ。

○日程表

9月18日(水)		9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)	
7:45	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校発	6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
11:40	小布施SAにて 休憩・昼食	7:10	朝食	7:10	朝食	7:10	朝食
13:00	開校式	9:00	稲刈り体験(手刈り)	9:00	里山体験	8:30	とんだいらハイキング
13:30	各民宿へ	11:30	餅つき(昼食)	12:00	昼食	11:30	とんだいら発
14:30	箸作り	13:00	稲刈り体験(機械)	13:30	野菜の収穫	12:00	昼食
15:30	周辺散策	14:30	脱穀作業		たき火体験	14:00	課題別グループワーク
16:30	夕会	15:30	周辺散策	14:30	すいとん作り	15:30	夕会
16:45	入浴	16:30	夕会	16:30	夕会	16:00	入浴
17:00	学習の記録	16:45	入浴・学習の記録	16:45	入浴・学習の記録	17:00	学習の記録
17:45	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
21:00	就寝	19:00	お別れ会準備	19:00	手紙書き	19:30	お別れ会計画
		21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月22日（日）		9月23日（月）		9月24日（火）	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
7:10	朝食	7:10	朝食	7:15	朝食
8:30	ブナ林散策	9:00	フィールドワーク	9:15	閉校式
12:10	ブナ林発	11:30	伝統食作り	9:30	飯山発
12:40	昼食	12:00	昼食	11:20	昼食
14:00	宿別体験活動	13:00	周辺散策	14:40	学校着
16:00	夕会	14:00	民宿大掃除	14:55	帰校式
16:15	入浴・学習の記録	16:00	夕会	15:00	解散
17:00	お別れ会準備	16:15	入浴・学習の記録		
18:00	夕食	17:30	夕食（ハ・ハ・キュー）		
19:00	お別れ会リハーサル	19:00	お別れ会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

①総合的な学習の時間

- ・前年度セカンドスクールを行った、6年生の発表を聞きに行った。
- ・飯山について調べ、自らの学習課題を設定した。

②社会科「米作りのさかんな地域」

- ・日本の「自然環境」と「生活と米の生産」を関連付け、米作りは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを知った。
- ・地図や統計などの資料を活用して、米の生産に従事している人の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて必要な情報を集めた。

2 事後の学習内容

- ・誰に伝えたいのか（今回出たのは、4年生・保護者・指導員・宿のお父さんお母さん・地域の方）、どうすればよりよく伝えられるかを話し合うことで、意欲につながった。
- ・各自の学習課題の現地では調べることができなかった内容について、書籍やインターネット等を利用して調べ学習を行った。
- ・コンピュータのスライド資料や壁新聞、フリップボードなど各グループが発表方法を選択し、資料を作成した。
- ・今回の発表についてどのように知らせるかを話し合い、招待状やポスター、ビデオレターの作成を行った。
- ・何を見せたいのか、知ってほしいのかをはっきりさせてからまとめるように指導した。また、

発表を聞いてもらうために、資料はイラストや図を中心に作るよう声を掛けた。

- ・事後学習の中で調べたことよりも、セカンドスクールで体験したことを中心に発表することとした。
- ・発表後に感想を集め、内容を共有し反省を行った。成果と課題・改善点を出すことで、6年生の時に言う「境南とことん研究所」につなげることができた。

○特色ある学習内容

<課題別学習>

事前学習の中で、探究したいことについてイメージマップを活用しクラスごとに話し合った。出てきた課題の中から自分の興味を惹かれるものを選択したことで、児童は意欲的に問題解決学習に取り組むことができた。また、「課題別グループワーク」の時間を確保したことで、体験の内容を整理することができた。それらを今までの経験や社会・理科・国語などの学習内容と関連付けて考えを広げ、疑問や課題を見付ける姿が見られた。その後、それぞれの課題について宿の方に話をきいた。

① 米作りについて

年間を通した作業や農業用機械について、写真を見ながら話を聞いた。農業人口の減少や使われていない田んぼについて質問し、これからの農業を深く考える機会となった。

② 雪国の暮らしについて

雪が降ったときの写真等を見ながら、雪の処理方法や活用方法、雪に備えた家作りの工夫等の話を聞いた。武蔵野市との違いについて考えることができた。

③ 飯山の観光

観光客が何を目的に来るのかについて話を聞いた。飯山のパンフレットをもとに料理や季節ごとの楽しみ方があること、最近は外国人の観光客が多いことなどを聞いた。

④ 飯山の食について

飯山の郷土料理や特産物について、広範囲に話を聞いた。特産物は実物を見たことで、より関心が高まった。

⑤ 飯山の自然

宿を取り囲むたくさんの自然の中にどのような生き物がいるか話を聞いた。これまでに見付けた生き物の名前や生態を知ることによって体験と知識を結び付けることができた。

<自然体験活動>

1 とん平ハイキング

宿の方と一緒にハイキングに出かけた。悪天候のため、途中にあるスキー場のリフトの終点までとした。道中、ヌスビトハギを見付け、服につけて楽しそうにしていたり、カナヘビを見付けて興味深そうに眺めていたりという姿が見られた。また、斜面に作られた田んぼを見て、前日に行った稲刈り体験を思い出し、どのようにして田植えや稲刈りを行うのかを考える児童もいた。リフトの終点では、高台から稲刈りをする人々の様子、千曲川や飯山市の里山の様子を見ることができた。

2 ブナ林散策

現地のネイチャーガイドの案内でブナ林を散策した。ブナの木は、建築木材として使うことができないため、「櫛」という漢字を書くことや、最近は木のもつ保水力が見直されてきているという話は児童の印象に強く残ったようだった。ブナの保水力のおかげかたくさんのキノコが見られ、その性質や種類に興味をもち積極的にガイドに話し掛けていた。クロモジの枝を折り、香りを楽しむ活動も行った。



【ネイチャーガイドの話聞く児童】

<社会体験活動>

1 農業体験

午前中は手刈り、午後は機械による稲刈り見学と脱穀を行った。始めは束を全て切ることができなかつたり、結び方が緩く縛ったそばから稲が落ちていってしまったりと四苦八苦していた。途中、落ち穂の説明を受け、片っ端から落ち穂を拾い集める児童も見られ、気付けば全く落ち穂のない田んぼが広がっていた。はぜ掛けでは、刈った稲が次々と干されていく様子を見て歓声が上がった。次に見学したバインダーとコンバインによる稲刈りでは、手刈りとは、比べものにならないスピードに驚いた。しかしタイヤに踏まれてしまった稲を見て、手刈りと機械による稲刈り双方のメリットとデメリットについて話し合っていた。

午後は脱穀体験を行った。千歯こきや足踏み脱穀機を使い、次々と取れていくお米に感動していた。また稲穂についたお米を数える活動を通して、稲穂一つではお茶碗一杯分に遠く及ばないことを知った。自分達が普段食べているお米を作っている過程を知ることでもっと大切に食べようと思いをもちた児童が多かった。



【稲を束ねる児童】

<生活・文化体験活動>

1 伝統食作り体験

地方の伝統食である「笹寿司」と「おやき」の調理体験を行った。用意された錦糸卵や山菜、紅生姜などを笹の上に盛り付けたり、切り干し大根を生地で丁寧に包んだりしていた。そのあとの食事では、笹寿司をうまく食べることができないすがたも見られたが、笹の香りを楽しみつつ味わっていた。伝統食を味わうことで、4年総合の「食事から見える世界」と関連付け、いつから存在するのか、どうして食べるようになったのか等調べてみたいと意欲をもつ児童がいた。

○児童の感想

- ・食の大切さを学び、ご飯を残すことが減り、セカンドスクールで体験した米についての体験

が役に立っていると感じた。

- ・農業体験は、少ししかやっていないけれどとても大変だと学んだ。手刈りと機械による収穫にはそれぞれ良いところと悪いところがあると考えた。
- ・生き物と一緒に自然の中で暮らすことはよいことで、たくさんの自然の楽しみ方を学んだこのことをきっかけに自然を大切にしてくれる人が増えてほしいなあとと思った。
- ・地域フィールドワークでは、信号の形や消雪パイプの仕組みを知り、雪が多く降る外国ではどのような工夫があるか知りたかったと思った。
- ・仲間と協力することで、よいアイデアが出たり、準備を早く終わらせたりすることができた。協力することの大切さを学んだ。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・様々な体験や自然とのふれあい、町の様子が、そのまま児童の興味・関心に繋がった。途中に組み入れた課題別グループワークや帰ってきてからのグループ毎の話し合いでは、体験から生まれた疑問や課題に向かってどのように調べを進めていくか、熱心に話し合い、活動していた。調べていく中でもその方法がだめならどうするかと自分で考え行動していた。
- ・学んだことをどうしたいかと児童に問うたとき、様々な人に聞いてもらいたいという願いが生まれた。この「したい」という気持ちは、質の良い体験を多く行ったことで身に付いた力だと考える。またどんな人に聞いてもらいたいかを考えさせ、そのための準備も考えさせた。自分たちで話し合い、決定していく経験をセカンドスクールで学んだことで、このような教室内での話し合いが活発になったと考えられる。
- ・食について様々な体験をしたことで、食材に対する興味や作ってくれる人への感謝の気持ちが感じられた。給食の際だけではなく、社会科「これからの食料生産とわたしたち」の中で日本の農業や食料生産について真剣に考え、様々なアイデアを生み出していた。
- ・今まであまり他の児童と関係を作ることができなかった児童が、休み時間一緒に遊んでいる姿が多く見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・指導員の加配は、個別の対応を必要とする児童に対して非常に有効であった。
- ・宿の方とアレルギー、課題別学習、フィールドワークについて等多く打ち合わせを行った。今後は地図の用意やルートの確認、どのような学習が繋がっているかを事前に話す機会をもつことでより充実した活動にしていきたい。
- ・課題別学習を実施したことで、より多くのことに興味をもつことができた。課題別グループワークも情報を整理し、疑問や課題を話し合う場として有効であった。今後も実施できるような具体的な方法について引き継ぎが必要である。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月24日～9月30日(6泊7日)

参加人数 男子34名 女子30名
計64名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自分たちの住んでいる地域と比較し、地域の特性を生かした工夫や人々の努力に気付く力を身に付ける。
- ・宿舎等での生活を通して、友達と助け合いながら、自律的に生活する力を身に付ける。
- ・南魚沼の自然や文化・産業についての課題をもち、情報を収集し、課題を解決する力を育成する。
- ・学習を振り返り、目的に応じてまとめ、分かりやすく伝えられる力を身に付ける。
- ・自然との触れ合いを通して、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・集団生活や地域の人々の交流を通して、人間関係を深め、豊かな人間性を育む。

○日程表

9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
11:30	八海山到着	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:30	稲刈り体験	9:30	しいたけパックセン	9:30	三国川ダム見学
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食		ター見学	12:00	昼食
14:30	開校式	13:30	北辰小学校交流①	12:00	北辰小と交流給食		
			学校紹介			13:30	後山ブナ林トレッキング
			交流				
16:00	箸作り	16:00	周辺散策	14:00	北辰小学校交流②		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	お別れ会準備
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

9月28日(土)		9月29日(日)		9月30日(月)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	課題別学習 A 雪国の生活 B 魚沼の米 C 坂戸城跡 D 源流の学習	9:00	塩沢宿見学	8:15	大掃除
12:30	昼食	13:00	昼食	9:00	笹団子づくり
14:00	座禅体験	14:00	わら細工体験	11:30	昼食
18:00	夕食	17:30	バーベキュー	12:30	閉校式
19:00	入浴	19:00	入浴	13:00	上の原地区出発
21:00	健康観察・就寝	20:00	お別れ会	16:30	学校到着
21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝		帰校式
		21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別学習に向け、南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ、関心のあるテーマを決めた。本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくる。
- ・北辰小学校との交流会で行う学校生活の紹介やレクリエーションの準備をする。

2 事後の学習内容

- ・追究したい課題ごとにグループを作り、現地で学んだことに自分たちで調べてきた内容を加えてまとめ、4年生や保護者に発表する。

○特色ある活動内容

<課題別体験学習>

自分の課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりすることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。

1 雪国の生活

1,000 トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに驚いていた。六日町の駅前には消雪パイプや雁木、縦型信号機など設備などがあることを知り、宿周



【雪中貯蔵庫の見学】

辺では、高床式の家や雪を溶かす水路など町の中の雪国の暮らしの工夫を見付け、自然環境に合わせた人々の生活について学ぶことができた。

2 南魚沼の米

社会科で学習したカントリーエレベーターの見学を行い、収穫した粳をスムーズに受け入れる施設、トラックに積んだまま米を計量できる仕組みなど、関心をもって調べることができた。また、粳殻が乾燥、貯蔵、精米、パッケージされていく過程を知り、カントリーエレベーターが果たしている役割を学んだ。最後に南魚沼の米がおいしい理由について考え、豊かな自然環境を生かしながら、米作りに関わる人々がこうした施設や設備を使い、様々な努力や工夫を重ねていることに気付くことができた。

3 坂戸城跡

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったか、人工的にめぐらせた内堀、坂戸山からの景色や住居の跡などについて、実際に見ながら話を聞くことができた。「坂戸城はなぜ負けたことがなかったか」など、講師の方に児童の質問に答える形で分かりやすく説明してもらった。また、上杉景勝と直江兼続の生誕碑に刻まれた文字を調べ、地元の人々に親しまれていた2人の生涯を知る機会となった。

4 源流の学習

「川は、どこから流れてくるか」「川にはどのような生き物がいるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。川の源流に行き、水が湧く付近で二人一組になって生き物を探し、手で石を裏返して下に隠れている小さな生き物を観察した。サンショウウオを発見する児童もいた。その後、見つけた生き物をカップに入れ、互いに見せ合った。普段見られない生き物を見たり、話を聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。



【源流の学習の様子】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り)

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えもらい、作業を進めていった。また、落穂拾いをする宿の方を見て、一緒に拾いながら稲を束ねる姿も見られた。宿の方の米作り作業の一端を体験することでその大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食べられることを感じる事ができた。



【稲刈りの様子】

<自然体験活動>

1 後山ブナ林トレッキング

後山のブナ林をガイドの方と散策した。少し雨が降っていたが、枝葉が大きく広がっているブナ林の中に入ると雨で濡れることはなかった。ふわふわした腐葉土の上を歩いたり、ガイドの方に教わった笹笛を鳴らしたりしながら豊かな自然を存分に楽しむことができた。ブナの葉や実の特徴、水を蓄える働き、多くの生き物のすみかになっていることなど、ブナ林の役割を知り、自然環境や自然と共に生きる人々の暮らしについて学ぶことができた。

<生活体験活動>

1 郷土料理作り(笹団子)

各民宿で、宿の方や地域の方に教わりながら、笹団子作りに取り組んだ。地元の方が講師として来てくださり、交流しながら笹団子を作った。笹団子作りの仕上げには、しばる作業があった。昔ながらの作業にはじめは困っていたが、次第に慣れ、生き生きと活動に取り組み、出来上がった笹団子をおいしそうに食べていた。



【笹団子作りの様子】

2 わら細工体験

地域の方に手順を教わりながら一輪挿しを作った。わらという素材を生かした模様を考え、自分なりにデザインをし、個性豊かな作品に仕上げることができた。部屋に飾ったり、ペン立てにしたりするなど、それぞれ使い方も考えていた。これらの活動を通し、稲作で生じるわらを無駄なく活用し、様々な生活用品を作り上げる昔の人々の知恵に気付くことができた。



【一輪挿し作りの様子】

3 北辰小学校との交流

現地の南魚沼市立北辰小学校の5年生との交流を2日間にわたって行った。

1日目、互いの学校生活を紹介し、授業、休み時間、給食などの様子を伝え合った。その後、グループごとに校舎を案内してもらった。冬場に校庭が使えないため体育館が広いこと、授業でスキーを行うことなど、雪国ならではの学校生活に驚いていた。

2日目は、まず交流給食を行った。学校紹介の説明のおり南魚沼産のお米には甘みがあり、おいしく味わった。昼休みは、校庭や体育館で過ごし、午後は、本宿小の児童が考えたレクリエーションを行い、北辰小の児



【学校生活の紹介の様子】

童と楽しそうに遊ぶ姿が見られた。終わりの会での「環境も地域も違うけれど仲良くなれた。」の児童の言葉のとおり、さらに交流を深めることができた。

○児童の感想

- ・稲刈りは、思っていたよりも大変で、農家の人の苦勞を知ることができました。この体験を通して、お米を1粒も残さずに食べようと思いました。
- ・北辰小との交流は緊張したけれど、思い切って話しかけてみるとすぐに仲良くなり、そのあとのドッジボールや室内レクリエーションも一緒に楽しむことができた。
- ・最初は不安でしたが、友達と一緒に何事も全力でやっていくうちに楽しくなり、行く前と後で自分の気持ちが変わったことに気付きました。
- ・いつも笑顔で接してくれた宿のお父さんとお母さんの優しさに感動しました。自分たちの生活を支えてくれた人々に感謝したいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連

課題別学習では、事前学習において、社会科での「寒い土地の暮らし」や「米づくりのさかんな地域」の学習、南魚沼の調べ学習等を通して、更に調べたい課題を設定し、グループに分かれて学習を進めた。

事後学習では、課題別学習で学んだことを、模型を作ったり、実演したりしながら4年生に伝えることを通して、更に理解を深めることができた。

また、現地において多くの人々と関わり、自分たちの生活を支えてくれた人々の存在に気づき、感謝の気持ちをもつことができた。帰校後も自分から挨拶をすることや相手の気持ちを考えながら行動することなど、普段の生活に生かすことができるように指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

体験活動や宿での生活を通して南魚沼の自然や文化、それを支える人々の思いを感じ取ることができた。また、毎日の食事を通して、食への関心が高まり、食べ物を大切にしようとする心を育てることができた。

今年度から始まった北辰小学校との交流では、温かい雰囲気迎え入れてもらい、積極的に関わろうとする児童がとても多かった。互いの学校のよさを共有し、同じ5年生として仲良く活動することができた。

次年度の課題として、事前学習での課題追究の時間がもっと必要だったことが挙げられる。北辰小との交流活動の事前準備を早めに計画し、自分の課題を追究できるように時間を確保したい。児童が学習活動の見通しをもち、疑問をもったり、質問を考えたりしたことを友達や現地の方と共有するなど、より主体的な課題別学習ができるようにする。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月19日～9月25日(6泊7日)

参加人数 男子30名 女子27名
計57名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の自然や人々の生活等、課題解決に必要な知識を身に付ける。
- ・ 体験的な活動を通して、探究的な学習のよさを理解する。
- ・ 現地での学習を通して、課題解決のための情報を集め、整理、分析する力を育む。
- ・ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。
- ・ 集団活動を通して互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	7:00	朝食	6:30	朝会
13:00	八海山ロープウェイ乗車	9:30	稲刈り実習	9:00	しいたけパック工場見学	7:30	朝食
14:30	開校式					9:00	わらざうり作り
14:45	各宿到着	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:30	マイ箸作り	13:30	山カントリーエレベーター昇	14:30	各宿での活動	13:00	わらざうり作り
17:30	夕食	14:30	ちまき作り			15:30	周辺散策
18:45	天体観測	17:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
20:15	入浴	20:15	入浴	20:10	入浴	20:15	入浴
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)			
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔		
7:30	朝食	7:00	朝食	7:30	朝食		
9:00	後山ブナ林トレッキング	8:45	課題別学習	9:30	笹団子作り		
12:00	八色の森公園昼食	12:00	昼食	11:45	昼食		
13:30	各宿での活動			12:20	各宿お別れ式		
17:30	夕食(バーベキュー)	14:00	雲洞庵座禅体験	13:00	閉校式		
18:45	感謝の会準備	18:00	夕食	13:30	レイホー八海出発		
20:00	健康観察	18:45	感謝の会	16:30	学校着、到着式		
20:15	入浴	20:00	健康観察・入浴				
21:00	就寝	21:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の学習において、米作りのさかんな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。また、現地で質問したいことを事前に考え、関心を高められるようにした。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えて育て、生長を観察した。自分たちが稲刈りする稲は、どのように育つのかを体験から学ぶことができた。また、田植えの方法、稲の病気、米の種類や料理など、米に関する自分で立てた課題について調べ学習を行い、興味を広げることができた。
- ・セカンドスクールで行う体験活動と、水・米・歴史文化・水生生物の4つの課題について調べた。事前に体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への興味・関心を高め、学習を深められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・課題別学習で学んだことを他のグループの児童に発表した。他グループの発表を聞いたことで、それぞれのグループ活動について共有することができた。
- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを基にして、セカンドスクールの発表会を行った。自分が経験したことや事後にインターネットや本を使って深く調べたことを、実際の写真や図を使って分かりやすくプレゼンテーションソフトでまとめた。それを活用し、4年生に発表することで、これまでのセカンドスクールに関する学習のまとめをすることができた。また、南魚沼市から児童が刈った稲の一部を精米して送っていただいた。家庭科の学習で自分たちが関わった米を実際に調理することで、食への喜びとともに、農家の人の苦労や思い、食べ物の大切さを実感することができた。
- ・セカンドスクールを通して学んだことや考えたことなどについて作文にまとめ、振り返りを行った。また、宿の方や観光協会の方に学校に来ていただき、交流を深めることができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴（扇状地）や中央を流れる魚野川、流域の水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。

2 天体観測

天体観測所にて星空観察の学習をした。土星や木星を望遠鏡で観察することができた。また、星空についての映像資料を視聴することで、さらに理解を深めることができた。

3 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドの方3名と散策した。武蔵野市では見たことのない植物を見付けて、説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山に囲まれた地形ならではの山びこを体験し、笹笛を作ってみんなで遊ぶなど、五感を使って自然と触れ合い、楽しむことができた。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、現地指導員の方に鎌の使い方を丁寧に教えていただいたことで、初めはぎこちなかった稲刈りも、素早く刈り取ることができるようになった。集めた稲をまとめ、藁で縛ることが難しかったが、一つの米粒も落とさないようにという指導員の方の言葉から、一生懸命に落穂拾いをする児童の姿が印象的だった。稲刈りやはざかけの体験を通して、手作業での米作りの苦労を実感することができた。



【稲刈り体験】

その後、カントリーエレベーターを見学することで、収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。さらに、各宿でちまき作りをすることで、収穫から食べるまでの行程を一日で体験することができた。

米だけでなく、各宿の畑で野菜の収穫体験も行った。宿の方から話を聞きながら一緒に畑仕事をする中で、野菜を育てることの苦労とともに、自分たちで収穫した野菜を食べる喜びやそのおいしさを感じることもできた。

2 しいたけパック工場見学

雨により坂戸山登山が中止となったため、しいたけパック工場を見学した。工場の方と生産者の方から、菌床作りから収穫するまでの流れや収穫したしいたけを発送するまでについて学んだ。児童は、より自然に近い環境をハウス内に作っていることや徹底した品質管理を行っていることなど、おいしいしいたけを作るための工夫や努力を学ぶことができた。また、農家の方が児童の質問に対して丁寧に答えてくださり、とても有意義な時間となった。

<生活・文化体験活動>

1 わらぞうり作り

地元の方を講師に迎え、各宿でわらぞうりを作った。作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が作り上げることができた。また、同じ宿の友達同士で教え合い助け合う姿を多く見ることができた。

作ったあとは実際に履いて歩き、履き心地を確かめながら、生活の知恵を肌で感じ、昔の人々の暮らしを想像することができた。



【わらぞうり作り】

2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際に作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。

最終日に行った笹団子作りは、宿の方や地元の方との最後の交流となり、6泊7日の締めくくりの活動として、非常に有意義な時間となった。

3 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名利雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化的文化財を見学することができた。

<課題別学習>

1 水グループ(三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・三国川頭首工を見学した。また、施設の方の丁寧な説明を通して、ダムや頭首工の役割について理解を深めることができた。

2 米グループ(精米所・ぬか釜体験)

J Aの職員の方の説明や映像資料を通して、収穫した後の米がどのように精米されて、消費者まで届いているのかを学んだ。ぬか釜体験では、指導員の方に昔ながらの米の炊き方を教わった。炊きあがった米のおいしさにどの児童も驚いていた。

3 歴史文化グループ(鈴木牧之記念館、中島屋)

江戸時代の文筆家である鈴木牧之の記念館では、雪国の生活について著した「北越雪譜」や地域の特産品である「塩沢紬」について学んだ。中島屋では、雪国の伝統的な家屋の工夫や地域の風習について教わった。

4 水生生物(藤原水源)

現地指導員の説明を受けながら、岩場から湧き出す水源を見学したり、水辺の生き物を採集したりと自然に触れ合う活動を十分に楽しむことができた。特に生き物の採集は、一人一人網を持ち、小川の中や周辺を夢中になって探す姿が見られた。

○児童の感想

- ・僕はセカンドスクールで米に関することを中心に調べました。カントリーエレベーターや精米所を見学したことで、新潟の米がなぜおいしいか知ることができました。また、安心して食べてほしいという農家の人の工夫や思いを知ることができて良かったです。
- ・セカンドスクールでは、助け合い、支え合い、学び合いなどの「合い」について学びました。

一人ではできないことも仲間と協力したらできたことがあり、仲間の大切さを感じました。

- ・宿のお父さん、お母さんがいつも優しく気を配ってくれているのが印象に残り、本当に感謝しています。僕もお父さん、お母さんのような感謝される人になりたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「自ら学ぶ」「すすんであいさつ」「みんなで協力」という3つのめあてを立て、活動に取り組んだ。

家族から離れて過ごした6泊7日の集団生活は、貴重な経験として、児童一人一人の力となっている。その力を事後の活動でも引き出すため、学級・学年活動や行事等、大勢で一つの目標に向かって活動するときには、セカンドスクールでの経験を想起させることで、仲間と協力したり、励まし合ったりすることができると思う。

現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方との関わりを大切にしてきた。このような素晴らしい経験をするのができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方の協力があつたからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分で課題を見付け、それを解決していく力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

6泊7日の間、体験活動や各宿での集団生活を通して、武蔵野市では味わえない多くの貴重な経験をするのができた。昨年度に引き続き、11月に観光協会の方と宿の方を本校に迎え、交流会をすることができた。現地での交流だけでなく、自分たちの学校にお世話になった方が来てくださったことは、自分たちが迎える側となり、歌を聞かせたり、感謝の言葉を伝えたりするなど成長した姿を見てもらえる機会となり、児童にとって大きな喜びとなった。

また、毎日の食事を通して、南魚沼の食文化や、それを支える人々の思い、自然の豊かさを十分に感じ取ることができた。食への関心が高まり、苦手な食べ物でも一口食べるなど、給食の残菜も以前に比べて、減ってきている。

さらに昨年度の反省を生かし、今年度から課題別学習に新たなテーマとして水生生物を加えた。生き物に関心が高い児童も多く、主体的に活動に取り組む姿が見られた。他のグループにおいても事前学習で立てた質問をあらかじめ現地コーディネーターに伝えたことで、当日は丁寧に詳しく説明を受けることができ、課題解決へとつなげることができた。

次年度へ向けての課題は、1日かけて行っていたわらぞうり作りを、多くの児童が半日で作り終えることができていた点である。来年度は、現地コーディネーターと相談し、わらぞうり作りを午前中に行い、午後には従来雨天プログラムであったしいたけパックセンター見学を組み込むことにした。そうすることで、より児童が体験活動を充実させ、課題と向き合い、主体的に活動に取り組めるようにしていきたい。

井之頭小学校

長野県 飯山市

9月25日～10月1日(6泊7日)

参加人数 男子51名 女子32名
計83名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や伝統文化について話を聞いたり体験したりすることを通して、自然や伝統文化の大切さについて理解を深める。
- ・学習の場を移し、自然や地域の特性を生かした体験に裏付けられた、生きた学力の育成や学びの深まりを図る。
- ・集団生活や自然体験学習を通して、自らすすんで活動したり学習したりしようとする態度を養う。
- ・集団生活のルールを守り、信頼や友情、協力し合おうとする気持ちを育てる。

○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	戸狩到着 昼食	9:00	田んぼの話	9:00	飯山市巡り、体験	9:00	郷土食作り準備
13:00	開校式	10:00	稲刈り体験	12:30	昼食(各宿)	10:00	郷土食作り
13:30	飯山の学習	11:30	昼食(弁当)	14:00	和紙すき体験	11:30	昼食
15:00	箸作り	13:00	脱穀	16:15	手紙書き	13:00	わらぼうし作り
16:00	里山散策	15:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	16:00	雪国の暮らし	19:00	入浴	19:00	入浴
19:00	入浴	18:00	夕食	20:00	ふり返りの時間	20:00	ふり返りの時間
20:00	ふり返りの時間	19:00	暗闇体験	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
21:30	消灯・就寝	20:00	ふり返りの時間				
		21:30	消灯・就寝				

9月29日(日)		9月30日(月)		10月1日(火)	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	茶屋池ハイキング	9:00	課題別学習	7:45	荷物整理・大掃除
12:30	昼食(各宿)	12:00	昼食(各宿)	9:30	閉校式
13:30	飯山のすてきスケッチ	13:30	勤労体験	10:00	戸狩出発
18:00	夕食(バーベキュー)	15:30	感謝の会準備	12:00	横川SAで昼食
19:00	入浴	17:30	夕食	14:30	学校到着
20:00	ふり返りの時間	18:15	感謝の会	15:00	帰校式
21:30	消灯・就寝	19:45	入浴	15:30	解散
		20:15	ふり返りの時間		
		21:30	消灯・就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・飯山のアスパラガスを宿の方に送っていただき、家庭科の調理実習の材料にした。飯山市で作られたものであることを知り、「どうしてこんなに甘いのか」「おいしさの秘密を調べたい」と学習意欲を高めた。
- ・飯山市の「自然」「生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」などのテーマについて個人の課題を決め、本やインターネットを使って調べ学習を行った。調べた内容をリーフレットに分かりやすくまとめた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・セカンドスクールで体験し、学んだこと、伝えたいことを4年生に向けて発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 茶屋池周遊ハイキング

各宿のお父さんをガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についての話を聞いた。

ハイキングの途中、ブナに触れたり、ブナの実を拾ったり、ブナの木の音を聞いたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。森にいる生き物、生息しているきのこ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生き物や人間との関わりを実感することができた。

2 各宿からのスケッチ

各宿の自分のお気に入りの場所からスケッチを行った。黄金色の田や、緑の木々、様々な色を見せる山々や空など、一人一人のお気に入りの場所から美しい景色や自然の豊かさを味わうひとときになった。



【スケッチの様子】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・はざかけ・脱穀)

作業前に農業の工夫や苦勞、働くことの意義などの話を聞き、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めた。その後、宿のお父さんの指導で稲刈り・はざかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。「お米を作るのにこんなに大変な作業を行っていたのか。」「この苦勞がおいしさの秘密か。」という児童の声が聞かれた。はざかけでは、稲穂の束ね方から教わった。脱穀では、時代ごとの脱穀の道具を使いながら、時代の移り変わりや、人々の苦勞を学ぶことができた。全ての作業を通して、落ちている稲穂を拾って大切にすることで、「一粒のお米も無駄にしてはいけない」という思いをもつことができた。



【稲刈りの様子】

2 勤労体験

宿ごとに感謝の気持ちを込めて勤労体験を行った。きゅうりやピーマン、様々な種類のかぼちゃの収穫や農具の片付けなど各宿で体験を行った。どの児童もお父さんお母さんの話をよく聞き、一生懸命に作業に取り組む様子が見られた。おいしい野菜を作るための苦勞や宿のお父さんお母さんの仕事を体験することを通じて、「毎日続けているお父さんお母さんはすごい。」「野菜を残さず食べるようにしましょう。」など、働くことの大変さや働く人の想いを学ぶことができた。お父さんお母さんから「とても助かった。」という言葉をいただいた。



【ピーマンの収穫の様子】

<生活・文化体験活動>

1 地域についての学習(飯山について・雪国の暮らし)

学習の講師として、宿の方より飯山についての説明を聞いた。これまでに使われてきた蓑(みの)、わらぐつ、観光業としても重要なスキーの歴史、地域で受け継がれてきた伝統芸能、雪が積もっても使える地上式消火栓、雪が落ちやすくするための急勾配の屋根など、飯山での人々の暮らし、生活の知恵や工夫を学ぶことができた。児童は、実際に生活している方から話を聞き、現物を見たことにより、理解を深めることができた。

2 飯山オリエンテーリング

昨年度に引き続き、全児童が飯山の伝統文化について学習するために、寺町巡りと仏壇工芸体験、飯山城址と飯山シャンツェ見学を、3つのグループでローテーションしながら見学と体験を行った。飯山市中心部を徒歩で移動することにより、地域の特徴や地理的状況を理解しながら、飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。

3 課題別学習

宿の方に「児童に伝えたいこと」をテーマにして活動内容を考えていただき、課題別学習を実施した。「スキー板製造の歴史」「里山戸狩の植物」「伝統の泥団子作り」「さつまいも収穫」「バード・コール作り」「里山と水」というテーマはどれも魅力的で、活動中に質問するなど、大変意欲的に活動することができた。

4 郷土食作り

宿の方の指導で、「笹寿し」と「天井焼き」を作った。笹を自分たちで取りに行くことから始めた班もあった。笹寿しの起源や工夫された食材、食べ方などの話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を示していた。



【郷土食作りの様子】

5 わらぞうり作り

今年度は各宿にて行った。最初は悪戦苦闘していたが、宿の方の指導もあり、全員一足分を編むことができた。2時間半、座ったまま作業を行った分、編み上げた際には、かなりの達成感を感じていた。また、児童はわらぞうりを編みながら、わらぞうりは昔の人々にとって大切な履物であるとともに、壊れやすいので替えを常に用意しておかなければならないものであることを聞き、驚いていた。



【わらぞうり作りの様子】

○児童の感想

- ・以前の自分は自然にも虫にも興味がなかったが、セカンドスクールを通して少しずつ触れるようになり、そのおかげで自然に興味をもてるようになった。
- ・大自然の中、虫とかがたくさんいて、ゲーム以上に楽しい時間を過ごすことができた。
- ・みんなと生活を共にすることによって、仲間と協力する大切さが分かった。
- ・集団生活をするを通して、時間を守ることの大切さに気付いた。学校生活に生かしていきたい。
- ・わらぞうりを作る時に粘り強く取り組むことの大変さと大切さの両方が分かった。
- ・勤労体験を通して、お父さんやお母さんは毎日、こんなに大変なことをしているのだと知って驚いた。

- ・ 6泊7日の集団生活を通して、お父さん、お母さん、指導員の先生、友達などいろいろな人に支えられているのだという事に気が付き、感謝することへの大切さを感じた。
- ・ 稲刈り体験で初めて鎌を使って稲を刈った。手前に引く感覚が初めはつかめず難しかったが慣れると速くできるようになった。
- ・ 都会では味わうことができない自然にたくさん触れることができ、お父さんやお母さんの話を聞いてさらに自然を大切にしていかなければならないと思った。
- ・ 郷土料理の笹寿司作りでは、腐らないように笹を使っていたり、そのまま捨てられたりするなど昔の人の知恵はすごいと思った。
- ・ 暗闇体験では、東京では明かりが多くて見られない星がたくさん見れてとても綺麗だった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の話を織り交ぜ、関連付けながら指導することができた。また、セカンドスクールから帰ってきた後、様々な場面において協力する姿が多く見られるようになった。学芸会などの行事においても、よりよいものを作ろうと、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 「飯山についての学習」を1日目の開校式後、すぐに行った。現地の景色、空気を味わい、宿のお父さんお母さんに出会ってすぐに学んだことで、児童の関心が非常に高まった。また、その後の活動の際に、初日の学習と結び付けながら活動に取り組み、理解を深めている姿が見られた。
- ・ 飯山オリエンテーリングでは、仏壇の体験活動の時間に合わせて飯山シャンツェ見学、寺町巡りを3グループに分かれて行った。待機時間などが最小限に抑えられ、限られた時間の中で、学習・体験を行うことができた。昨年度より各場所の見学時間を10分間伸ばすことで余裕をもって見学することができた。

関前南小学校

長野県飯山市

10月1日～10月7日(6泊7日)

参加人数 男子25名 女子25名
計50名

○セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・体験活動や現地の人々の話から飯山市、飯山市戸狩地区の産業や自然、生活について理解を深め、地域の特徴を生かした飯山市の取り組みについて理解する。
- ・興味・関心のあるテーマから課題を設定し、体験活動や現地の人々の話から必要な情報を集め、整理してまとめる力を身に付ける。
- ・生活班や学習班の友達と協働的に取り組み、互いのよさを認めながら積極的に活動しようとする態度を養う。

○日程表

10月1日(火)		10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
8:00	出発	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理
11:15	小布施 SA	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
12:10	戸狩着、昼食開校式	8:30	稲刈り・脱穀体験	8:30	自然観察ハイキング	8:30	北竜湖カヌー体験
14:00	避難訓練	11:30	昼食	12:30	昼食	12:15	昼食
14:30	自己紹介(宿ごと)	13:00	コンバイン見学	13:30	課題別学習	13:15	わら細工体験
15:30	箸作り	13:30	「金崎さんちのお米」見学	17:30	健康観察・入浴	15:00	宿別体験
16:30	周辺散策	16:30	健康観察・入浴	16:30	学習のまとめ	17:30	夕食準備・夕食
17:00	健康観察・入浴	17:30	薪割り・ご飯炊き	17:30	健康観察・入浴	18:30	健康観察・入浴
18:00	夕食準備・夕食	18:00	夕食準備・夕食	16:00	夕食準備・夕食	19:00	学習発表会の準備
19:30	学習発表会の準備	19:00	学習発表会の準備	19:00	学習発表会の準備	19:30	家族へのお手紙書き
20:30	健康チェック	20:45	健康チェック	20:45	健康チェック	20:45	健康チェック
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯
10月5日(土)		10月6日(日)		10月7日(月)			
6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック		
7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理		
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食		
9:00	収穫体験	10:00	火おこし体験・かまど作り・野外炊飯	8:00	荷物整理		
12:00	昼食	11:30	昼食	8:30	大掃除・奉仕活動		
13:00	餅つき体験	14:00	学習発表会	9:00	感謝の会		
16:30	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	10:00	閉校式		
17:00	学習のまとめ	17:30	夕食準備・夕食	10:30	戸狩発		
17:30	郷土食作り体験	17:30	夕食準備・夕食	12:00	横川 SA、昼食		
18:00	夕食準備・夕食	19:00	星空観察	14:00	高坂 SA、休憩		
19:00	学習発表会の準備	20:00	学習のまとめ	15:30	学校着・帰校式		
20:45	健康チェック	20:45	健康チェック	16:00	解散		
21:30	消灯	21:30	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科「米づくりのさかんな地域」では、自分たちの食べている米がどのように食卓まで運ばれてくるのかを調べ、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間では、バケツ稲を育てた。種もみを選ぶ→芽だし→種まき→田植え→中干し→落水→稲刈りの順に、実際に自分たちで稲を育て、米を一粒育てるだけでも大変な苦労があることを実感できる学習となった。また、「飯山探検隊」では、セカンドスクールで行く飯山市の産業・自然や郷土食について、本やインターネットを使い、調べ学習を行った。自分が設定した課題について、セカンドスクールの課題別学習の際に、事前に調べたこと等について体験し追究する見通しがもてた。
- ・宿舎内で係に分かれ役割を分担し、係ごとにめあてを決めたり、仕事内容の確認をしたりした。さらに、宿舎に児童の紹介を送り、宿の方が事前に児童を知ることができるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後にかかしていききたいことをまとめた。また、各学級の代表者の作文を文集「けやき」に掲載した。
- ・セカンドスクールで学んだことをいくつかのグループに分け、画用紙や写真などを使って4年児童にむけて発表した。
- ・家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」では、飯山市で脱穀したお米を使ってご飯を炊き、いただいた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 自然観察ハイキング

ハイキングは、千曲川支流が流れるゲレンデ周辺を歩いた。宿の方を先頭に、宿ごとに時間差をつけて出発したことで、植物や生き物に触れたり、説明を詳しく聞いたりすることができた。特に、ブナの林は水を蓄える働きがあり、葉で受けた雨が木の幹を伝い、地面へと流れていく様子を理解することができた。ゴールをのろし台として使われた展望台に設定し、宿の方から千曲川を中心に飯山のまちができていき、米作りが盛んになったことを学ぶことができた。飯山の雄大な自然への理解を深めることができた。



【ハイキングの様子】

2 火おこし体験(かまど作り・野外炊飯)

6日目に自分たちの力でかまどを作り、火をおこしてカレーライス作りをした。火をおこしたことがない児童がほとんどのため、事前に各宿でかまどの作り方・薪割りのしかた・マッチの擦り方・薪の組み方・火の持続のしかたなどを夕飯作りの際に学んだ。当日は、使用できるマッチの本数を3本と決め、児童に火おこしに取り組ませた。

全部の宿が自分たちの力で火をおこし、カレーライスを作ることができた。ご飯が炊きあがったときには「やったー。」という声がどの班からも聞こえ、協力することの喜びを得る体験となった。



【火おこし体験】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・野菜の収穫)

2日目に稲刈り体験を行った。稲の校長先生(宿のおじいさん)から、稲について様々な知識を教えてくださいました。刈り取った稲を4~5本ひもでしっかりとまとめ、脱穀作業を行った。脱穀作業は、千歯抜きと足踏み脱穀機を使って行った。昔の人の知恵に驚きながら、何回も脱穀を行ううちに上手に使えるようになっていった。

また、稲の穂が全て脱穀できているかを確認し、機械で穂が取れないものは手で一粒一粒つまみ取ることでお米の大切さを実感することができた。最後にコンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに「おー!」という歓声が上がった。昔は家族総出で稲刈りをしていましたが、今はコンバインを1人で操作して1日で収穫できてしまうほど、労働生産性が向上したことが分かった。

5日目は、各宿の畑で収穫体験をした。野沢菜や落花生など自分たちが育てたことがないものから、さつまいもや枝豆などの身近な野菜まで、丁寧に収穫することができた。たくさん汗を流した後に、自分たちが収穫した野菜を食事に出していただき、食のありがたみを感じながら食べることもできた。



【稲刈り・脱穀体験】

2 北竜湖カヌー体験(オリ・パラ学習)

4日目の午前には飯山市の観光地となっている北竜湖でのカヌー体験を行った。

オリンピック・パラリンピック競技の一つであるカヌー体験を通して、来年の東京大会への関心や意欲を高めることができた。多くの児童が初めてカヌ



【カヌー体験の様子】

一に乗ることになるため、インストラクターの方から安全面についてしっかりと話を聞いた上で活動を行った。カヌーの楽しさや北竜湖などの観光地の活用、飯山市として必要な観光資源としてPRすることでより飯山市全体が活性化していくことになることなどを教わった。また、北竜湖の歴史を学び、昔の人々が水を貯めておくために作り上げた湖であり、ハイキング時のブナ林にも大きくつながりがあることを学んだ。

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

飯山市の郷土食である笹ずしを作った。上杉謙信に野戦食として送ったとされる笹ずしは、自分たちが食べているお寿司のイメージとは異なり、海のない県ならではの山の幸の具材をたくさんせたものであることを学んだ。それぞれの具材を食べる順番があり、具材の一つ一つに意味があることを学びながら作ることができた。作った郷土食はその日の夕飯となり、子どもたちは「自分たちが作った郷土食は格別においしかった」と感想を話していた。

2 課題別学習

セカンドスクール実施後、学習した内容をまとめて発表をするため、自ら課題を選んで学習する活動を取り入れた。「水グループ」、「観光・文化グループ」、「雪国のくらしグループ」の3つに分かれて、別々の場所で学習や体験活動に取り組んだ。

<水グループ>

千曲川にある西大滝ダムを訪れた。ここでは、電力会社の方から、ダムが果たしている役割や、自然環境に配慮した取り組みなどの説明を受けた。また今回から手作業でごみを振り分けるごみ処理場の様子を見ることができた。

<観光・文化グループ>

戸狩観光協会の方についていただき、寺町めぐりを行った。雪国の小京都と呼ばれる飯山の寺を石畳の小路を巡ることができた。飯山はかねてより仏壇作りが盛んである。飯山仏壇と呼ばれ、経済産業省の伝統工芸品として指定されている。飯山市内では、仏壇店が軒を並べた雁木通りという通りがあり、趣ある風景が見られる。児童たちは、その一店舗を訪れ説明を受けた。

<雪国のくらしグループ>

飯山ふるさと館を見学し、昔使われていた道具の使い方を学んだ。また豪雪地方ならではの生活で工夫していることを学習した。飯山市内では、仏壇店が軒を並べた雁木通りを歩き、飯山市役所では除雪車を見学した。数日前に納車したばかりという除雪車の運転席に乗せてもらい迫力のある大きさを実感し、これほど大きい車でも雪を取り除くためにも多くの時間を要することを教えていただいた。

○児童の感想

- ・火おこし体験では、宿のお父さんに丁寧に教えてもらったおかげで、上手に火をつけることができた。やりたいという気持ちとチャレンジすることの大切さや友達との協力することの

大切さを学んだ。

- ・ 5分前行動を意識したり、貴重な体験から学習したことをメモしたりすることで充実した7日間を過ごすことができた。目的意識をもって指導員の先生に助けをもらいながら、友達と楽しく協力して生活することができた。
- ・ 自分のことは自分でしなければいけない6泊7日だった。日頃から世話になっている両親の大変さを考えることができた。感謝の気持ちを込めてこれから過ごしていくことを考えさせられた。
- ・ 普段食べることのできない郷土料理を作り食べることができて良かった。友達と協力して笹を拭いたり、ご飯を盛って飾り付けをしたことはとても良い体験だった。
- ・ 学習発表会では、じっくりと時間をかけて発表の準備をすることで飯山について多く学ぶことができた。行く前の調べ学習や現地でのインタビューを発表に生かすことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・ 学校や家庭での基本的な生活や学習のルールやマナーを、宿での生活や公共施設の見学を通して生かすことができた。また、自分で健康管理をし、7日間大きな病気やけがをすることなく過ごすことができた。さらに、友達との集団生活や飯山の人々との交流を通して、望ましい人間関係を築くことができた。
- ・ 班長を中心として、時間を考えながら集団行動ができた。事前に渡したしおりを読んで、次の行動を考え動くことができるようになった。さらに、次の行動に必要な物を準備することや、自分たちで考えながら行動することができるようになった。
- ・ 普段何気なく食べている食事に対して、感謝の気持ちをもつようになった。給食に対しても残さずに食べようとする態度が見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 最終日の感謝の会では、各宿共通のプログラムとして、北信州出身の作詞家・高野辰之にちなみ「ふるさと」の合唱を披露した。宿の方への感謝の気持ちを歌の調べにのせて伝えることができた。
- ・ まとめの発表では、模造紙や写真などを使って学んだことを発表することができた。
- ・ 農業体験、課題別学習、農作業体験においては、学習の側面を強く意識づけるために事前学習を計画的に実施する必要があった。

桜野小学校

長野県飯山市

9月22日～ 9月28日(6泊7日)

参加人数 男子80名 女子72名
計152名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・生活上の自立に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・飯山市と武蔵野市を比べて違いに気付く力を育む。
- ・現地での体験を通して、課題に対する情報を集め、それを整理・分析してまとめる力を育む。
- ・児童相互の協力や、現地の方々、指導者、教師との信頼関係や人間関係を深める力を培う。
- ・探究的な学習に取り組もうとする態度を育む。

○日程表

9月22日(日)		9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの話	9:00	宿ごと体験 (笹ずし作り)	9:30	ブナの森ハイキング
12:00	戸狩到着、開校式	10:00	稲刈り	12:00	昼食	12:30	昼食
13:00	昼食 部屋割り 里山散策	12:30	昼食	13:30	宿ごと体験(自然)	14:00	宿ごと体験(食)
15:00	箸作り	13:30	脱穀	16:30	手紙書き	18:00	夕食
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	20:00	語らいの時間
20:00	語らいの時間	19:00	星空体験	20:00	語らいの時間	21:30	消灯
21:30	消灯	20:00	語らいの時間	21:30	消灯		
21:30	消灯	21:30	消灯				
9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)			
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食		
9:00	伝統産業館、雁木通り ふるさと館 見学 和紙すき体験	9:00	焼き板工作	9:00	宿の方へのお礼		
12:30	昼食	12:30	昼食	10:00	戸狩出発		
14:00	わら細工体験	13:00	宿ごと勤労体験	12:00	昼食		
18:00	夕食	18:00	夕食	15:30	学校着・帰校式		
20:00	語らいの時間	19:00	感謝の会				
21:30	消灯	21:30	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、稲作についての学習を行った。バケツを使って田植えをし、稲穂が実るまでの様子を学校で継続的に観察した。
- ・1学期の社会科の授業で行った「寒い土地の暮らし」の学習において、降雪量の多い地域での暮らしにふれ、現地に行った時の学習への意識づけを図った。また、「米作りのさかんな地域」の学習では、稲作の仕事内容や、米が手元に運ばれてくるまでの流れについて学習し、日本の食料生産の抱える問題やこれからの農業について考えを巡らせた。
- ・2学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての調べ学習を行った。調べたことや、セカンドスクールの行程表、食事メニュー表から考えを広げ、「自然」、「歴史」、「郷土食」、「気候」、「伝統工芸」、「雪国の生活」などをテーマに設定し、個人の学習課題を決めた。
- ・プレゼンテーションソフトを活用し、セカンドスクールの目的や活動内容を、児童に紹介した。また、宿舎内での係を決め、係ごとにめあてを決めたり、仕事内容の確認をした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを作文で表現した。また、一人一人の課題について、記録や資料をもとに新聞づくりを行い4年生に紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナの森ハイキング

各宿のお父さんお母さんをガイドとして、茶屋池の付近に広がるブナの森をハイキングした。実際にブナの木に触れたり、木の実を拾ったりすることで、木の特徴や自然環境に果たす役割などについて学ぶことができた。また森にいる生き物や自生しているきのこなどについても学習することができた。「なぜ飯山のお米はおいしいのか」についても、ブナの森が蓄えた豊富な水が関係していることを知ることができた。

2 星空体験

東京では体験することのできない、真っ暗な道を歩く体験を行った。街灯や車の明かりがない道を歩くことで、暗闇の怖さや明かりのありがたみを感じることができた。また東京にはない、本の字が読めるほどの月明かりや満点の星空の美しさに深く感動することができた。自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

作業の前に「田植えから収穫までの農作業」、「飯山市の地形的特徴」、「水の重要性」について、宿の方に話していただいたことで、児童は稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。特に「米という漢字は米作りに八十八手の工程があるからである」という話に、児童は皆驚いていた。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈



【稲刈りの様子】

っていった。その後、コンバインで稲を刈り取る様子を見学した。手刈りとコンバインの稲刈りのスピードの違いをまざまざと見て、農作業の機械化のありがたみを実感した。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。農具が発達するにつれ、効率や精度が上がっていくことを実感していた。千歯扱は自ら稲穂を力強く引かないと脱穀できず、足踏脱穀機はタイミングよく踏み込まないと回転が止まったり、逆になったりしてしまう。一方ハーベスターは機械に稲を通すだけで脱穀ができる。ここでもまた、機械のありがたみを実感することができた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。宿の方との語らいの時間では、脱穀後の精米や保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。また、5日目に行うわら細工では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。

2 宿ごとと勤労体験

1週間お世話になった宿のお父さんお母さんと一緒に勤労体験をした。宿ごとに農作物の収穫や、冬囲い、はぜかけを行い、働くことの苦労や大切さを知ることができた。また真剣に活動に取り組むことでお父さんお母さんへの感謝の気持ちを表すことができた。

<生活・文化体験活動>

1 笹ずし作り体験活動

宿の方の指導で笹ずし作りを行った。笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を持ったようだった。また、食べる方向から笹の葉の特徴を見つけている児童もいた。木々をかき分けて、自分たちで笹をとる活動から始めたからか、達成感もあっておいしそうに食べている様子が見られた。



【笹ずし作りの様子】

2 宿ごと食体験

宿ごとの食体験では、おやきづくり、ジャムづくり、餅つき、ピザ作りなどが行われた。どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

3 和紙すき体験

国が定める伝統的工芸品が長野県に9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は冬の寒さを生かした和紙である。飯山和紙すき体験工房では、「内山紙」の和紙すき体験を行った。

児童は体験前に、和紙の作り方や歴史についての説明を受けた。原料となるコウゾが紙に変化していくことに驚く児童もいた。体験では、液の中で繊維が均等に入るように上下左右に木杵を揺らしながらすき、葉書サイズの和紙をすいた。木杵を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまうため、児童は工房の方の指示に従って慎重に作業をしていた。自分の好きな色紙の飾りをのせ、アレンジしている児童もいた。すいたものは工房の方に処理していただき、オリジナルの和紙として持ち帰ることができた。



【和紙すきの様子】

○児童の感想

- ・今回のセカンドスクールでは仲の良さが学べました。ときには怒らずに人の意見を飲み込むことも大事だと思いました。けんかした時なども冷静に落ち着いて話しをすれば、考えを伝え合えらると思いました。
- ・脱穀が一番楽しく、特に一番古い手動の脱穀は昔の農家の人々を思い浮かべるととても大変だったことがよく分かりました。
- ・紙すき体験では、水に対して直角に杵を入れ、手元にもってくるとうまくできあがることを初めて知りました。また、仏壇作りは冬にさかんだということも知りました。その理由は雪が積もるためです。湿度が高く漆塗りに適していたからだという事も学びました。
- ・いつもスーパーで売っているお米は、農家の方が1年間のほとんどの日を大変な思いをして頑張っていることを感じられ、よい経験をしたと思いました。
- ・1週間の目標を振り返って、最初はけんかをしていた人もいましたがだんだん慣れてきて協力をすることができました。感謝の気持ちをもって、楽しいセカンドスクールにすることができたと思います。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

児童は自分で米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の苦労や思いを知ったことから、食に関する意識の高まりが感じられる。セカンドスクール後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では、農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めていたようである。学習課題を自分の身に引き寄せて考えようとする姿が見られ、実感を伴う学習活動の重要性を感じた。

身の回りの整理整頓を始め、家族や教師を頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、民宿の方や友達にお世話になることで、自分自身のことは自分でできる限りやっつけようとする姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気付き、感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

また、セカンドスクールを通して人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようしたり、助けようしたりする姿が多く見られるようになった。4年生にセカンドスクールのことを伝える活動では、下学年に対する関わり方や、分かりやすい発表の仕方などを意識して、児童一人一人が主体的に学習を進めていた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・飯山市ふるさと歴史館、伝統産業会館の見学、和紙すき体験に合わせて、今年度は雁木通りの見学を導入した。そのことにより、各クラスがローテーションしながら見学することができスムーズに学習が進んだ。また、各施設での人数も少なくなるため、昨年度よりも余裕をもって学習できた。しかし、学習の理解の深まりを考えると、雁木通りの見学だけでなく、仏壇屋さんにインタビューをしたり、新たに時間を設定して伝統産業と飯山の自然とのつながりをお話ししていただいたりするなどの活動を考えなければならない。
- ・宿ごとの活動では、共通する意図のもと、活動を行うことができなかった。宿ごとに活動内容自体に大きな差が出たわけではないが、それぞれの活動に対してどんな意図があり、何を体験したり理解したりしてほしいのかを各宿と共通理解する必要があると感じた。また、昨年度出ていた「学校・指導員・宿」の連絡体制については、本部宿と担当教員との連絡を一本化することで、大きな混乱は生じなかった。
- ・桜野小では「米・水・人」を中心に、「なぜおいしいお米ができるのか」ということを軸に学習を組み立ててきたが、来年度からは「雪国」をテーマにした方が、学習につながりがもちやすいのではないかと感じた。また、しおりにも各活動での学習内容を書いたり、児童に課題意識をもたせたりする必要がある。
- ・児童は、1学期と比べ他者のことを考える力が付いた。また、社会科などで様々な産業について考えるときも、苦労ややりがいを考えられるようになったと感じた。

中学校セカンドスクール



第一中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子49名 女子46名
計95名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・学年・学級の親睦を図るとともに、集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身につける。
- ・教科の枠にとらわれず、問題解決的な学習、自然体験活動を通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を養うとともにファーストスクールの学習に生かす。
- ・長野や白馬の自然や文化の特性を生かした学習の場を多様に設け、体験に裏付けられた知識を深める。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、2020年東京オリンピック大会開催を控えた生徒が自分たちの暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を育む。

○日程表

9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)	
6:50	一中集合、出発式	6:00	起床、健康チェック	6:30	起床、健康チェック
7:05	バス出発	6:30	朝食、出発準備	7:00	朝食、出発準備、後片付け
11:00	諏訪SA、安曇野IC	8:10	退館式、ホテル(出発)		荷物整理、ものづくり体験
11:20	池田町クラフトパーク(昼食)	8:40	ミニトマト栽培ハウス見学	9:30	五竜第四駐車場集合
13:05	扇沢駅着、電気バス乗車出発	9:30	白馬ジャンプ台見学	10:00	ゴンドラ山麓駅出発
13:46	黒部ダム着【見学約2時間】	11:35	小谷村JA中土支所前(到着)、開校式	10:30	八方尾根トレッキング開始
16:20	扇沢駅(出発)	12:10	昼食(バーベキュー)	13:30	昼食(兔平レストハウスにて)
17:10	白馬ホテル(到着)、入館式	13:00	林業体験【2時間】	15:30	郷土料理・物作り体験(各宿)
18:50	夕食	16:10	白馬村(到着)、入村式	18:30	夕食
21:00	班長会議、班会議、健康チェック		各民宿到着後、リエンテーション	19:30	宿との交流(各宿にて)
22:00	就寝		夕食、宿との交流	21:00	班長会議、班会議、健康チェック
		21:00	班長会議、班会議、健康チェック	22:00	就寝
		22:00	就寝		

9月29日（日）		9月30日（月）	
6:30	起床、健康チェック	6:00	起床、健康チェック
7:00	朝食、出発準備	7:30	朝食、出発準備
8:15	各民宿（出発）	8:30	五竜第四駐車場到着
8:30	農作業体験（各宿にて） 郷土料理体験（各宿にて）	8:50	白馬ジャンプ競技場到着 写真撮影
12:00	昼食（各宿にて）	9:30	白馬五竜スキー場エスカレーター（到着）
13:00	北原体育館集合、リハビリ学習 ・成瀬野生さんのお話し		お土産購入
15:30	郷土料理・農作業体験（各宿にて）	11:00	昼食
17:00	夕食（各宿にて）、後片付け	11:35	退村式
18:45	北原体育館にてレクリエーション	12:00	白馬村（出発）
20:45	各宿帰着		調布 IC
21:00	班長会議、班会議、健康チェック		
22:00	就寝	17:15	学校到着、解散式、解散

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・生活班を元にして宿舎班を中心に自分たちで話し合って決め、セカンドスクール実行委員会で決まりなどについて話し合った。
- ・宿舎班の中での係を決め、その係の仕事に責任をもって取り組めるように2回の係会議を設定し、その中で様々な係の仕事を話し合って決めた。
- ・白馬村の歴史や自然に関することや、黒部ダムのこと等各自調べたいテーマを決めてB4サイズのレポートを各自作成し、各クラスで掲示発表を行い、長野県全般についての理解を深めた。
- ・お世話になる民宿へ送る自己紹介カードを作成した。

2 事後の学習内容

- ・反省アンケートを記入し、実行委員が集計を行って、全体に共有する取り組みをした。各自が今回の宿泊行事を振り返り、今後に生かせるように意識をもたせた。
- ・お世話になった民宿の方へのお礼の色紙を作成し、白馬村に送付した。感謝の気持ちを文章で表現して表すことを学習した。
- ・学校全体で行うポスターセッションにおいて、セカンドスクールで知った環境問題やオリンピック・パラリンピック活動の課題等を社会的な視点をもって取り組み、課題の提示と自分たちなりの解決方法を模索し、どのようにそうした問題に関わっていけるか考えさせた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方池トレッキング

八方池トレッキングを体験することで白馬の自然や雄大さを実感し、自然のよさや大切さを学ぶことができた。頂上で雨が降り、気持ちが滅入る仲間に対して、お互いを気遣う声掛けを行い、協力し合うことの重要性を学年全体が学ぶことができた。登山のマナーとして挨拶を自ら進んで行う生徒もいた。



【トレッキング】

<社会体験活動>

1 林業体験

指導してくださった小谷村の方からは、歴代の一中生のおかげで山を守ることができており、それが皆の生活を守ることにつながっていることをお話しいただいた。

また、斧による薪割り体験や、チェーンソーによる丸太切りは生徒にとっては驚きと興奮の体験になったようである。



【薪割り体験】

2 農業体験

民宿ごとの畑で農作業を行い、作物を実際にとって、それらを調理して食べる等、普段の生活では経験しえない貴重な体験をした。

村内にあるミニトマトの栽培見学を行い、目の前で採れたミニトマトを試食する機会にも恵まれ、とれたてを食する農産物のおいしさに驚く様子がとても新鮮であった。



【さつまいも収穫】

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理体験

宿ごとに様々な郷土料理体験に取り組んだ。蕎麦打ちやおやき、おはぎ作り等を行い、本物の食材から作る喜びを感じたようである。宿舍班の皆と協力しながら作業を行うことで、協調性を身に付けることができた。



【米粉団子作り】

2 物作り体験

フォトスタンド、藁細工、飾りパン、マイ箸作りなど宿舍ごとの体験を行った。藁細工では、農家の生活の中から生まれた日本の伝統工芸品の一つを体験することで日本の文化を再発見できる機会になっていた。宿舍の仲間と会話も楽しみながらも、協力して作業に没頭する姿が見られた。

3 オリピック・パラリンピック学習

長野冬季オリンピック・パラリンピックのスポーツ文化遺産である白馬ジャンプ競技場を見学した。ジャンプ台まで登ってその迫力を肌で感じることもできた。今年度から元オリンピック選手の成瀬さんに競技者として学んだことを写真と映像を合わせて講演していただいた。東京オリンピック・パラリンピックへの向き合い方を考える機会にもなった。

4 黒部ダム見学

職員の方のお話や、当時の難事業をやり遂げる様子が分かるDVDを食い入るように見ている生徒の姿が多くあった。また、放水の迫力に感動している生徒も多く、ダムから湧き出てくる力強さに先人の大事業の偉大さを感じることができ、大きな関心を寄せている様子が伝わってきた。



【黒部ダム慰霊碑前】

○生徒の感想

- ・トレッキングでは、途中から雨が降って霧も濃くなり、気持ちにも体力にも余裕がなくなっていた。しかし諦めずに八方池まで行くことができた。私は友達と協力しあうことや、疲れても耐え、やり遂げることの大切さを学ぶことができた。
- ・僕は4日間で宿の人ととても仲良くなった。そのおかげでセカンドスクールが何倍も楽しくなった。これは、武蔵野市の地域の人と繋がることと同じようなことだと考えた。このことから武蔵野市の人と繋がることでこれからの学校生活も何倍も楽しくなると思った。
- ・今回のセカンドスクールでは常に五分前行動を意識して行動できた。5分前行動を学校生活でも心掛けることで授業前着席につながり、もっと充実した学校生活を送れると感じた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

学校生活で普段接する機会が少ない仲間と触れ合うことで新しい発見があり、視野が大きく広がったように感じる。仲間の体調を気遣ったり、お互いに長所を認め合ったりする様子も見られた。自主性が学習面だけではなく、生活面でも見られたのも良かった点である。

11月後半に実施したポスターセッションにおいても、セカンドスクールで得た協働の姿勢を活かしていけるように指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は天候にも恵まれ、一部で変更はあったものの、JAの方に組んでいただいたプログラムを無事に終えられた。自然や風土の素晴らしさを実感できた一方で、長期間の滞在と環境の変化で体調を崩す生徒も目立った。宿泊日数やプログラム内容を調整していく必要がある。友達との関わり、自分に与えられた仕事への責任感、そしてリーダーとしての素養を育てていくという面で生徒にとってはよい機会であり、自主性や自立心、自律の心も育てることができたと考える。

第二中学校

新潟県十日町市

5月21日～5月25日(4泊5日)

参加人数 男子66名 女子64名
計130名

○セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・新潟県や十日町市の文化や歴史・地理・自然などの学習を通して農村地帯の知識を深める。
- ・田植えや野菜等の収穫・食体験を通して食に関する技能を身に付ける。
- ・仲間と農家体験を通して、連携やコミュニケーションの大切さを理解する。
- ・事前・事後学習の発表を通して、思考力・判断力・表現力等を養うとともに、自分で考えて行動できる力を身に付ける。
- ・セカンドスクールを通して、人との出会いを大切にするとともに、感謝の気持ちを相手に伝える態度を身に付ける。

○日程表

5月21日(火)		5月22日(水)		5月23日(木)	
7:00	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:30	学校出発	7:30	朝食	8:45	農家の方とのお別れ会
	関越自動車道	9:00	農家体験Ⅰ	9:00	伝統料理体験(コース別)
12:00	現地(十日町市浦田)着		農家ごと農業、自然体験	14:00	環境学習Ⅰ
	昼食(浦田体育館)	14:00	農家体験Ⅱ		森の学校キョロロ見学
13:00	開校式		午前に引き続き活動		キョロロの森の動植物観察
13:30	田植え体験	16:00	活動終了	16:30	宿舎(ちとせ)着
16:30	民泊農家対面式		民泊体験2日目		係活動、班活動
	民泊体験1日目	22:30	就寝	22:00	就寝
22:30	就寝				
5月24日(金)		5月25日(土)			
7:00	起床	7:00	起床		
7:40	朝食	7:40	朝食		
9:10	環境学習Ⅱ	8:50	宿舎(ちとせ)発		
	大巖寺高原自然観察コース	9:10	環境学習Ⅳ		
12:00	昼食		美人林見学		
13:00	環境学習Ⅲ	10:15	閉校式、松之山発		
	自然観察(風景スケッチ)		関越自動車道		
15:45	宿舎(ちとせ)着	15:00	バス内学活、学校到着		
	荷物整理、入浴	15:45	解散		
18:30	夕食、係活動、班活動				
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・新潟県の気候、風土、動植物など、セカンドスクールに関するテーマを班で分担し、書籍やインターネットを用いて調べた。(総合的な学習の時間)
- ・調べ学習をもとに、現地の方へのインタビューを民泊班で考えた。(総合的な学習の時間)
- ・民泊先の受け入れ農家に送る自己紹介状を兼ねた挨拶状を作成した。
- ・中学生としての自覚や自律をめざして、団体行動や係活動、民泊体験の場での目標やルール作りを行った。(特別活動)

2 事後の学習内容

- ・民泊先で学んだことを新聞形式にまとめ、それを用いて発表を行った。4クラスを混ぜて5つのグループにし、他クラスの発表を聞けるようにすることで、様々な体験談を聞けるように工夫した。また、まとめたものを教科作品展で発表した。(総合的な学習の時間)
- ・民泊農家へのお礼状を作成した。
- ・現地でのスケッチを完成させ、作品をお世話になった方々に送り品評を行ってもらった。(美術科との連携)

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 キョロロの森観察

十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロでは、生物多様性に関連した展示や体験プログラムで里山を体験し学ぶことができる。また、施設周辺には森林やため池群が広がる約80ヘクタールのキョロロの森が広がる。キョロロの森に到着後、クラスごとに分かれて体験活動を行った。体験プログラムは①里山散策、②水辺の生き物観察、③館内展示見学の3つである。

- ① 隣接する里山の散策では、自生する植物の特徴について解説を聞きながら観察を行った。今年は何年にも一度のブナが種を落とす年で、実物の種を観察できる貴重な体験ができた。
- ② 水辺の生き物観察では、1人1つの網を持ち、ため池で生き物の採集・観察を行った。普段、自然の中で遊ぶことの少ない生徒達は、夢中になって池をかき混ぜ、十日町市に生息する魚・カエル・水生昆虫などの水辺の生き物を捕まえ、観察していた。
- ③ 館内展示見学では、里山に住む生物に関する展示物や標本を見学した。また、雪国の稲作や、雪国での生活における伝統的な生活用具や現在使用されている用具などを見学した。

2 自然観察ハイキング(大蔵寺高原)

前日のキョロロの森での学習を土台に、自然林でのハイキングを行った。ヤマウルシやマムシ、ハチなどの危険な動植物の対処法を学び、ハイキングを行いながら自然観察した。各クラスを2つに分けた計8班に分け、各班にインストラクターが1人付いていたため、自然観察の

詳しい話を聞くことができた。また、暑さの中でのハイキングで熱中症が心配されたが、各自が体調管理に努め、山頂までたどりつくことができた。山頂から見渡す自然林はとても美しく生徒たちは登山の疲れを忘れて景色を堪能していた。

3 自然観察スケッチ(大蔵寺高原)

ハイキングの後、事前に美術の時間に学んだ知識を生かして、風景をスケッチした。当日は天候に恵まれ、雄大な自然の中から自分が絵として残したい場所を選び、色鉛筆でじっくりと描きあげることができた。セカンドスクールの後、美術の時間に絵を仕上げた後、選抜された作品数点を現地へ送り、現地の方々に品評していただいた。

4 人工林観察(美人林)

松之山の観光名所である美人林の見学を行った。インストラクターの方の詳しい解説を聞くことで雪里の厳しい自然の中で育つブナの木の特性や、ブナ林が自然の中で果たす役割について学ぶことができた。そして、天然の林と人工の林の違いを知ることで、環境保全と人間との関わりを考える機会となった。

<社会体験活動>

1 農家体験(山菜の収穫・田植えなど)

棚田の里での田植え体験では、現地の方を指導員としてお迎えし、手で苗を植えることを学年全員で体験した。泥だらけになりながらも、一生懸命作業を行うことで、普段食べている米のありがたみを知ることができた。

また、民泊先の農家では農業体験を行い、山菜の収穫、苗箱洗い、きのこの菌打ちなど様々な体験を通して、自然の中で豊かに楽しく暮らす知恵を学び、自然に対する畏敬の念を体感した。

<生活・文化体験活動>

1 伝統料理体験

伝統料理体験では、田舎料理・そば打ち・あんぼ・ちまき・笹ずしの5つのグループに分かれ、昼食を手作りした。現地の方を講師としてお招きし、はじめての作業に戸惑いながらも同じグループの人と協力し、現地の風土に育まれた美味しい伝統料理を作り、食べることができた。

2 民泊農家のお手伝い

1日目の夕方から2日目まで各農家で農業体験を行った。農家ごとに体験内容は異なっていたが、各家庭での農業体験や生活体験は有意義なものとなった。また、事前に挨拶状を送っていたこともあり、違和感なく積極的に交流することができ、それぞれの家庭での交流は充実したものとなった。

○生徒の感想

- ・ 疲れるし、虫はいるし、ケガをするかもしれないハイキングが嫌だと思っていた。しかし、大巖寺高原のきれいな景色を見て嫌な気持ちはすべてなくなり、とてもよい思い出になった。
- ・ 中学に入学して時間も少なかったが、セカンドスクールでは友達の意外な一面が見ることができた。セカンドスクールが終わるころには新しい仲間との仲が深まったように感じることもできた。
- ・ 田植え体験を通して仲間と協力することの大切さを学んだ。広い面積の田植えを仲間とともにして、みんなで終わった時の達成感を一緒に感じられたことができたことが心に残る体験だった。
- ・ 田植え体験や農業体験で農家の方がやっていることを体験できたことが心に残っている。農業の大変さや辛さを学び、こんなに少ない人たちだけでやっているのかと思った。農業の問題について真剣に考える機会になった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

中学へ入学し間もない時期に5日間寝食をともにすることで、生徒同士の新たな人間関係が構築され、それが深まった。また、係の仕事をするを通して、自分の役割をきちんと果たすことが集団生活の中で大切だということを学ぶことができた。現地の人々と触れ合い親切にしてもらった経験からは、思いやりの気持ちやおもてなしの心を感じることができた。そして、雄大な自然と触れ合う体験を通して、自然に対する畏敬の念や、環境保護への関心を高めることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

例年通り十日町市でのセカンドスクールということで、毎年お世話になっている雪だるま財団さんとの信頼関係を築くことができていると感じられた。

今年度はここ数年大きな変更がされていなかった時程の見直しを行った。3、4日目は生徒の疲労が溜まっていることを考慮し、就寝時間を早めた上で起床時間を遅めに変更して睡眠時間を長めに確保した。このことは大巖寺高原のハイキングで、けが人や熱中症が出なかったことにもつながっていると思われる。

生徒の活動に関しては、どの活動にも意欲的に取り組むことができている、自然との共生や、集団生活における仲間との協力の大切さを実感することができていた。

課題としては現地の方の高齢化による民泊農家の受け入れ数の減少やそれに伴う受け入れ地域の範囲の拡大により緊急時の対応が難しくなっていることが挙げられる。

また、アレルギーや特別な配慮を要する生徒の対応については、現地の方との密な情報交換が必須である。漏れがないようにチェック体制を整えるなどの工夫を来年度以降もしていきたい。

第三中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月30日～10月4日(4泊5日)

参加人数 男子59名 女子40名
計99名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・「オリンピック・パラリンピック」について体験を通じて理解を深め、進んで平和な社会の実現に貢献する態度を養う。
- ・農業体験、黒部ダムの学習を通じて、農業や技術の進歩、自然エネルギーの活用について学び、自然との共生についての理解を深める。また東京と農村での暮らしの違いを体感し、現地の方との交流を通じて豊かな心を育む。
- ・活動に主体的・協同的に取り組む大切さを学び、課題を発見・解決する力を育成する。

○日程表

9月30日(月)		10月1日(火)		10月2日(水)	
7:30	学校にて出欠確認	6:30	起床、洗顔、朝食準備	6:30	起床、洗顔、朝食準備
7:35	学校にて出発式	7:00	朝食	7:00	朝食、退館式
8:00	学校出発	9:00	黒部ダム自然学習(昼食含)	9:00	スノーハーブにてオリパラ学習
12:10	池田クラフトパークにて昼食	16:00	ホテル五龍館着	10:45	新田公民館着、各民宿へ
14:20	白馬ジャンプ競技場	16:30	入浴	11:40	昼食
16:20	ホテル五龍館着	18:00	夕食	13:00	稲刈り体験
16:35	入浴、班長・室長会議	19:30	学年集会	16:30	夕食、オリ・パラ学習、入浴
18:40	入館式、夕食	20:30	班長・室長会議	20:30	班長会議、宿会議
20:30	班会議、部屋会議	21:00	班会議	22:00	消灯・就寝
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝		
10月3日(木)		10月4日(金)			
6:30	起床、洗顔、朝食準備	6:00	起床、洗顔、朝食準備		
7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	農業体験(各民宿プログラム) 昼食(郷土料理体験) もの作り体験	9:00	ウイング21にて合唱発表・退館式		
17:00	夕食	10:40	白馬五竜スキー場着		
20:40	班長会議、宿会議	11:30	昼食		
21:00	入浴	12:20	白馬五竜スキー場発		
22:00	消灯・就寝	16:15	学校着		
		16:30	閉校式・解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県、白馬村、黒部ダム、長野オリンピック・パラリンピックに関連するテーマを選択し、書籍やインターネット等を用いて調べたものをレポート形式にまとめ廊下に掲示した。また、掲示した他の生徒のレポートを見て、現地で質問したい内容をしおりに記入した。
- ・セカンドスクールを企画・立案してくださっているJA大北の方を学校へ招き、白馬村の自然や観光、農作業、長野オリンピック・パラリンピックについて学習した。
- ・黒部ダム建設当時の様子をまとめた映像を用いて、黒部ダムがどのような役割をなしているのか、建設時の苦労や困難等について学習した。
- ・社会科の課題でオリンピック・パラリンピックについて提示し、各国・地域の特色、文化、地形等について調べ、レポートにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・実施期間中、就寝前に1日のまとめとして、体験したことや学んだことを記録し、また、1日の感想をしおりの日記欄に記載した。実施後にはセカンドスクール全体を振り返って印象に残ったことや感じたことを原稿用紙2枚程度の作文にまとめた。
- ・クラスの班を農村体験、オリンピック・パラリンピック、黒部ダムの3つのテーマに分け、現地で集めたパンフレットや写真、実施期間中の記録を活用し、展示物を作成した。作成したものはくぬぎ祭（文化祭）で展示・発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 黒部ダムエコエネルギー学習

黒部ダムから見える長野県・富山県の山々、万年雪、雪解け水からなる川の流れ、その中で水力発電、破碎帯の水を利用した飲用水等、自然に触れるだけでなく、そのエネルギーの活用を学ぶことができた。またこの場所で発電した電力は日本の高度経済成長を支えたことを学び、私たちの現在の生活の礎の一つとなっていることを理解できた。



【エコエネルギー学習】

2 フォトギャラリー

現地で見た景色を写真で撮り、くぬぎ祭（文化祭）で掲示した。黒部峡谷や大町市、白馬村等、東京での生活とは異なる習慣のある地域のことを、改めて復習する機会となった。それぞれが撮影した写真の一枚一枚に、他学年の生徒や来場者の方々が見入っていた。

<社会体験活動>

1 農業体験

民宿近くの田んぼで稲刈り体験を実施した。手刈り、バインダー、コンバインのそれぞれを全員が体験し、稲刈りの大変さを実感的に学習した。最後に米のありがたみを感じながら、全員で落ちている稲穂を拾い集めた。バインダーやコンバインを体験する際、初めは緊張しながら操作する生徒もいたが、慣れてくると、楽しそうな表情で機械を操作していた。



【稲刈り体験】

2 合唱披露

ウイング 21 (合唱ホール) にて、お世話になったお礼として、民宿の方を招待して合唱発表会を行った。合唱発表会では、感謝の気持ちを込めて長野県歌「信濃の国」、「第三中学校校歌」、「明日の空へ」の3曲を披露した。生徒たちは精一杯の感謝の気持ちを込めて披露し、民宿の方も大変感動してくれ、生徒に対して「ありがとう」との言葉をかけてもらった。

<生活・文化体験活動>

1 ものづくり体験

籐細工、草虫、木彫りのプレート作りを、民宿ごとに実施した。籐細工では、作成前に籐を柔らかくする工夫などを学び、生徒一人一人が試行錯誤しながら伝統的な作法でかご等を作成した。草虫作りは道端に生えているススキを使い、民宿の方の手本を見様見真似で作っていた。木彫りのプレート作成では、民宿の方や仲間に教わりながら、生徒一人一人の個性が見られる素敵な作品を完成させた。現地の材料を使用し、地域の伝統的なものづくりを知るよい契機となった。



【籐細工作り体験】

2 農家民宿における生活体験

農家民宿では生徒一人一人が家族の一員として食事づくりや掃除等の家事を体験した。また2泊3日の生活の中で、そば打ちなどの郷土料理づくり体験や収穫したサツマイモからプリンを作る体験等を行った。さらにミニトマトの収穫・出荷準備の手伝いなどを通じ、白馬村の食文化や生活のみならず、私たちの生活への関連について学ぶ契機となった。

○生徒の感想

- ・稲刈り体験が一番よい経験でした。お米がどのようにして作られているかを学ぶことができました。
- ・オリンピックについて、テレビで放映されている部分だけでなく、選手村やトレーニングのことなどを学ぶことができ、東京オリンピックが楽しみになった。
- ・農業体験でコンバインに乗るなど、貴重な体験ができて良かったです。セカンドスクールに参加しなければ、体験することができないことばかりだった。



【ミニトマト収穫体験】

- ・2日目の黒部ダムエコエネルギー学習では、多くの人の犠牲の上に日本の発展があることを学んだ。ダム大きさにもびっくりした。事前に写真で見て想像していたよりもはるかに大きかった。このようなものを作った人々のことを本当にすごいと思った。
- ・楽しいセカンドスクールだった。民宿のお父さんから、私たちの知らない様々なことを教えてもらった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

白馬村の食生活や文化、自然、校歌合唱、オリンピック・パラリンピック学習等、普段の教科学習との関連に配慮した。また、各民宿での集団生活や班、クラス、学年単位での集団行動を通してコミュニケーション能力、団結力、協調性、規律を守る姿勢、T.P.Oを踏まえた行動をとる意識を育むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

十分な下準備と事前学習を通じて、大きなトラブルもなく円滑に実施することができた。天候にも恵まれて、雨による予定変更もなかった。学校の養護教諭が同行したため、生徒の健康管理において十分な対応をすることができた。白馬ジャンプ競技場では、実際にジャンプ台の頂上まで行き、素晴らしい景色を堪能することができた。一方で、高い所が苦手な生徒も多かったため、次年度以降は配慮が必要である。

農業体験や生活体験、合唱発表等を通じて現地の方との交流を深めることができた。それぞれの体験について、生徒の多くが充実して取り組むことができた。特に4日目の夜に各民宿で開催した感謝の気持ちを伝える会では、内容を生徒だけで企画立案し、生徒一人一人のやり方で感謝の気持ちを伝えることができた。

課題としては、様々な学校行事と並行して事前・事後学習を行っているため、生徒によっては集中して学習できないことが挙げられる。カリキュラム・マネジメントを通じ、生徒にとってよりよいカリキュラムを実施し、すべての生徒が充実した学習を行えるようにする必要がある。

第四中学校

群馬県利賀郡みなかみ町

9月25日～9月29日(4泊5日)

参加人数 男子76名 女子61名

計137名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・通常の学習で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用し、課題発見能力や問題解決能力を高める。
- ・長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自律性を育む。
- ・自然や農業にかかわる体験活動を通じて、「水」をテーマに自然との共生や畏敬の念を涵養する。

○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
7:45	市役所前駐車場集合、出発	6:00	起床、朝食準備	6:00	起床、朝食
		7:20	朝食	8:00	各農家ごとに農業体験
11:20	奈良俣・矢木沢ダム着、昼食	8:00	朝食片づけ テント片付け		
14:30	ホテルサンバード着	9:20	出発挨拶		
15:00	テント設営	10:00	稲刈り・はざかけ		
16:00	夕食準備(飯盒炊爨)	12:00	昼食	12:00	昼食
17:30	夕食	13:00	サンバード発	13:00	農家ごとに農業体験
17:30	片づけ	14:00	各農家との対面式		
19:30	星空観察教室	14:30	農家ごとに農業体験		
21:00	班長会	18:00	夕食・入浴	18:00	夕食 入浴
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
9月28日(土)		9月29日(日)			
6:00	起床、洗面、布団片づけ	6:00	起床、洗面、布団片づけ		
7:00	朝食	7:00	朝食(バイキング形式)		
9:20	宿舎発	8:45	一葉亭出発		
9:40	谷川岳近くの駐車場着	9:30	たくみの里着 体験(8か所)		
9:50	トレッキングスタート	11:00	そば打ち体験		
9:50	一ノ倉沢着 昼食		昼食		
13:30	谷川岳ロープウェイ搭乗・登山				
15:30	土合駅着	13:30	たくみの里出発		
16:30	一葉亭着 入浴	16:30	市役所前着 解散式 解散		
18:30	夕食(バイキング形式)				
20:00	レク大会				
22:00	消灯 就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県の自然や農業、みなかみ町の紹介など自分で一つテーマを選び、個人新聞を作成した。
- ・農家への挨拶状や自己紹介カードを作り事前に送付した。
- ・実行委員を中心にスローガン作りや生活のきまり（服装、持ち物、ルールなど）を作成した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を、農家班ごとの農家体験新聞にまとめ四中祭で展示し、体験学習の成果についてプレゼンテーションによる発表を行った。
- ・お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

みなかみ町の一ノ倉沢に登った。途中、ガイドの方から植物や地形の説明を聞きながら登山を行った。天候もよく、トレッキングの達成感を味わうことができた。その後、谷川岳ロープウェイで天神平へ行き、展望台までの天神山登山を行った。



【谷川岳一ノ倉沢の様子】



【トレッキングの様子】

2 キャンプ体験

ホテルサンバードのキャンプ場で行った。テントの設営も自分たちで行い、各テントにそれぞれ宿泊した。夕食は行動班に分かれ、班員と協力しながら飯盒炊爨によるカレー作りを行った。夜は10℃ぐらいまで気温が下がったが、テントの中で寝袋で過ごした。夜に予定していた星空観察教室は、素晴らしい満天の星空を見ることができた。クラスごとに天体や星座について解説してくれた講師の説明を真剣に聞いていた。



【テント張り】

<社会体験活動>

1 稲刈り・はざかけ体験

2日目の午前中に農業体験を行った。稲刈りやはざかけを体験し、自分の分担を一生懸命取り組む姿が印象的だった。6株刈ったらその場に置き、運搬し稲をひもで束ね、2束でき上がったらはざかけ場所へ運び、稲束をはざにかけた。当日は晴れて暑かったが、90分間集中して取り組み、概ね担当場所は刈り切ることができた。



【稲刈りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 農家泊

水上北、水上南、月夜野、新治、川場の農家の方に、2日目の午後から3日目、4日目の朝まで、2泊お世話になった。みなかみ町月夜野農村環境改善センターに集合してから34の各農家に分かれた。生徒たちは農家独特の住まいを体験し、農家の方との交流を深めた。そして、リンゴの収穫やジャムを作ったり、野菜や稲の収穫をしたりと、東京では体験できない貴重な経験をした。また、群馬特有の郷土料理・食物を味わうことができた。

2 たくみの里体験 そば打ち体験

5日目の最終日、草木染・七宝焼・ドライフラワー・繭・おしばな・おめん・ガラス・わら細工の8グループに分かれて体験をした。

そば打ち体験では、1クラス6班に分かれて体験を行った。自分で作ったものを食べて、そばを作る工程を学んだ。

3 ダム見学

1日目に利根川水系の最も重要なダムである、奈良俣ダム・矢木沢ダムの見学をした。2クラスずつに分かれて交互に両方のダムを見学し、建造物の大きさに感嘆し、資料館にてダムの構造や歴史、どのように利用されているのかを学んだ。



【矢木沢ダム見学】



【奈良俣ダム見学】

○生徒の感想

- ・ 僕はこの5日間のセカンドスクールで、豊かな自然に多く触れることができた。そして、飯盒炊爨や農業体験、ハイキングなどで仲間と協力し合い、5日間で多くのことを知り、学ぶことができた。とても内容の濃い4泊5日だったと思う。
- ・ 1番楽しかったのはレク大会です。みんなで盛り上がる時は盛り上がり、説明の時など静かにする時は静かにできてよかったです。1番辛かったのはトレッキングです。しかし、辛いときは声を掛け合って助け合いながら登り、リタイアが一人もいなかったことがよかったですと思います。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

「共生」が第1学年の総合的な学習の時間のテーマである。様々な活動を通して自然との共生、人との共生を考えていくことにしている。

セカンドスクール4泊5日の生活を通して、仲間の大切さや仲間に対する思いやりを考えるよい機会でもあったと思う。この体験を今後の学校生活に生かしていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

地域の方との交流や自然の中での生活、仲間との協同生活を通して、人と人との関わりや生きていく上で大切なことは何かということを考えるよい機会になった。5日間ともに天気恵まれ、計画通りにできた。またトレッキングや稲刈りで怪我をすることもなく無事に終えることができたことも大きな成果である。みなかみ町は2017年にユネスコエコパークに登録され、自然との共生社会を目指している。来年度以降の実施に向けて、農家泊やトレッキングの内容を再度見直し、「人や自然との共生」をより一層考えさせられるように努力していきたい。課題としては、事前にユネスコエコパークに登録されている地域性を踏まえ、持続可能な社会づくりに視点をあてた学習を深めていくべきである。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月17日～9月21日(4泊5日)

参加人数 男子18名 女子26名
計44名

○セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・大町市や白馬村の農家民宿の方の話を通して、その土地の歴史の一端に触れながら文化の成立過程等への関心を高め、知識を深める。
- ・農業体験を通じて、勤労を尊重する姿勢と知的好奇心を養いながら課題解決力を養う。
- ・交流体験を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性と、自らの考えを論理的に表現する力を養う。
- ・宿泊体験を通じて、自主自律の意識を高めるとともに協調性と人間関係調整能力を養う。
- ・国際競技場見学体験を通じて、かつてのオリンピック・パラリンピックの感動を共有し、来たる東京オリンピック・パラリンピックへの応援に関わる参加意識を高める。
- ・自然体験を通じて、環境保全意識と自然そのものへの畏敬の念を培う。

○日程表

9月17日(火)		9月18日(水)		9月19日(木)	
7:00	五中集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:30	バス出発	7:15	朝食、退館式	7:00	朝食
11:50	大町公園着、昼食	8:30	オリパラ学習(ウイング21)	9:00	親海湿原での環境保全活動
13:15	八坂中学校着、交流学习	10:00	八方ゴンドラ駅到着	10:30	昼食
16:00	下校体験	10:30	昼食	12:30	農村ふれあい体験①
18:15	ホテル五龍館着	12:30	各民宿へ移動	17:00	夕食、入浴
19:00	夕食、入館式	13:30	各宿でオリエンテーション	21:30	班会議
19:50	自由時間、入浴	14:00	各宿でオリパラ学習	22:00	就寝
21:30	班長会議	17:00	夕食、入浴		
22:00	就寝	21:30	班会議		
		22:00	就寝		
9月20日(金)		9月21日(土)			
6:30	起床	6:00	起床、朝食		
7:00	朝食	7:40	さのさかスキー場集合		
8:30	農村ふれあい体験②	8:20	オリパラ学習(エスカルプラザ)		
12:00	昼食	9:30	白馬ジャンプ台着		
13:20	稲刈り体験	11:10	ウイング21着		
16:00	入浴	11:30	退村式		
17:00	夕食	12:15	エスカルプラザ着、昼食		
19:30	各宿プログラム	12:50	エスカルプラザ発		
21:30	班会議	17:30	五中着、閉校式		
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・大町市（八坂地区）、白馬村についてのテーマ別調べ学習を行った。テーマは、①食・文化、②産業・交通、③歴史・自然、④福祉・防災、とした。
- ・自分の住んでいる地域の紹介に向けて、ポスターセッションの準備を行った。また、準備にあたり、3年生の修学旅行のポスターセッションを見て、参考にした。
- ・1学期の総合的な学習の時間で、現地受け入れのコーディネーターであるJA大北観光課の方から、白馬村や大町市の魅力や特色を紹介していただき、セカンドスクールで行う環境保全活動や農作業（稲刈り）体験、登山、農家の方との農村ふれあい体験などの学習の意義についてお話を伺った。

2 事後の学習内容

- ・民宿ごとに学んできたことを個人で新聞形式にまとめ、クラスで発表した。
- ・お世話になった民宿の方にお礼状を書いた。
- ・事前学習の内容や現地で体験してきたことを、総合的な学習の時間のテーマである「食育」や、進路学習の「職業調べ」などに関連させて進めた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 姫川源流散策

姫川は宿泊地である白馬さのさか地区の源流から 58 キロメートル離れた日本海に注ぐ一級河川であり、姫川源流の湧き水は「日本の名水百選」にも指定されている。様々な動植物が生育する環境である姫川源流一帯で、湧き水を直接観察しながら五感を働かせて散策する活動は、自然の豊かさや美しさを実感できる情操教育の一助となった。

<社会体験活動>

1 大町市立八坂中学校との交流学习

八坂中学校は全校生徒 25 名と小規模の学校であり、1～3年生との交流学习となった。「お互いの地域を紹介する」ことを大きなテーマとし、ポスターセッションを行った。発表のテーマは「食・文化」、「産業・交通」、「歴史・自然」、「福祉・防災」の4つを設定した。生徒は初めてのポスターセッションであることや、他校生徒との交流という点で緊張していたが、積極的な発表ができていた。八坂中の上級生の発表は、今後の目標となるものであった。



【ポスターセッションの様子】

2 ウイング21でのオリンピックレガシーについての学習

ウイング21の施設技師から、オリンピックレガシーについての話を聞いた。長野オリンピックでは白馬村にもスノーハープや白馬ジャンプ台、八方尾根のアルペン会場などの競技施設が造られたが、オリンピック後の施設の維持に多くの予算が割かれているという点が特に生徒には印象に残ったようである。東京では2020年に向けて盛り上がりを見せているが、「オリンピックレガシー」とどのように向き合うかということを生徒自身が認識することができた。

3 親海湿原環境保全活動

宿泊先の農家の方々と一緒に、環境保全活動として湿原固有植物を侵食するヨシの駆逐作業を行った。鎌による手刈りなので、危険を伴う刃物の適切な使い方や周りへの配慮を意識することを学んだ。今年で4年目の活動で、過去の活動の中で天然記念物の花が再び咲いたということもあり、伝統や意義を実感する生徒も多かった。



【親海湿原で刈ったヨシを運ぶ様子】

<生活・文化体験活動>

1 白馬ジャンプ台見学

1998年の長野冬季オリンピック会場となった白馬ジャンプ競技場で、役場の方から当時の様子や取組について伺い、歴史的な位置付けや今後の展望などから、オリンピック・パラリンピックの意義を実感した。また、ジャンプ台や施設内の展示品からも競技の魅力が伝わってきた。

2 農村ふれあい体験

畑仕事、農作物の収穫などの農作業体験や、蕎麦打ち体験や郷土料理体験、小物細工など、農家民宿ごとのプログラムに従って様々な農村生活を体験し、集団生活における人と人との支え合いや温かさを学び、感じる機会となった。

3 稲刈り体験

手刈りだけでなく、コンバイン、バインダーといった収穫機を農家の方の指導のもと実際に操作し、米の収穫作業について学んだ。また、今年度は脱穀作業まで体験することができ、収穫した稲を生徒と農家の方々が協力し合って、脱穀機に運ぶ作業をした。米ができる過程を学ぶだけでなく、その過程の中で農家の方々が協力し合っていることを体感することができた。

4 農家の方との交流学習会

農村での暮らしぶりや食育、オリパラなど多岐に渡るお話を農家の方から直接語っていただき、生活への影響を理解したり、特産物をいただいて交流を深めたりする有意義な時間となった。また、農家の方への武蔵野市の紹介のポスターセッションを実施した。農家の方からの質問もあり、生徒にとって、お互いの地域の理解を深める非常に良い経験になった。

○生徒の感想

- ・八坂中学校とのポスターセッションで、八坂中学校の生徒が、自分たちができなかった様々な発表の工夫をされていてよかった。
- ・長野オリンピックの話聞いて、長野県の当時のことや今どうなっているかを教えてもらいました。話を聞いてわかったことは「オリンピックをするだけの会場として建ててはいけない」ということです。
- ・稲刈りを体験して感じたことは、鎌を使って稲を刈るより、機械を使えば速くなるということです。現在は機械があるのでよい世界になっているなど感じました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

4年前から実施場所を白馬村・大町市方面に変更し、現地の中学生や農家の方との交流学习、自然体験、環境保全活動、農作業体験、施設等見学などを通して、人と人のふれあいや環境づくりについて学び、総合的に「市民性」を育成し、生きる力を養うための絶好の機会としている。理科や社会科をはじめとする様々な教科の学びの深まりや、普段の学校や家庭、地域での日常生活での経験をもとに、これからの人間関係や社会生活を捉え直すきっかけともなった。今後の食育や進路学習について、意欲的に取り組むための導入としてもよい活動である。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は交流学习の相手校を初めて大町市立八坂中学校にお願いした。昨年までの仁科台中学校との交流では、大町市内の探索であったが、山村留学発祥の地という、自然豊かな下校路を共に歩き、武蔵野市との環境の違いを実感できた。1～3年生が総出で行ったポスターセッションとともに、こちらとしては来年度以降継続するべき、貴重な交流機会・学習機会であるとする。一方で、八坂中学校までの道のりで山の斜面ののり面を補修する工事が行われていたため、観光バスが通れず、急遽タクシーを手配することとなった。武蔵野市の学校だけでなく、交流学习を行う相手校にとっても、貴重な交流機会・学習機会を奪うことが無いように、緊急的な事態に柔軟に対応できる仕組みづくりを考えていく必要があると考える。今回、八方池登山が雨天で決行できなかったことで、2日目の午後の活動を考えるのに苦慮した部分がある。生徒によりよい体験活動を経験させるためにも、予算面での配慮が望まれる。2日目以降の農家体験においては、農村ふれあい体験をはじめ、親海湿原での環境保全活動や稲刈り体験など、生徒も、心地よい疲労感を感じながら、貴重な体験・経験をすることができた。しかし、事前学習やポスターセッションの準備を行うにあたり、時間数の確保が依然として課題である。今回も、学活や総合的な学習の時間、夏休みを使い、準備を進めた。しかし、体育大会練習や部活動との兼ね合いもあり、融通が難しいと感じた事も事実である。生徒・教員ともに無理のない日程調整を検討する必要性を感じた。

第六中学校

長野県安曇野市

9月4日～9月8日(4泊5日)

参加人数 男子37名 女子26名
計63名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長野県の自然や歴史、地理、文化などの地域性を多面的、多角的に学ぶ力を育む。
- ・共同生活の中で相手の気持ちを考え、協調する力を育む。
- ・自ら課題を設定し、体験を通して追究し解決する力を育む。
- ・地域の方々との交流を通して、感謝や礼儀を重んじる姿勢を培う。

○日程表

9月4日(水)		9月5日(木)		9月6日(金)	
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	宿舎到着 開校式	9:00	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:15	稲刈り体験 田淵行男記念館見学	10:45	上高地ハイキング
13:30	オリエンテーリング	12:30	昼食	12:45	昼食
19:00	夕食	14:00	わさび掘り体験 わさび漬け作り体験	16:10	上高地バスターミナル出発
20:00	農作業体験講義	17:00	夕食	18:50	宿舎到着
21:40	部屋班・行動班係会議	18:20	キャンプファイヤー	19:30	夕食
22:30	消灯	21:30	部屋班・行動班係会議	21:55	部屋班・行動班係会議
		22:30	消灯	22:30	消灯
9月7日(土)		9月8日(日)			
6:30	起床	8:00	集合		
7:00	朝食		閉校式		
8:30	民泊対面式	8:30	朝食		
9:00	各農家へ 安曇野生活体験	9:30	ガラス細工体験・田淵行男記念館見学		
12:00	昼食作り 安曇野生活体験	11:40	昼食		
17:30	夕食作り	12:40	宿舎出発		
19:00	民泊先の方々との交流	17:15	二小前しろがね公園到着・解散		
21:00	民泊				
22:30	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・インターネットや文献で安曇野市について調べ、知識と理解を深めた。
- ・自然、農業、地理、食、歴史、そして文化といった総合的な学習時間のテーマを設けて自ら選択し、安曇野市や長野県について調べ学習を行い、冊子を作成した。
- ・民泊でお世話になる家庭宛てに自己紹介文を作成した。

2 事後の学習内容

- ・民泊でお世話になった家庭宛てに、お礼状を作成した。時候の挨拶や文章の作成など、国語的な観点からも学んだ。
- ・5日間で学習、体験したことを班ごとにポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。
- ・5日間で学習、体験したことの中からテーマを決め、レポートを作成した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 上高地ハイキング

3日目、宿舎からバスで大正池まで移動し、班行動により河童橋、明神橋、そしてまた河童橋まで戻りバスで帰った。河童橋からは、右岸コース、左岸コースに別れ、帰りの明神橋からは行きと反対のコースを班で行動した。班長を中心に与えられた役割を果たしながら、上高地の自然を体感できた。また、道中で野生の猿や普段見られない草木を見ながら、大自然を全身で感じることもできた。

<社会体験活動>

1 農業体験

1日目、農業体験講義として、「稲作」と「わさび」についてお話を聞いた。翌日体験する稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。「稲作」に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具などの基礎的なことから、現在の農業事情のような詳細まで説明していただいた。「わさび」の講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、長野の風土や気候を交えてわかりやすく説明していただいた。生徒は、興味深く講義を聴き、真剣にメモをとりながら「稲作」や「わさび」について、理解を深めていた。

また、2日目に行った稲刈りでは、鎌の使い方や稲の縛り方を学び、わさび掘体験では、わさび田に入り、本物に触れる貴重な体験をした。前日に農業体験講義を行っているので、よい追体験になった。



【稲刈り体験】

2 安曇野オリエンテーリング

1日目初めの班行動として、ビレッジ安曇野を起点に、豊科市街地の郷土博物館、近代美術館およびビレッジ近くの憩いの池をめぐるオリエンテーリングを実施した。田園風景に囲まれたあぜ道を通り、自然を感じながら道中にある道祖神を多くを見つけることを課題とした。また立ち寄り先の郷土博物館、近代美術館でも工芸品や美術品に触れた。後半に少し雨が降ったが、班で協力をしながら行動する力を身につけることができた。

3 ガラス細工体験

5日目、宿舎近くにある工房の方のご協力により、ガラス細工体験を行った。事前に考えてきたデザインをもとに、ガラスにリユーターで絵をつける体験である。工房の方に教わりながら、生徒一人一人が思い思いの作品作りに一生懸命取り組み、安曇野市の伝統工芸に触れることができた。

<生活・文化体験活動>

1 わさび漬け作り体験

2日目、片方のクラスがわさび堀り体験を行っている間に、もう1クラスがわさび漬け体験を行った。わさびを刻むところから始まり、酒粕や調味料を合わせて1日ねかせた。

作ったわさび漬けは各家庭にお土産として持ち帰り、安曇野の特産物について家で話題にするきっかけとなった。

2 民泊体験

4日目、安曇野の農家に生徒が班ごとに分かれて民泊体験を行った。それぞれの家庭で農作業体験をさせて頂いた。また、各家庭で特色のある体験活動を楽しみ行うことができた。宿泊先の方との交流を深めることができ、文化や伝統に触れるだけでなく、人とのふれあいも体験することができた。



【民泊体験】

○生徒の感想

- ・稲刈りの体験から、誰かの苦勞があつてお米が自分のところに届いているのだと感じ、常に感謝の気持ちを忘れないようにしようと思った。
- ・民泊の方が優しく接してくれて、安曇野市がより深く印象に残った。
- ・友達と声を掛け合い行動する事、楽しむときは楽しみ、聞くときは聞く、けじめをつけることを学んだ。
- ・わさび田の水の冷たさ、安曇野の夜空、山の風景などが印象的だった。
- ・オリエンテーリングや上高地の班行動から、「友達の事をしっかりと思いやり、何にでも挑戦する。」ということをおぼろげに忘れないようにしようと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連

総合的な学習の時間を使った事前学習、事後学習に取り組むことで、長野県安曇野市の文化や地理等について学んだ。

事前学習では、長野県に関するテーマを自ら選んで調べ学習を行い、調べたことをまとめ、学年で1つの冊子を作成することを通して関心、意欲を高めた。

事後学習では、現地で体験したことや感じたことを基に、班でポスターを作り、ポスターセッションを行った。ポスターセッションでは、自らテーマ設定を行い、互いの発表を評価し合うことで、学習成果の共有を図ることができた。また、レポート作成では、ポスターセッションと同じく、体験し感じたことや、ポスターセッションの際に出た疑問や関心に基づいてテーマ設定を行った。そして、3学期には、まとめや考察等を進めて発表を行った。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

普段の学校生活では、クラスを中心とした生活を送っているが、このセカンドスクールにおいては、班行動や学年全体での行動と、様々な規模の集団で活動する。班行動では、生活班、行動班、民泊班と、さらに細分化された班で行動を共にするため、様々な生徒とふれあい行動する機会を多く設けた。また、クラスの枠をこえた学年全体での活動も取り入れることで、自主自立の精神を高めることができた。また、全員に役割を持たせることで、責任感を持って仕事に取り組む力と自信が付き、学校に戻っても活躍する場面が多くみられた。

今年度は天候にも恵まれ、5日間のプログラムをすべて慣行することができ、安曇野市の大自然や農業体験など、東京では味わえないような経験を多く積むことができた。民泊に関しては、宿泊先が遠く離れた個所に点在したため、急病が出た際に車で迎えに行くのでさえ、相当の時間を要した。次年度は、不測の事態にも迅速に対応できる範囲での民泊先の確保が必要である。

フシセカンドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月18日～9月20日(2泊3日)

参加人数 男子30名 女子30名
計60名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・施設見学や散策の活動を通して体験したこと、ガイドの方からの説明などの情報から、自己の課題に必要な情報を取捨選択し、解決できる力を養う。
- ・事前学習から立てた自己の学習課題について、富士山とその周辺の散策や富士山に関わる施設見学などから集めた情報を取捨選択する力を育てる。
- ・散策や見学を通して得られた知識と、今までに習得した自分の知識や経験とを結び付けてまとめ、表現する力を育む。
- ・自身が設定した課題の解決に向け、他者と力を合わせて協同的に取り組む中で、異なる意見を生かして新たな学びを獲得する。

○日程表

9月18日(水)		9月19日(木)		9月20日(金)	
7:45	校庭集合	6:15	起床 検温	6:15	起床 検温
8:15	出発式	6:45	朝会	6:45	朝会
	談合坂 SA にて休憩	7:30	朝食	7:30	朝食
10:15	富士山世界遺産センター着 見学	9:00	紅葉台入口着 紅葉台・三湖台ハイキング	8:00	清掃 出発準備
12:00	富士山五合目着 昼食 御中道コーストレッキング	11:30	野鳥の森公園着 昼食	10:00	富士山レーダードーム館着 見学
14:00	奥庭駐車場着	13:45	富岳風穴見学	11:30	さかな公園着 昼食
14:50	宿舎着 開校式	15:15	宿舎着	12:30	富士湧水の里水族館見学
16:30	入浴	16:30	入浴	13:45	出発
18:00	夕食	18:00	夕食	13:45	談合坂 SA にて休憩
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	16:50	学校着 帰校式
20:00	就寝準備 健康観察	20:00	就寝準備 健康観察		
21:00	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・事前学習として、1学期に『富士山の魅力を探る』活動を進めた。「世界中から観光客が訪れる富士山には、どのような魅力があるのか」を地図や周辺施設などの資料から考えさせ、個々に課題を設定した。2学期からは具体的に調べてみたいことを絞り込み、それを課題として設定して調査活動を進めた。活動に際しては、市内の図書館からも本を借りるなどしながら情報を集めた。その後、集めた情報を整理し、互いに発表しあう活動を行った。情報を共有したことで、『事前学習で明らかになったこと』と『まだ分からないこと・新たに調べてみたいこと』が明確になり、どの学習活動でどんなことが学べるか、見通しをもつことができるようになった。
- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて指導した。また、養護教諭と連携し、保健領域「育ちゆく体とわたし」の授業を行い、心身の発達に伴った健全かつ快適な過ごし方について指導した。

2 事後の学習内容

3日間の宿舎での生活や学習活動を通して、学んだことや自分自身の成長を作文にまとめて発表し合った。互いの学びや成長を共有することで、宿泊行事に対する考え方や適切な過ごし方についてより深く振り返ることができた。また、各児童が事前に設定した課題学習に対し、現地で学んだことや新たに発見したことをワークシートにまとめ、学習の成果として掲示した。その後、学習したことを来年4年生になる、現在の3年生にも伝えたいという思いから、「プレセカンドスクール発表会をしよう」という活動を設定した。学級内で6グループに分かれ、3年生にプレセカンドスクールでの感動や学びを伝えるため、話す順番や写真の見せ方など発表の仕方を工夫し、総合的な学習の時間を用いて発表会を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

五合目から行うトレッキングでは、雲や地面、植物の様子の変化について注目させた。天候は良くなかったが雲の切れ間から見えた富士山の裾野に広がる樹海にも注目して、熱心に観察していた。

トレッキングでは、足元がふだん見慣れた地面とは違うことや、木々が外側に向かって反りながら生えていることなど、気付いたことをそれぞれ口にして、情報を共有しながら歩いていた。低木やコケ類、キノコが厳しい環境の中で生育していることを、実感をもって学習することができた。



【御中道コースのトレッキング】

2 紅葉台・三湖台ハイキング

紅葉台の入口から三湖台にかけて整備されたコースを歩いた。展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望できた。児童はそれらの位置関係から、富士山の噴火に伴う溶岩流によって樹海や富士五湖が形成されたなど、事前学習や当日の施設見学で身に付けた知識を確認し合っていた。



【三湖台から眺める青木ヶ原樹海】

3 富岳風穴見学・青木ヶ原樹海ハイキング

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学はネイチャーガイド3名同行のもと行った。樹海ハイキングでは、ガイドから植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態について詳しく説明を受けた。動物や樹木だけでなく、朽ちた木、キノコ類、コケ類、シダ類や微生物など全てが互いに関係しながら豊かな自然を育てているということを知り、こうした自然を大切にしなければという意識を高めていた。富岳風穴の見学では、溶岩棚や縄状溶岩など、自然の織り成す世界に改めて驚いた様子であった。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

最初に富士山の形成について大型スクリーンによるビデオ上映を見た。その後児童は、自分の課題に沿って館内にある様々な展示資料から情報を集め、熱心にメモを取る姿が見られた。

2 富士山レーダードーム館

施設の方から全員に一枚ずつのワークシートをもらい、レーダードームに関する問題の答えを探しながら学習を進めることができた。レーダードームが必要とされてきた理由や、先人の苦労などをクイズ形式で楽しみながら理解を深めていた。答えが展示資料の中で必ず説明されているので、児童は説明をよく読みながら情報を集めていた。



【クイズに真剣に向き合う児童】

3 山梨県立富士湧水の里水族館

湧水の里水族館では、富士山周辺の多くの動植物が展示されていた。展示はいずれも回遊水槽や流水水槽など自然に近い環境を整え、工夫を凝らしていた。ブラウジングコーナーやオープンラボコーナーなども充実しており、館内を自由に見学することで、児童は様々な角度から観察や調査を進めることができた。

○児童の感想

- ・富士山世界遺産センターでは、事前学習で学んだ「数回の噴火を繰り返して形成された富士山の姿」を、様々な模型で展示してあったため、とても分かりやすかった。また、富士山に対する昔の人々の信仰心に驚いた。
- ・五合目ハイキングでは、武蔵野市の周辺とは全く違った地面・木々を見ることができた。標高や環境によって、いろいろな違いを実際に観察することができた。
- ・樹海ハイキングでは、野生のリスが食べた後に残った「森のエビフライ」をガイドさんが見せてくれた。昔からの自然が、そのまま残されている樹海やその中で生きる動植物を大切にしていかななくてはならないと感じた。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・セカンドスクールでは「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って一人一人が課題を決め、現地でグループに分かれて調査活動や発表を行う。ファーストスクールと異なり、現地学習では、学習形態が状況や内容に応じて変化することや、計画の見直しが必要になることもある。第4学年から「事前学習ー現地学習ー事後学習」という大きな活動の流れを押さえ、次年度からスムーズに学習活動に取り組むことができるようにしたい。
- ・プレセカンドスクールでは教員も含めて全員が一つの宿舎で生活をするのに対し、セカンドスクールでは分宿となるため、児童が自分たちの力で班の全員がよりよく生活するための工夫を考えていくこととなる。そのため、今回のプレセカンドスクールでは、荷物の整理整頓、入浴や食事、就寝前の過ごし方など生活面に関する知識を身に付けさせるとともに、教師が教えるだけでなく、児童同士での話し合いによる課題解決の場面も積極的に設けた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・朝の会を河口湖畔で行うこととした。朝の静かな湖畔と、そこに差し込む朝日でとてもさわやかな朝の会となった。また、湖畔までの移動を教員が引率せず、班ごとにまとまって移動した経験は、班ごとに分宿する次年度のセカンドスクールにも活かすことができる。
- ・富士山の事前学習に関して、個人の課題解決学習に多くの時間を設定した。事前学習による理解をもち、参加することができたものの、富岳風穴や富士山レーダードームなど、当日見学する施設や見学場所について、十分な学習を進めることができなかった。当日の行程表から、どのような理由で見学場所として設定されているのか考えさせる機会を設ける必要がある。

第二小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月7日～10月9日(2泊3日)

参加人数 男子44名 女子33名
計77名

○プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・富士河口湖町の特色や富士山・河口湖の特徴を知り、環境や自然とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・富士河口湖町のことについて様々な視点から自ら進んで課題をもち、事前調べ学習を行い、体験学習を行うことによって、問題解決能力を育てる。
- ・自然や体験活動を通して自然や山梨県に対する興味関心を高める。
- ・宿舎での集団生活の中で協力し合う力を育む。

○日程表

10月7日(月)		10月8日(火)		10月9日(水)	
6:30	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
7:35	出発式	6:30	体操、朝会	6:30	体操、朝会
7:45	バス出発	7:00	朝食	7:30	朝食
10:00	西湖公民館(ほうとう作り)	9:00	富岳風穴	8:15	河口湖散策
11:00	昼食(ほうとう)	9:30	樹海ハイキング(ネイチャーガイド)	9:15	閉校式
13:00	河口湖フィールドセンター ガイドウォーク クラフト体験	12:00	昼食	10:30	勝沼ぶどう畑農業体験
15:50	開校式	14:00	富士山世界遺産センター	13:00	昼食
16:30	入浴	16:30	入浴	13:30	扇状地見学
18:15	夕食	18:30	夕食	15:20	学校着、解散式
19:30	係会議	20:00	学習の記録・葉書書き		
20:00	学習の記録・葉書書き	21:00	就寝		
21:00	就寝				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊行事ということもあり、ホテル内の様子や活動の様子を昨年度の写真や映像を見せながら学習した。また自分たちで考えて活動できるように係を編成し、仕事内容を分担した。
- ・山梨県の自然(富士山をはじめとした周辺の自然)、富士山が世界遺産になった理由、山梨県の特色ある郷土料理や農産物など、実際に行く場所や体験する活動内容などを踏まえて項目ごとに調べ、関心・意欲や知識を深めるようにした。

2 事後の学習内容

ほうとうの作り方や富士山周辺の自然の様子などを、事前学習で調べたことをもとに、現地での体験活動を通して自ら確かめた。事前学習、プレセカンドスクール当日、事後学習の一連の学習を通して、自らテーマをもって取り組んだ。それをもとに「ほうとう作り」、「溶岩樹型・ガイドウォーク」、「クラフト体験」、「ホテルでの生活」などのプレセカンドスクール中の活動や、「山梨県について」といったテーマでグループを作り、発表資料や発表原稿を作成し、発表した。また4年生同士で発表し合うだけでなく、次年度プレセカンドスクールに行く3年生に向けても発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ガイドウォーク・複合型溶岩樹形観察(河口湖フィールドセンター)

ガイドウォークでは、学年を5つのグループに分かれて樹海の中を歩き、溶岩樹形を観察した。溶岩樹形のでき方や様々な種類の溶岩樹形を学習した。また、樹海の中にある特色ある自然の生き物や植物について、ガイドさんの話を聞いた。溶岩樹形の作られ方や、特徴的な洞窟型の形状、富士山周辺で見られる生き物や特色ある植物などを、ガイドさんの話を聞きながら実際に樹型の中に入ったり、触ってたりして学習することができた。



【ガイドウォーク】

2 樹海ハイキング(風穴～紅葉台展望台～三湖台)

富岳風穴では、実際に風穴の中に入ること、外気と風穴内との温度差を肌で体感した。天然の冷蔵庫として活用されていたことを、体で感じながら理解することができた。樹海ハイキングでは、ネイチャーガイドの方の話を聞きながら、樹海の特徴である原生林の様子や、特有の地形や植物について学ぶことができた。また、富士山の噴火の歴史を、溶岩の様子や地形の変化から実感し、学びながらハイキングすることができた。グループごとにガイドの話を聞き、樹海内の特徴的な木の生え方、生き物の様子、富士山のでき方など様々なことを聞くことを通して、樹海の特徴的な地形や性質について深く学ぶことができた。



【樹海ハイキング】

3 河口湖散策

3日目の朝会后、湖畔を観察しながら歩いた。山々が湖面に映る様子や、湖畔にいる生き物を見て、自然の美しさを感じることができた。武蔵野近辺には湖がないため、大きさに驚くと共に、その美しさに感動する児童もいた。

＜社会体験活動＞

1 富士の歴史や自然について(富士山世界遺産センター)

南館では、ガイドの方に詳しく案内していただき、富士山の美しさや、富士山が世界遺産に登録された理由などの話を聞いた。自然としての価値ではなく、日本の文化に対する影響の大きさを鑑みて登録されたということを知り、児童は驚くとともに富士山に対する理解や畏敬の念を一層深めることができた。北館では、グループごとに分かれ、主に富士山周辺の自然や生物についての展示を見学した。ワークシートをもとに、意欲的に取り組んだ。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験(西湖公民館)

ほうとう作り体験では、現地の方に丁寧に教えていただきながら、山梨県の郷土料理であるほうとうの麺を作った。仲間と協力してほうとうを作る活動を通して、仲間との絆を深めることができた。児童は「生地を踏んで麺を作るのが楽しかった。」「家でも作りたい。」という感想をもった。自分たちで作ったほうとうの味が素晴らしく、一生懸命頑張った達成感を味わうことができた。



【ほうとう作り】

2 クラフト体験(河口湖フィールドセンター)

フィールドセンターでは、バードコールとペーパーウェイトを児童が選択してクラフト体験を行った。バードコールでは、初めて使う小刀の使い方を、指導者の話をよく聞き、自分で描くものを考えて作業に取り組んだ。鳥の鳴き声にそっくりな音が出ることに喜んで遊んでいた。ペーパーウェイトも自分で考えたデザインで作り、完成品をみて達成感を味わっていた。



【クラフト体験】

3 農業体験(ぶどう畑)

勝沼のぶどう畑では、ぶどうの収穫・草取り・かさ拭き体験を行った。事前学習でもぶどうについて熱心に調べていたため、農家の方の話を聞いて、ぶどうを作るときの苦労や工夫について知ることができた。子どもたちからもぶどう作りの大変さやぶどうの種類など、たくさんの質問が出て意欲的に学習に取り組んでいた。収穫体験では、ぶどうに傷がつかないように気を付けて収穫していた。草取り・かさ拭きも農家の方の苦労や大変さを実感しながら取り組むことができた。



【ぶどうの収穫】

○児童の感想

- ・樹海ハイキングの山道が、とても大変でした。友達とリュックを後ろから支え合って登りました。だからこそ、頂上についた時の景色がとってもきれいに感じました。
- ・ホテルでは、時間をみて行動したり、自分の仕事をしたり、自分の気持ちだけでなく友達のことを考えて生活したりするので大変でした。けれど、班長としてのやりがいを感じました。
- ・班長として自由行動の時に、みんながやりたいことをできるだけ全てできるようにしたのが大変でした。また班のメンバーが集まったことを先生に伝えるのを最初は忘れてしまいましたが、最後の方はしっかりと伝えることができました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

プレセカンドスクールを通して、「自分のことは自分でやる」ことを一つの目標に準備を進めた。児童は2泊3日を過ごす中で、自分の身の回りのこと以外にも、係ごとに班のメンバーに声をかけたり、次の予定や時間を意識したりするなど、見通しを立てて行動することの大切さを強く感じていた。教師や大人の手を借りず、自分たちの力だけで生活したり活動したりする中で、自分だけでなく他人にも意識を向けて、困っている人や、行動が遅れている人を助けることで全体として自分たちの行動が早くなったり、気持ちよく活動できたりすることを感じ、協力することの大切さを理解していた。次年度のセカンドスクールでは分宿となり、プレセカンドスクールの宿泊形態とは異なるが、今回学んだ「協力する大切さ」を生かし、セカンドスクールも仲間とともに成功させたいという思いを強くもたせることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ほうとう作り体験や溶岩樹形の観察など、体験活動を多く取り入れたことにより、事前学習から学んできたことを実際に児童が自分の体で体験することができた。結果として、児童が主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・ホテルでの生活を係で分担して取り組んだり、班で一緒に活動したりすることにより、「自分たちのことは自分たちでやる」というプレセカンドスクールの一つのねらいに迫り、児童自ら考え、互いに声を掛け合って生活することができた。
- ・引率教員、指導員を含め、全員の配置と詳細の動きを事前に打ち合わせておくことで、当日に混乱なく取り組ませることができた。次年度も同様に綿密な打ち合わせをした方がよいと感じた。
- ・昨年度の反省を生かし、開校式でホテルでの過ごし方について再度ルールの確認を行い、さらに到着後すぐに室長会議を開きマナー意識を呼びかけた。しかし、貸し切りで、初めての宿泊により気持ちが高ぶり、マナーを守って生活できない児童もいた。なぜマナーを守って過ごすことが大切なのか、より見通しをもたせ、児童自身が守ろうとする意欲を高める必要がある。

第三小学校

群馬県利根郡片品村

6月5日～6月7日(2泊3日)

参加人数 男子43名 女子30名
計73名

○プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・集団生活でのマナーを守り、生活上自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付ける。
- ・必要な情報を集めたり、現地の方に聞いたりして、興味・関心を喚起し、自らの課題を解決するための力を育む。
- ・友達同士で、適切に意見交換を行いながら試行錯誤を繰り返し、課題を解決する力を育む。
- ・課題解決したことを伝え合うことにより、学びあい、新たな課題を解決していこうとする力を育む。
- ・自然との触れ合いや、現地の方との触れ合いを通して、豊かな情操や感性を養い、お世話になっている方への感謝の気持ちを育む。
- ・自然体験や人との関わりから学んだことを、今後の学習や生活に生かしていこうとする態度を育む。
- ・何事も最後までやり抜こうとする力を育む。

○日程表

6月5日(水)		6月6日(木)		6月7日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・検温	6:00	起床・検温
11:15	ふくや荘到着・開校式	7:00	朝食	6:30	宿の清掃
12:00	昼食	8:30	尾瀬ハイキング	7:00	朝食
14:00	田植え体験	12:00	逆さ燵着・昼食	9:00	焼き物体験
16:30	入浴	14:50	鳩待峠着・バスで各民宿へ	12:00	各宿で昼食
17:00	学習の記録	16:00	入浴	13:20	サブセンター集合・閉校式
18:30	夕食	18:30	夕食	17:00	学校到着・帰校式
19:00	就寝準備	19:00	就寝準備		
20:00	交流会準備	20:00	交流会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学期当初にプレセカンドスクールの概要や目的を、ICT機器を活用しながら行った。
- ・尾瀬の自然や、特産品など、児童が興味をもったことについて調べ学習を行った。

- ・学年では、音楽の時間に交流会や帰校式で感謝の気持ちを伝える歌を決め、練習を行った。
- ・各班の役割ごとに集まる時間を設定し、当日の仕事を確認したり、班の仲間に意識付けを行うためのポスターを作った。
- ・各班では、班長、副班長を中心に、感謝の会を計画したり、指導員の先生との交流会を企画した。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだことや今後の生活に生かしていきたいことを、学校文集に掲載するための作文にまとめ、体験で学んだことを校内の児童に知らせる活動を行った。
- ・次年度にプレセカンドスクールに行く3年生が、「行きたい」「学びたい」と思えるよう、どんなことを体験し、学んできたのかを伝える「プレセカンドスクールを伝える会」という活動を、総合的な学習の時間に行った。班のメンバーで役割分担をし、学んだことを、出来るだけたくさん分かりやすく伝える方法を考え、発表を行った。
- ・お世話になった指導員さん、宿の方に感謝の手紙を書いた。プレセカンドスクールで学んだこと、感謝の気持ちを伝えることに加えて、今自分はどんなことを頑張っているのか、学んだことをどう生かしていきたいのかを書き、自分自身のことを振り返れるようにした。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 尾瀬ハイキング

2日目の尾瀬ハイキングでは、各班1名ガイドについてもらい、山の歩き方のマナーや、尾瀬の歴史、植物の名前、水中の生物、どのように尾瀬の自然を守っているかなどのお話をいただいた。水芭蕉の花を見て、「きれい」と思わず口にする児童、尾瀬ヶ原の景色に、「すごい」と感嘆の声を漏らす児童が多くいた。時折、足を止めて話を聞いたり質問したりして、素晴らしい景色の中、充実した尾瀬ハイキングを行うことができた。



【尾瀬ヶ原を歩く児童の様子】

<社会体験活動>

1 田植え体験

1日目の昼には民宿の方に講師になっていただき、宿の田んぼで田植え体験を行った。苗を1か所に2、3本ずつ植えることや、指の第一関節まで土に入れることや、目印にまっすぐ丁寧に植えることを教えていただいた。田んぼに入ることが初めての児童が多く、田んぼの中を歩くことに苦労していた。また、実際に植えてみるとまっすぐに植えられなかったり、苗が水で流されてしまいそうになった



【田植えをする児童の様子】

りと、思うようにできない児童が多くいた。この田植え体験を通して、農家の仕事の大変さや苦労を、身をもって知り、食べ物に関する感謝の気持ちをもつことができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 焼き物体験

焼きもの体験では、手ひねりでお皿や茶わん、湯呑を制作した。粘土の感触が気持ちよく、夢中になって制作に集中していた。事前にデザインを考えて作り始めたが、水の分量やこねる加減が難しく、思った通りの形を作り上げることに苦労する児童も多かった。仕上げに形を整える際に、片品村に生えている植物を押し花にして模様を付けている児童もいた。焼きあがった作品は7月に学校に届いた。



【焼き物の説明を聞く様子】

2 民宿の方との交流会

2日目の夜に、民宿の方との交流会を行った。お世話になった民宿の方に感謝の気持ちが伝わるような会を、児童自ら計画を立て、役割分担をし、事前に準備をした出し物や、運動会で踊ったエイサーを披露し、最後にはプレゼントを渡した。短い期間ではあったが、現地の方との交流を深め、感謝の気持ちを伝えることができた。



【宿の方と交流会を楽しむ様子】

○児童の感想

- ・学んだことは、全部1人でしなくてはいけないということです。自分のことは自分です、自分のことができたならみんなのことも手伝うといった良い経験になりました。
- ・プレセカンドスクールで思い出に残ったことは感謝の会です。お母さんが、私たちが考えたレクで笑ってくれてうれしかったです。思いが伝わったと思うのでよかったです。
- ・思い出に残っていることは、尾瀬ハイキングです。尾瀬ヶ原にはカエルがいて、カッコウの鳴き声が聞こえてきて、水芭蕉の花がたくさん咲いていて本当にきれいでした。
- ・私が一番頑張ったことはハイキングです。尾瀬ヶ原は自然がきれいで、鹿の足あと、クマの足あともありました。水芭蕉も立派に咲いていて感動しました。
- ・尾瀬に行って自然のことをたくさん学びました。木道を歩くのは自然を保護するためだということが分かりました。また尾瀬に行きたいです。
- ・最初に田んぼに入った時は、ぬめぬめしていて気持ちが悪かったのですが、田植えをしているうちに自然と楽しくなり、最後は無言で集中して苗を植えていました。
- ・田植えは東京では体験できなくて、見たこともなかったので、最初は気持ちが悪くていやだなという気持ちが強かったけれど、お米を作っている人はこれを何倍もやっているのだと思うと苦労がわかりました。終わったときの達成感が私の心を熱くしました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

プレセカンドスクールでは、6つの班に分かれてそれぞれの宿に宿泊した。その中でルールやマナーを守り、仲間と協力して生活する体験ができた。尾瀬ハイキングや田植え体験など、東京ではできない自然体験を積んだことで、豊かな情操を育むことができた。次年度のセカンドスクールでも分宿をするので、今年度の宿泊体験で学んだことは十分にセカンドスクールでも生かすことができる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度より、プレセカンドスクールを片品村で実施した。当日の行程については、早め早めの行動を心掛けることで計画通りに行うことができた。消灯時刻も早くしたことで、児童が十分に休息をとり、活動に参加することができた。次年度に向けて、今年度の実施内容をもとに、計画を立てていく。

活動内容については、無理なく行えるものであったが、ハイキングの距離が少し長かったため、実態に合わせて考慮していく。暑さ対策として、水筒を大きいものを用意してもらったことや、冷却シートをもっていったこともよかったので今後も継続していく。また、ハイキングでは、ツアーガイドを各班に配置した。自然についての知識がとても豊富で、学びが深まるとてもよい体験となった。次年度は、事前学習をさらに充実させ、より現地での学びが深くなるようにする。

田植え体験は、多くの児童にとって初めての経験で、農業に関わる人の苦勞を知ることで、食べ物に対する感謝の気持ちをもつことができた。一方で、体験のときにブヨに刺される児童が多かったので、看護師や、現地の方と連携して、毒を吸い出す吸引機を用意する、水場の草を刈っていただくなどの対策が必要である。

グループ活動を通して、友達同士で声を掛け合い、よい関係を築くことができた。集団行動を行う際に時間を守るなどの意識もできてきた。しかし、初めての宿泊学習が分宿であったため、ルールやマナーについて、事前指導は行っても、現地では指導が必要となる部分が多々あった。より充実したセカンドスクールにするために、担任がより近くで児童の様子や行動を把握するなど分宿について検討していく。

また、保護者には事前の説明会で常備薬についての説明を十分に行い、児童のアレルギー等の調査についてもじっくりと聞き取りを行った。そのため現地で体調を崩す児童はほとんどいなかった。今後とも保護者との連携を図り、充実した取組にしていきたい。

第四小学校

群馬県利根郡片品村

9月11日～9月13日(2泊3日)

参加人数 男子27名 女子28名
計55名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・片品村の抱える課題を見つけ、追究し解決する能力を身につける。
- ・宿泊活動を通して、自立した生活ができる力を育む。
- ・児童同士の関わり合いから、相手を思いやる心や、コミュニケーション能力を育む。
- ・現地で体感をもって学んだことを、新聞や模造紙でまとめ、発表する力を育む。

○日程表

9月11日(水)		9月12日(木)		9月13日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村到着・開校式	8:30	各宿出発	8:00	荷物整理・清掃
12:00	昼食	9:30	尾瀬ハイキング出発	8:30	うどん作り体験
12:40	各宿出発	12:00	山の鼻・昼食	11:00	昼食
13:00	農作業体験	14:45	尾瀬ぶらり館見学	12:15	閉校式
15:45	各宿に移動し顔合わせ	15:35	各宿着	13:00	片品村出発
16:30	宿周辺散策	15:55	宿の方へお礼の手紙を書く	16:00	学校着・到着式・解散
17:00	入浴	17:00	入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:20	健康観察	19:20	健康観察		
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	消灯	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡片品村について、パンフレットや図書資料、インターネット資料を活用して調べ学習を行った。個々の課題設定は「尾瀬の動植物」「片品村の暮らし・名産品」など実際に訪れた際に見たいもの、知りたいことをテーマに行った。調べた情報をグループごとにまとめ作成したものを読み合い、理解を深めた。

- ・しおりの活用の仕方とプレセカンドスクールのめあて、スケジュールや持ち物について、全体で読み合いながら確認した。また、係ごとに集まり、宿における役割の確認を行った。
- ・集団での宿泊に関する心構えや約束について、指導員を中心に児童同士で話し合いながらグループごとのめあてを立てた。

2 事後の学習内容

- ・児童一人一人が、3日間の体験や感動について振り返り、作文にまとめた。
- ・学んだことや気が付いたことを、グループごとに新聞にまとめた。来年度プレセカンドスクールに行く3年生の興味・関心を高めるために各グループで話し合いの工夫をした。
- ・2学期末に3年生へのプレセカンドスクール報告会を行った。課題別に班を編成し発表する内容を考え、ポスターや寸劇等で行った。
- ・プレセカンドスクールでの思い出を俳句や川柳で表現した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 農作業体験、環境保全型農業についてのお話

遊楽木舎にて「トマトの収穫体験」・「雑草ぬき体験」・「土や肥料についての学習」を行った。化学肥料や農薬を使わないで土づくりを行う環境保全型農業への興味・関心が広がった。トマトの収穫体験では、収穫後に出荷場を訪れることができ、流通の仕組みを学ぶことができた。収穫から出荷までの流れを知ることにより、自然との共存や土・水の大切さ等を学ぶことができ、児童にとってよい学びとなった。

2 尾瀬ハイキング体験

天候に恵まれ、最高のコンディションの中、尾瀬を散策することができた。ガイドの方が各班に1人つくことで、足元が不安定な中でも絶妙なペースで進んでいくことができた。ガイドの方から植物や生き物についての説明を聞きながら歩くことで、自然の優雅さを感じつつ、学びを深めることができた。帰路は上り坂が続いたが、友達同士励ましの声を掛け合ったことで、全員無事に鳩待峠へ辿り着くことができた。



【尾瀬ハイキング】

<社会体験活動>

1 うどん作り体験

小麦粉からうどん作りを体験した。粉からうどんを作るという体験は、ほとんどの児童が初めてであったため、活動中、歓声や驚きの声がたくさん聞こえた。「手でこねる」、「足で踏む」、「平たく伸ばす」、「麺を切る」といった4つの過程を、宿のお父さん、お母さんが付き添うことで、安全に行うことができた。2泊3日の間に宿の方とも打ち解けることができたため、説明をよく聞き、会話を楽しみながら温かい雰囲気の中で体験活動を行うことができた。



【うどん作り体験】

出来上がったうどんを食べている表情は、どの子も充実していた。また友達と協力して作ったことで更においしさを実感することができた。

○児童の感想

- ・ハイキングは、石の階段がでこぼこしていて下るのが大変だったけど、とても楽しかった。
- ・尾瀬ふらり館では、尾瀬の自然や生き物のことがよく分かり、とても勉強になった。
- ・アカハライモリのことについて、ガイドさんが詳しく教えてくれて、うれしかった。
- ・最後の山登りは、オコジョを見付けようとしながら行きました。登り終えたときには、すごい達成感がありました。
- ・楽しい3日間が終わってしまって悲しいです。また尾瀬に行きたいです。
- ・来年行くセカンドスクールでも今年学んだことをしっかり生かしていきたい。
- ・プレセカンドスクールの宿の人がすごくやさしかった。もし休みがあったら、もう1回尾瀬に行きたい。
- ・指導員さんともいっぱい話して、とても楽しい3日間でした。
- ・2泊3日過ごして、友達ともっと仲良くなった気がした。
- ・プレセカンドスクールにはお父さん、お母さんがいないので、みんなで協力しないとできないことがあったけれども、みんなで協力して乗り越えられてよかったです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールの前段階として、プレセカンドスクールでも分宿制を取り入れている。短期間の宿泊を体験することを通して、宿の方々との触れ合いを大切にする心や、すすんで自然と親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。セカンドスクールに向けて基礎的な集団生活を学び、セカンドスクールにつなげていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・トマトの収穫体験では、「土づくり、ビニールハウスの草取り体験、収穫体験、選果場の見学」と生産から流通の一連の流れを学習することができた。
- ・農作業体験は、2つのグループに分かれ、1つあたり30分程度の体験を行った。ゆとりのある時間設定だったため、来年度も継続する。
- ・昨年度、野外活動にふさわしい服装で参加することができなかった児童がいたため、しおりにイラストを入れ、保護者説明会で着用する服装や持ち物について説明し、準備の徹底を図った。しかし、宿舎に雨具を忘れてきてしまう児童もいたため、次年度は、指導員に雨具を持ってきているか確認してもらうことで忘れ物のないように徹底していきたい。
- ・尾瀬ハイキングでは、少人数グループでの散策にしたことにより、尾瀬の動植物について学びを深めながら安全にハイキングを行うことができた。また適当な時間配分で実施できたため、来年度も無理のない行程で安全面に配慮し実施する。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月25日～9月27日(2泊3日)

参加人数 男子38名 女子39名
計77名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や動物、食べ物などについて調べたり、体験したりする活動を通して、富士山を含めた山中湖付近の自然について理解を深める。
- ・進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を育む。
- ・富士山周辺と武蔵野市の環境の違いなどに気付き、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する力を育む。
- ・自他のよさを生かしながら、協力して問題の解決に向けた探究に取り組む力を育む。

○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山世界遺産センター	8:40	宿舎発	8:15	大掃除・荷物整理
		9:10	ネイチャーラリー	9:30	閉校式
		11:40	昼食	9:50	宿舎発
12:00	富士山五合目着・昼食	12:00	さかな公園着 昼食	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
12:30	富士山トレッキング	12:30	さかな公園見学	12:00	昼食(手作りほうとう)
		14:05	交流プラザきらら (山中湖畔散策)	12:45	忍野八海見学着
15:45	宿舎着	15:00	宿舎着	13:20	忍野村発
19:00	星空観察	19:00	室内レク	16:00	学校着・帰校式
20:00	絵はがき作成 学習のまとめ	19:45	健康観察・係活動		
20:45	健康観察・係活動				
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然との触れあい～」をテーマに掲げ、富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の成り立ち、富士山の自然、富士山のごみ問題などがあり、テーマごとに調べた。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをプレセカンドスクールマイガイドブックとしてまとめ、友達と交流した。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自新聞でまとめた。
- ・帰校後係ごとに、反省や感想を出し合った。その内容を今後の学校生活に生かすことを確認した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

解説員により、武蔵野市では見られない珍しい木々や植物について詳しい説明を受けた。森林限界を実際に目で見て確認することができた。また、磁石を用いた簡単な実験を通して、溶岩の性質について学習することができた。10人程度の班に1人の解説員がついたことにより、一人一人の質問にも丁寧に答えていただけた。



【富士山トレッキングの様子】

2 ネイチャーラリー

8つのコーナー（ハンター、竹ポックリ、匂い当てクイズ、ロープ渡り、カモフラージュ、重さ当て、丸太渡り、目隠しロープ）を班ごとに順番にまわり、体を動かしたり体験したりすることで、自然に触れることができた。野生動物と共に生きていくために、どうしたらよいのかを考えることができた。

3 忍野八海見学

クラスごとに違うルートで見学した。ガイドの方から池の名前の由来や歴史などについて詳しい説明を受け、興味深く聞いていた。児童も事前学習で忍野八海について学んでおり、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

環境学習プログラムとして、富士山レンジャーの方から富士山の環境について30分の講義を受けた。富士山と東京スカイツリーを比較したり、クイズに答えたりするなど楽しみながら講義を受けることができた。また、富士山が抱えるごみ問題の現状を知ることができた。私たちが抱える課題を理解した上で、活動をスタートすることができたことは有意義であった。

2 さかな公園

富士五湖や周辺の川に棲む魚を見たり、学んだりすることができた。児童が普段行くような海水魚の水族館ではなく、淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあった。事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚に感動したりすることができた。シアターで「アユの冒険」の映像資料を観たり、生き物を実際に触る体験活動をしたりすることで、より富士五湖や周辺の川に棲む魚へ理解や興味が深まった。

<生活体験活動>

1 ほうとう作り

クラスごとに、2つの民宿に分かれて活動を行った。民宿の方に教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。できあがったほうとうを民宿の方に仕上げてもらい、食した。野菜も豊富に入っており、好き嫌いが心配されたが、全員が完食した。自分で作ったほうとうの味は格別だった様子である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理についての理解を深めた。



【ほうとう作りの様子】

○児童の感想

- ・ネイチャーラリーでは、晴天の下、実際に自然の中でたくさん遊べて楽しかった。木の実の種類や富士山の動物のことを知ることができた。
- ・ほうとうを初めて食べた。班のみんなで協力して作ったほうとうは、とても美味しくたくさんおかわりをした。また作って食べたい。
- ・係活動や班での生活では、協力できたことがたくさんありよかった。友達のことを考えたり、周りを見たりして行動することができるようになった。
- ・実際に富士山に行ってみて、想像していたことと違うことがたくさんあった。五合目の気温の低さを体感し、森林限界について学んだ。写真では分からなかったことを知れてよかった。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けて、生活面の向上と友達との協力を重点を置いて指導を行った。生活面では、気持ちのよいあいさつ、5分前行動、自分の荷物の管理など普段の学校生活の積み重ねを重視した。その積み重ねの上で、布団たたみや、活動の準備など自分のことは自分で行ったり、衣服の調整など体調管理も自分自身で行ったりすることで、自分で考えながら生活する力を育むことができた。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。協力という面では、学習班、行動班と、どの活動も班ごとに行ったことで、自分がよければよいという自分中心的な考え方から、みんなで出来るようにと考えて行動する力が育った。また、担任などの大人が関わり過ぎないことで、児童が自分たちで新たな人間関係を築きあげ、互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿が多く見られた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山世界遺産センターで利用した環境学習プログラムの時間が延び、展示物を見る時間が確保できなかった。来年度は3学級になる見込みであることも含め、富士山世界遺産センターの滞在時間を見直していく。
- ・例年雨天のため室内で行ってきたネイチャーラリーを、今年度は実際に自然の中で行うことができた。晴天の下、体をたくさん動かして自然に触れることができてよかった。
- ・富士山から宿舎までの時間が予定よりも長くかかることが分かり、宿舎に帰ってからの絵はがき作成は時間的に難しかったため、次年度は、絵はがき作成の時間帯を見直す必要がある。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月19日～6月21日(2泊3日)

参加人数 男子76名 女子65名
計141名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・プレセカンドスクールに向けて自分で知りたいこと、知らせたいことを決め、実際に体験し、さらに詳しく調べて伝え合う活動を通して、自ら課題を設定し、調べ追究する力を養う。
- ・学校で学んだことや日常生活ではできないことを体験して学びを深める。
- ・世界遺産の富士山周辺の自然に興味をもち、セカンドスクールにつながる自然観察の視点を育む。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら生活する態度を育てる。
- ・保護者の元を離れ、自主的・自発的に生活する態度を育てる。
- ・学んだことを分かりやすく整理し、下級生へプレゼンテーションすることができる力を育成する。

○日程表

6月19日(水)		6月20日(木)		6月21日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:45	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:00	「よく見よう、じっくり見よう 自然のつながり」 ネイチャーハント	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
12:15	昼食	7:15	朝食	7:30	朝食
14:00	宿舎着、開校式	8:15	宿舎発	9:30	「作ろう 味わおう 郷土料理」
14:30	草木染め	9:30	「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」	11:30	昼食
15:30	避難訓練	13:00	昼食	12:30	閉校式
16:00	学習のまとめ	14:30	「自然の不思議を体験しよう」 駒門風穴	13:00	宿舎発
17:30	班長会	16:30	宿舎着	15:30	学校着、帰校式、解散
18:00	夕食	17:00	学習のまとめ		
19:00	「ネイチャーハントに関する話」	17:30	班長会		
20:00	入浴、1日の反省、荷物整理 健康観察、就寝準備	18:00	夕食		
21:20	消灯	19:00	「富士山の自然に関する話」		
		20:00	入浴、1日の反省、荷物整理 健康観察、就寝準備		
		21:20	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料をもとに確認を行った。
- ・課題解決学習とするために、富士山の自然・文化・産業・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究して調べることで、現地で学びたいことの明確化を図った。
- ・生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを行うことで、やるべき活動を明確化させ、責任感をもたせた。
- ・草木染めの焙煎液となるハルジオンやヒメジオンを学校周辺で摘んで集め、絹のハンカチに絞り加工を施した。普段生活している武蔵野市の植物と山梨県の伝統工芸を関わらせることにより、双方の地域のもつよさや特徴に目を向けさせた。

2 事後の学習内容

- ・自分の学習課題についてパワーポイントや模造紙にまとめた。班ごとに発表練習を行い、3年生に学んだことを伝えた。班で相談しながら3年生に伝わる言葉を選び、発表することができた。「3年生に伝える」という相手意識をもつことで、友達同士で意見を交換しながらよりよい発表の方法を粘り強く工夫する姿が見られた。
- ・理科の学習単元である「季節と生き物」では、武蔵野市の自然を見つめると同時に「プレセカンドスクールで行った山中湖では今頃・・・」というように、自分たちの住む地域と常に比べる視点をもって学習に取り組む児童もいた。プレセカンドスクールで自然を十分に味わったからこそみられる姿である。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 よく見よう じっと見よう 自然のつながり

3年ぶりに、晴天プログラムで実施できた。東大演習林でネイチャーハントを行い、班で協力してクイズを解きながら自然の中を探索することで、植物や生態系の仕組みに興味をもちながら観察することができた。夜には、曇天のため星空観察ができなかったが、日中に行ったネイチャーハントについて、講師の解説を聞きながらより深く学ぶことで、「そんな意味があったのか。」「なるほど、だからあそこに胡桃があったんだね。」などと、体験の意味を理解しながら学びを深めることができていた。また、翌日のトレッキングにつながる視点をもつことができた。



【ネイチャーハント】

2 草木染め

事前に武蔵野市で採取したハルジオン・ヒメジオンを持って行った。また、山梨県の特選品である絹でできたハンカチに、割りばしや輪ゴムを使って、折り絞り、カゴ染めなど様々な絞りを入れた。炊事場に着くと焙煎液の草の匂いが漂ってきた。子どもたちはすぐに「何のにおいだろう？」と嗅覚を働かせ、大鍋の中にできている焙煎液に目を付けた。五感を敏感に働かせて反応を示す児童が多くおり、自然を十分に味わっていることが伝わった。武蔵野市の花を使って作っていただいた焙煎液にハンカチを漬ける。煮立った焙煎液は熱く、子どもたちは慎重に作業していた。その後鍋からハンカチを取り出し、水でよく洗い、ミョウバン水につけて色を定着させた。そしてまた水で洗う。その工程を繰り返し、最後にハンカチを広げた瞬間、浮かび上がった様々な模様、子どもたちの表情が輝いた。ハルジオン・ヒメジオンから美しい黄色が生まれること、自然の力、染め物の技術の素晴らしさを体感することができた。



【焙煎液にハンカチを浸す】

3 見て学ぼう、感じよう、富士山の自然

5合目駐車場から宝永第一火口まで、トレッキングを行った。当日は悪天候で落雷の危険もあったため、安全に活動が実施できるよう、ぎりぎりまで状況を判断し、調整を行った。結果的には、時間を短縮したり行程を変更したりしながらも、目的としていた宝永第一火口まで到達することができた。トレッキングの途中で足元の溶岩に気付き、「この石軽いよ。」「ぶつぶつしている。溶岩だ。」などと自然の様子にも目を向けながら歩く様子が見られた。目的地である宝永火口では、火口の様子を観察することもできた。霧の晴れ間から火口がみえた時には、子どもたちから大きな歓声が上がり、自然の雄大さを体感できたようだった。午後は予定通り、駒門風穴を見学した。現地インストラクターの説明を聞きながら見学できたため、その歴史や成り立ちに触れながら学びを深めることができた。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

地元の方やインストラクターの方と共に活動をした。事前に郷土料理であるほうとうについて調べている児童もいたが、実際に地元の方のお話を聞きながら作る作業を通して実感を伴った理解につながった。活動を開始すると野菜の皮むきをする担当、野菜を切る担当、麺をこねる担当など協力して作業を進める姿が見られた。指導員がクラスごとに付き、子どもたちの様子を見ながら一緒に活動できたため、安全に進めることができた。

○児童の感想

- ・駒門風穴の見学が一番心に残りました。洞窟の中に入ると、とてもヒヤッとしていて、外の温度と全然違いました。ホームページで調べていったことと違うことも発見できました。

- ・自然が動物を守り、動物が自然を守っていることを学びました。もっと動物のことを知りたいたと思いました。
- ・ネイチャーハントで、クイズを解きながら自然を見たので、これまで気付かなかったことにも気付くことができました。これから自分の家の近くの公園とかも、不思議なことがないか注意して歩いてみようと思います。
- ・ほうとう作りで、こねたり伸ばしたりするのが楽しかったです。自分でつくったほうとうはとてもおいしかったです。家でも作ってあげたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普段の学校生活につなげることで、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識付けし学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげた。
- ・友達との集団生活の中で、一人一人役割を担って活動する経験をすることにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓など生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けての自信につなげることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・同じインストラクターが3日間付き添ってくださり、児童の様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにもつながる「自然を視る目」を養うことができた。ただ、話の内容に4年生の児童にとって専門的すぎるところもあったので、講話の内容について、次年度に向けて打ち合わせをしていく必要がある。
- ・各学級に2名の指導員を配置したため、安全面の確保や個別の支援などを十分に行うことができた。
- ・ほうとうづくりは、昨年より現地インストラクターの数が少なかったため、出来上がりに時間差ができたり、工順の滞った部分があったりした。来年度も同じ活動を計画しているため、現地インストラクターとの打ち合わせをより綿密に行う必要がある。
- ・昨年度の反省により、駒門風穴を天候に関係なく午後のプログラムとしたことは大変良かった。プログラムを変更したことで、2日目の行程は、子どもたちの体力に合った無理のないものになり、スムーズに実施することができた。

境南小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子38名 女子48名
計86名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・地形や気候を生かした農業体験を通して、農家の人々の工夫を理解する力を養う。
- ・地域の伝統食に触れ、伝統食に込められた知恵や工夫を知る力を育む。
- ・富士山や河口湖などの自然について調べる課題を設定し、その課題を解決する能力を育成する。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り、自分の責任を果たせる力を養う。
- ・体験活動や地域の人との交流を通して、自らすすんで課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・富士山や河口湖などの自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる力を育む。

○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:55	学校集合・出発式	6:00	起床・検温・洗顔	6:00	起床・検温・洗顔
8:15	学校出発 (調布ICより中央道へ)	7:00	朝の会(体操・散歩)	7:00	朝の会(宿舎で体操)
9:45	談合坂SA(トイレ休憩)	7:40	朝食	7:40	朝食
10:45	富士山世界遺産センター着 見学	8:10	荷物整理・活動準備	8:10	片付け・清掃
12:30	野鳥の森公園着(昼食)	8:40	ホテル発(バス)	8:50	閉校式
13:30	クラフト体験	9:00	風穴到着・見学	9:00	ホテル発(バス)
15:10	クラフト体験終了	9:20	樹海ハイキングコース 風穴～氷穴	9:50	菱山共選場着 ・出荷作業見学
15:20	野鳥の森公園発(バス)	10:20	氷穴発(バス)	10:45	綿塚公民館着 (徒歩)
15:40	ホテル着・開校式 入室・荷物整理・避難訓練	10:40	西湖公民館着 ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農家着 ・収穫体験
16:15	学習のまとめ・入浴	12:10	昼食(ほうとう)・休憩	12:15	綿塚公民館着 (質問・お礼・昼食)
18:30	夕食	13:00	西湖公民館発 ハイキング(徒歩)	13:30	綿塚公民館発(バス) (勝沼ICより中央道へ)
19:15	家族にはがきを書く	15:30	紅葉台発(バス)	14:15	談合坂SA(トイレ休憩)
20:15	健康観察・就寝準備	16:00	ホテル着	15:30	学校着 帰校式
21:00	消灯	16:15	学習のまとめ・荷物整理・入浴		
		18:30	夕食		
		19:30	ナイトウォーク		
		20:15	健康観察・就寝準備		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・集団行動、集団生活のルールや公共施設利用のマナーについて指導した。特に、時間を守って行動することや、全体で集まったときの話の聞き方について重点的に指導した。
- ・「自分たちのことは自分たちでやろう」というテーマを基に、生活班ごとに係を決めた。また係ごとに生活のルールについての話し合いの時間を設け、学年全体で共有できるようにした。
- ・総合的な学習の時間に、現地で行う調べ学習の内容について、児童それぞれがテーマを設定し、事前学習を行った。
- ・調べ学習のテーマを設定する前に「日本の自慢 富士山」と題し、以下の内容を確認した。
 - ①富士山はどのようにしてできたか。
 - ②溶岩樹形とはどのようなものか。
 - ③富士の樹海はどのようなところか。
 - ④富岳風穴とはどのようなところか。
 - ⑤富士山のある山梨県とはどのようなところか。

2 事後の学習内容

- ・自分の課題について調べたことを模造紙にまとめた。同じ課題をもつグループで新聞を作成し、11月上旬に3年生に向けてプレセカンドスクールの体験発表会を行った。「どうしたら分かりやすく伝わるのか。」「どんな発表なら楽しく聞いてもらえるか。」など、3年生にプレセカンドスクールの魅力を伝えるという目的意識をもって活動したことで、新聞作成や発表練習を工夫して行うことができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富岳風穴見学

富岳風穴は、青木ヶ原樹海の豊かな緑に囲まれた場所にある溶岩洞窟である。洞内の平均気温は3℃で、昭和初期までは蚕や種子の貯蔵などに使われていた天然の冷蔵庫である。児童はこの季節に氷が残っていることに驚き、自然の不思議さを感じていた。



【風穴見学の様子】

2 樹海ハイキング

風穴から氷穴につながる30分程度の樹海ハイキングコースを歩いた。火山によって流れた溶岩の上に根を張った原生林や、事前学習で学んだ溶岩樹形等を見ながら散策し、樹海の特徴的な地形や性質について学ぶことができた。

3 紅葉台・三湖台ハイキング

往復2時間程度のハイキングを行った。紅葉台展望台では、雲の隙間から富士山が顔を覗かせ、その大きさを実感することができた。学んだことを生かし、雲の掛かり方から、天気を予想している児童もいた。また、富士山の麓に広がる樹海の広さに驚き、富士山周辺の地形に興味、関心をもつことができた。三湖台では、西湖・精進湖・本栖湖が一望でき、大きさや形の特徴を比べることができた。



【展望台から見えた富士山】

<社会体験活動>

1 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

菱山共選場で、農家から収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷するまでの仕事について学んだ。ぶどうの品種や主な出荷先、等級の付け方などについて説明を受け、普段食べているものがどのようにして自分の手元に届くのかを考えるきっかけになった。

農業体験では、農家やJA山梨の方の手ほどきを受け、ワイン用のぶどうの収穫を行った。美味しいワインができるように変色している実を切り落としたり、ぶどうを入れたコンテナを運んだりすることを通して、農業の苦労や努力を身に染みて感じる事ができた。



【ぶどう収穫体験の様子】

<生活・文化体験活動>

1 クラフト体験

山を守るために伐採した木々などの中から好きな材料を選び、工作を楽しんだ。すべての材料が河口湖周辺で採れたものだと知ると、どの児童も驚いていた。自分で考えたデザインで作って、完成品を見て達成感を味わっていた。

2 ほうとう作り

生活班で分かれて、山梨県の郷土料理であるほうとうを作った。地域の方々から、細かいアドバイスをもらいながら、仲間と協力して活動することができた。現地の方のサポート体制が整っていることもあり、すべての班が時間内に作り終えることができた。自分たちで作ったほうとうの味は格別だったようで、郷土食を美味しく堪能することができた。



【ほうとう作りの様子】

○児童の感想

- ・ 3日間友達と過ごして、集団行動の大切さを学びました。セカンドスクールは1週間で長いけれど、プレセカンドスクールの成功で少し自信が付きました。
- ・ 富岳風穴は、思ったより寒くて驚きました。蚕や植物を貯蔵する天然冷蔵庫があり、昔の人はいろいろ工夫していたのだなと思いました。
- ・ ぶどうを収穫したのは2回目だったけれど、ワインにするための「よいぶどう」を選ぶという経験は初めてだったので楽しかったです。
- ・ ほうとう作りで一番難しかったのは、生地をこねたり広げたりすることです。班で協力して作ることができました。うどんやそばと違い、麺がとても太いことが分かりました。
- ・ 紅葉台展望台から見た富士山はとてもきれいで、本当に大きいのだなと思いました。東京とは違って自然が多く、楽しいハイキングになりました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・ 集団生活を通して、友達と協力することや生活の約束を守ることの大切さを実感させ、来年度のセカンドスクールに自信をもって臨めるように指導した。また、「自分のことは自分でする」という意識をもたせ、身辺自立等の向上を促した。
- ・ 総合的な学習の時間「体験しようプレセカンドスクール」では、課題探究型の学習を行った。課題の立て方、調べ学習の計画、目的意識をもったまとめ方等を学んだので、今後の学習に生かしていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 富士山世界遺産センターでは、昨年度の講話の内容が難しかったという反省があったので、内容を変更して計画をした。児童の実態に合った内容であったため、富士山への興味・関心を引き出すことができた。
- ・ 宿舎での過ごし方や布団の敷き方などの細かい指導を、現地で時間を設けて行うことができてよかった。来年度は、しおりの行程表に指導時間を明記して、計画的に指導を行う。
- ・ 農業体験では、共選場見学と収穫体験のどちらも行うことができたので、農業について様々な視点から学ぶことができた。また、共選場では資料をもらえたため、事後学習につなげることができた。

本宿小学校

山梨県南都留郡山中湖村

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子24名 女子39名
計63名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 宿舎での生活を通して、集団生活の基礎や自主的に生活する力を身に付ける。
- ・ 富士河口湖の自然や文化を知り、体感を伴った理解を得る。
- ・ 山梨県河口湖町の自然・文化について課題を選択し、体験したことや収集した情報を関連付けながら解決する。
- ・ 様々な体験活動や親元を離れた宿舎での集団生活を通して、協調性を育む。
- ・ 富士河口湖の豊かな自然の中に身をおき、自然を大切にしようとする態度を育てる。

○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:00	談合坂SA(トイレ休憩)	7:20	食事係朝食準備	7:20	食事係朝食準備
10:30	山中湖IC	7:30	朝食	7:30	朝食
11:00	東大演習林フィールドワーク	8:30	宿舎発	8:30	部屋の掃除、荷物の整理
12:30	昼食	10:00	富士山トレッキング	8:45	閉校式
13:30	宿舎着・開校式	12:30	昼食	10:30	ぶどう狩り
14:00	荷物整理、避難訓練	13:30	青木ヶ原樹海ハイキング	11:30	昼食
15:00	ほうとう作り	16:00	宿舎着	12:30	一久園発
18:00	夕食	17:00	入浴	12:45	勝沼IC
19:00	入浴	18:00	夕食	13:30	談合坂SA(トイレ休憩)
19:45	自然の話	19:30	自然の話	14:00	調布IC
20:30	健康観察、明日の準備	20:30	健康観察、明日の準備	14:20	学校着・帰校式
21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯	14:40	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県について知っていることをカードに書き出した。自然に関すること、食のことなど、一人一人が興味をもった課題について個人で調べ学習を行い、分かったことを各班で発表した。
- ・5年生で実施するセカンドスクールとも関係する行事であるため、何のためにプレセカンドスクールを実施するのか、その目的（めあて）を学年で共有した。宿泊や集団行動におけるルールやマナーについての指導も同時に行った。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
- ・「3年生にプレセカンドスクールのことを伝えよう」というテーマで、活動内容別に6つのグループをつくり、学習発表会を行った。1つ下の学年である3年生が聞いて分かるよう、発表の方法や内容を工夫した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 東大演習林フィールドワーク

東京大学の演習林を借りて、現地講師指導のもとフィールドワーク活動を行った。班ごとに決められたコースを進みながら、協力して自然に関する課題に答えていった。目の前にある植物や自然が課題になっていたため、実際に見て触れて匂いを嗅ぐなど、体験的な活動を通し自然と触れ合うことができた。

2 富士山五合目トレッキング

日頃教室から眺める富士山を実際に歩くことに、児童は高い関心を寄せていた。当日は五合目から御庭に向かって1時間ほどトレッキングを行った。トレッキングの途中、足元の軽石や、目の前に広がる樹木の説明を講師の方から聞き、富士山ならではの自然環境を学ぶことができた。



【富士山トレッキングの様子】

3 青木ヶ原樹海ハイキング

各クラスに現地講師が1人付き、青木ヶ原樹海の自然についての説明を聞きながらハイキングを行った。溶岩の上に木がむき出しになっている様子や、倒木更新があちこちに見られた。青木ヶ原樹海の特徴である自然環境を前に、多くの児童が進んで話を聞き、自然に親しむ姿が見られた。また、富岳風穴を上から見学し、自然の雄大さをさらに実感することができた。

<社会体験活動>

1 ぶどう狩り体験

生活班ごとにぶどう狩りの体験活動を行った。事前学習で山梨県の名物がぶどうであることを学んでいたが、なぜぶどうの栽培が盛んなのか、ぶどう栽培をする上での工夫・努力などを農家の方に話していただいたことで、体験だけでなく学びも多く得られた。



【ぶどう狩りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

現地講師の指導のもと、8人グループでほうとう作りを行った。粉を使って麺を作るチーム、ほうとうの具になる野菜を切るチームの2つに分かれて作業を進めた。調理は児童にとって初めての活動であったが、声を掛け合いながら協力して作業する姿が見られた。麺をこねて切る作業では積極的に現地講師に声をかけ、アドバイスをもらいながら作り進めていた。出来上がったほうとうは夕飯として食べ、美味しく作れたことに達成感を感じている児童が多かった。

○児童の感想

- ・作業を分たんして声をかけあうことで、班で協力してほうとうを作ることができました。今まで食べた中で、一番おいしいほうとうになりました。
- ・初めて富士山に登ることができて、とても楽しかったです。富士山につもる雪がどうしてぎざぎざに見えるのか、理由がよく分かりました。
- ・はじめは旅行や遠足とのちがいがよく分からなかったけど、3日間みんなですごして、協力することやけじめをつける大切さが分かりました。来年のセカンドスクールのためのいい練習になったと思います。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

事前指導として、「プレセカンドスクール」の意味や目的を伝えていたこともあり、現地に着

いてからも集団行動のマナーを意識したり、声を掛け合って協力したり、学校にいるときよりも自立した姿が見られた。来年はさらに長期間家庭を離れることになるが、プレセカンドスクールを無事に終えたことが自信となり、ほとんどの児童が1年後を楽しみにしている。

また、多くの自然体験活動を取り入れたことで、自然を観察する力や味わう心が育てられた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地講師を依頼したことで、児童が関心を保ちながら、自然を見て、触れて、体験する活動をする事ができた。
- ・自然に関する話の内容が、4年生にはやや難しいのではないかという反省が上がった。児童の実態に合うよう、事前の打ち合わせを十分に行っていきたい。
- ・1つの宿舎に全員で泊まったことで、集団行動や宿泊の基礎を指導・支援することができ、来年のセカンドスクールに向けて大変成果があった。
- ・晴れプログラムと雨プログラムで大きく内容が異なるため、事前学習で課題別に学習を進めることができなかった。来年度は、初日のプログラムを見直し、課題別の学習を事前に始められるようにしていきたい。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月9日～10月11日(2泊3日)

参加人数 男子28名 女子19名
計47名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や人々の生活等、課題解決に必要な知識を身に付ける。
- ・現地での学習を通して、課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度を養う。
- ・集団生活を通して、互いのよさを生かしながら、積極的に社会参画しようとする態度を養う。

○日程表

10月9日(水)		10月10日(木)		10月11日(金)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
		9:30	青木ヶ原樹海トレッキング	8:45	閉校式
10:45	紅葉台ハイキング	10:10	富岳風穴見学	9:40	菱山共選場見学
13:30	富士山世界遺産センター	11:15	ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農家作業体験
14:40	宿舎到着・開校式	14:00	富士山科学研究所	13:00	昼食
16:00	河口湖畔散策				
17:30	夕食	17:30	夕食	15:00	学校到着
18:30	入浴	18:30	入浴	15:30	解散
19:30	学習の記録・はがき書き	19:30	学習の記録		
19:50	班長会議	19:50	班長会議		
20:00	検温、健康観察	20:00	検温、健康観察		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・地図帳の統計資料を活用し、山梨県の基本情報をつかむ(社会科の学習と関連付ける)。
- ・昨年度のプレセカンドスクールの写真を見ながら、活動場所や活動内容、2泊3日の行動予定やプレセカンドスクールのめあてを知る。総合的な学習の時間「富士五湖で学ぼう」の学習計画を立てる(ゴールを「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」に設定した)。
- ・富士五湖、富士山周辺の文化や歴史、暮らし、産業などについてインターネットで検索したり図書資料を活用したりして情報収集を行う(中央図書館の学校連携事業を活用する)。その

中から興味・関心のある事柄、現地で特に詳しく学習したい事柄を課題として設定し、さらに情報を集めた。

- ・しおり配付後、集団生活を通してどんな力を身に付けるのかを具体的に伝え、達成するために必要な5つの係活動を設け、係の仕事について話し合ったり、生活班での宿での過ごし方について確認したりした。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で設定した、「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」の目標達成のために、探究してきた課題についての事前学習と現地学習をまとめ、ジャストスマイルの「発表名人」を使って、スライドを作成する。スライド作成後、伝えたいことを整理し、発表原稿を作成、発表練習後に3年生へ発表する。
- ・発表会についての振り返りと、単元の学習全体についての振り返りを行う。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 紅葉台ハイキング

1日目、ハイキングを行った。自然を生かした登山道では、富士山周辺の自然を肌で感じ、草木や花などを観察しながら頂上を目指した。途中で見た間近に仰ぐ富士山の大きさに歓声をあげながら、三湖台では、西湖や青木ヶ原樹海を見下ろすことができ達成感を味わうことができた。

2 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目、青木ヶ原をトレッキングし、富岳風穴を見学した。行動班ごとに、辺りに散らばる溶岩や様々な植物、きのこなどを見付けながらじっくりと遊歩道を進んだ。富士山が生み出した様々な大きさの溶岩にとっても驚き、改めて富士山の歴史に興味をもった様子であった。

富岳風穴内では、まず洞窟内の冷気や水に声があがった。昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたことを、実際に体感した気温3度の寒さで納得した様子であった。自然の不思議さや、自然を生活に生かしてきた当時の人々の知恵にふれることができた。



【青木ヶ原樹海トレッキング】

3 富士山科学研究所

2日目、「ふじさん自然教室」の2つのプログラムを受講した。そのうち、生態観察園ではフィールドビンゴを行った。現地の教育スタッフからレクチャーを受けた後、班ごとに協力しながら、「溶岩でできた大きな穴」「子どもの木」「森のエビフライ」「鳥の鳴き声」などヒントをもとに森の中で探し、ビンゴを完成させていくことを楽しんでいった。もう1つのプログラム

では、世界で一番大きな翼をもつ「アルソミトラ」の種の模型を工作し、飛行実験を通してその飛び方を観察した。2つのプログラムを通して、自然を観察する楽しさや、自然の多様性や生態系などについて学ぶことができた。

<社会体験活動>

1 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

3日目、菱山共選場で、農家で収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷する前の仕事について学んだ。ぶどうの品種や、色や形などで等級に違いがあることなどを実際に等級分けしている様子を目にしながら説明を受けることができた。

その後、ぶどうの生産農家やJAフルーツ山梨の方の指導のもと、加工用の「甲州」収穫作業を体験した。おいしいワインになるように変色した実を切り落としたり、ぶどうを入れたコンテナを運んだりすることを通して、仕事に携わっているという感覚をもつことができた。実際に農作業を体験することで、普段自分たちが食べているぶどうが多くの人の手間をかけなければならないということや、安全で美味しい農作物を育てる工夫や苦勞を体感することができた。



【ぶどう農家体験】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り体験

2日目、西湖公民館で、地元の方に教わりながら山梨県の郷土食であるほうとう作りを体験した。ほうとうの麺作りでは、「小麦粉をこねる」「伸ばす」「大きな包丁で切る」の工程を全員が経験することで、美味しいほうとうを作るためにはどの調理も大切であることを実感することができた。自分で作ったほうとうの味は格別だった様子である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理について理解を深めた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・紅葉台ハイキングは、初めは簡単だと思っていたけれど、登ってみるととても疲れて、途中でやめたくまりました。でも、三湖台まで登って見えたきれいな景色に感動しました。またあの風景を見に、登りたいです。
- ・富士山世界遺産センターで、自然遺産や文化遺産の他に複合遺産があることを初めて知りました。また、富士山は山の自然だけでなく、日本の文化に大きな影響を与えており、富士山周辺が一体として世界遺産になったために、世界文化遺産だということが分かりました。
- ・ほうとう作り体験では、生地を薄く伸ばしたり、切ったりする作業が難しかったです。でも友達と協力することでおいしいほうとうを作ることができました。地元の方ともふれあいな

がら作ることができてとても楽しかったです。

- ・ 共選場見学で、ぶどうの品種について聞いて、たくさんの種類があることを初めて知りました。同じ種類の中でも、大きさや色などで5段階の等級に分けられることも知ることができました。
- ・ 自分は、整とん係ではないけれど、たまに部屋の上ばきをそろえたり、トイレのサンダルを直したりするのをがんばりました。そして、トイレに行ったときにサンダルがきれいにそろっていると、「誰かが直してくれたのかな」と思い、うれしくなりました。セカンドスクールでも、みんなと協力して整理整とんをしたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・ 1つの宿舎で集団生活を行ったことで、児童一人一人の様子を教員全員で見ることができ、支援することができた。そのため、児童も初めての宿泊行事に対して抵抗なく、安心して3日間を過ごすことができ、セカンドスクールへの自信にもつなげることができた。
- ・ 「協力し合う大切さ」について、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができることを実感することができた。その経験をセカンドスクールでも生かしていく。
- ・ 自ら課題を追究しながら事前、現地、事後と学習を進めていく中で、学習課題の調べ方や、資料の表現方法などを学んだ。また、現地で培った自然を観る目や味わう心はセカンドスクールに対する意欲付けになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 富士山世界遺産センターでは、今年度からガイド付き館内見学のプログラムを組み込んだ。前半に3グループに分かれて南館を見学し、後半に班ごとで全館を見学する時間を設けたが、後半の時間が短かったため、見学所要時間を増やすか、プログラムの時間を30分から20分に短くしてもらおうか検討する。
- ・ 明確な目的意識をもってタブレットを活用する学習機会を設けたことで、児童がタブレットの操作に慣れ親しむことができた。
- ・ 富士山科学研究所で受講する2つのプログラムでは、学習に必要な情報を得ることができた。説明時間も含めて各プログラム40分だったため、50分に増やして学習を深める時間を設けたい。
- ・ 3日目のぶどう農家体験では、雨天が心配されたが何とか行程どおりに実施することができた。雨天の場合には、公民館での座学を予定していたが、1時間半の時間の中で、児童にとって学習を深められる内容にするためには、どのような内容だとよいかを事前にJAフルーツ山梨の方と計画しておく必要がある。

井之頭小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

10月9日～10月11日(2泊3日)

参加人数 男子38名 女子34名
計72名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩町について、人・もの・自然の現状やよさ、それらに関わる人々の願いや工夫、努力に関する理解を深める。
- ・奥多摩町について課題ごとに情報を集め、比較・分類し、武蔵野市との違いを客観的に把握する力を培う。
- ・奥多摩町の抱える課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組む態度や、自分と異なる意見や考えがあることに気付き、相手の立場を理解しようとする態度を育む。

○日程表

10月9日(水)		10月10日(木)		10月11日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:00	出発	6:30	朝の会	6:30	朝の会
10:00	奥多摩町文化会館着・開校式	7:00	朝食	7:00	朝食
10:40	学校交流 古里小学校・氷川小学校	9:10	ガイドウォーク	8:30	各宿出発
12:30	給食交流	11:30	昼食		ふれあい農園着
14:00	日原鍾乳洞見学 ビジターセンター見学	12:10	水生昆虫観察	9:00	ワサビ田見学
16:30	各宿着	14:40	小河内ダム見学	10:00	郷土食調理体験
17:30	夕食	15:10	水と緑のふれあい館見学	11:40	昼食
18:30	奥多摩民話	16:30	各宿着	12:30	閉校式
19:30	学習のまとめ、入浴	17:30	夕食	13:00	ふれあい農園出発
21:00	就寝	18:45	星空観察	15:00	学校着・到着式
		19:45	学習のまとめ、入浴	15:30	解散
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間では、奥多摩町についてインターネットで情報を集め、概要をつかんだ。その後、各自で課題を設定し、現地で調べたいことを考え、情報収集の計画を立てた。

- ・奥多摩町の小学校との交流に向け、事前に手紙のやり取りを行った。奥多摩町の児童から、学校や市のことについて質問があったので、答えるための準備も行った。
- ・社会科「くらしをささえる水」では、水源林やダム働きについて学習した。東京都の副読本や地図で、小河内ダムについて学んだ。
- ・理科「星の明るさや色」では、夏の大三角について学習した。

2 事後の学習内容

- ・集めた情報を分類・整理し、学芸会で劇を発表するため、工夫してまとめた。
- ・プログラミング学習として、スクラッチを使って奥多摩のガイドマップを作成し、まとめた。作成したガイドマップは、交流した奥多摩町の小学校の児童に見せた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 日原鍾乳洞見学

初めて鍾乳洞に入る児童も多く、暗さや涼しさに躊躇する様子が見られた。数十万年以上かけて自然が創り出した鍾乳石の形の面白さや神秘的な美しさに驚いたり、感動したりしている児童もいた。また、洞内の気温を計測すると10℃程しかなく、年間を通して気温が一定であることが分かった。石灰水が長い年月をかけて鍾乳石になっていくことや奥多摩町の地層の特徴も知ることができた。

2 ガイドウォーク

8つのグループに分かれて、現地のガイドの方に案内してもらいながら、自然の中を歩いた。奥多摩湖の対岸を出発して浮橋を渡ると、湖の中にはたくさんの魚がおり、都民の飲み水となる奥多摩湖の水が安全できれいであることが分かった。湖周辺は水源林となっており、様々な植物や動物が生息している痕跡を見つけることができた。児童はガイドの方の説明を聞きながら、興味をもって観察する様子が見られた。



【ガイドウォーク】

3 水生昆虫観察

奥多摩湖へ流れ込む清流で、水生昆虫を採取して観察した。現地講師の方の説明を聞いて安全に気を付けながら活動し、多くの水の生き物を採取する姿が見られた。トビケラやカワゲラ、ヤゴ、マメゲンゴロウなどの水生昆虫だけでなく、サワガニや小さな魚もおり、児童は夢中で観察をしていた。活動を通して、多くの生き物が生息できるきれいな川であることを実感していた。



【水生昆虫観察】

<社会体験活動>

1 奥多摩ビジターセンター

解説員の方に、奥多摩町の山や植物、動物について解説していただいた。児童は奥多摩町の主な山の名前や季節毎に見られる植物、生息している動物などを知ることができた。写真パネルだけでなく、動物の剥製なども展示されており、興味をもって館内を見学していた。



【奥多摩ビジターセンター】

2 小河内ダム見学

小河内ダムの展望塔から湖や多摩川の様子を眺めた。迫力ある景色に感動や驚きの声があがった。展望塔の中は、流域図やダムの歴史を紹介した展示コーナーがあり、小河内ダムについて学ぶことができた。水と緑のふれあい館では、水源を守る森林の働きについて、展示物やシアターを見学することで理解を深めることができた。

<生活・文化体験活動>

1 奥多摩町の小学校との交流

2つの小学校の児童と学習やスポーツ、給食を通して交流をした。学習では奥多摩町の学校周辺を児童と一緒に歩き、特徴のある場所を案内してもらった。本校児童は、事前に奥多摩町の児童からいただいた手紙に書いてあった「武蔵野市や井之頭小学校についての質問」に発表形式で答えた。またドッジボールやソフトバレーボール、給食の交流を通して、仲を深めることができた。後日、台風19号の影響で奥多摩町が被害を受けたことを知ると、見舞いの手紙を書いて送るなど帰校後も交流が続いている。



【学校交流】

2 奥多摩民話

奥多摩町に伝わる民話を語り部の方にお話していただいた。「猿おどり」、「熊をくすぐる」、「西久保の天狗さま」の3つのお話を聞いた。語り部の話す民話の世界に引き込まれ、熱心に聞いてメモを取る姿が見られた。また、奥多摩町の長年の歴史や土地、生活の中に民話生まれ、語り継がれていることに感心していた。



【奥多摩民話】

3 郷土食体験・ワサビ田見学

海沢ふれあい農園で、奥多摩町で収穫できる特産物を使った郷土食を調理し、食べる体験を行った。珍しい野菜や鹿肉を使った料理に感動しながら味わった。また、近くのワサビ田へ移動し、農家の方からワサビ田について説明を聞いた。児童はきれいな水でしか育たないことやどのように育てるのかを知ることができた。



【ワサビ田見学】

○児童の感想

- ・奥多摩町は、武蔵野市とはすごく違うのでびっくりしました。たくさん木があって、武蔵野市のようにたくさんのビルはありませんでした。
- ・奥多摩町の小学校のみなさんと一緒に遊んだり給食を食べたりして仲が深まったと思います。奥多摩町の小学校は、井之頭小学校と人数や校庭などいろいろと違ったので驚きました。
- ・日原鍾乳洞は、寒くて水が垂れて冷たかったけれど、中は鍾乳石がとてもきれいでした。
- ・水生昆虫観察では生き物じゃないようなものでも生き物だと知り、今まで知らなかった生き物が見られたのでよかったです。岩の下などに工夫して生きているんだなと思いました。
- ・ガイドウォークでは、高いところから落とすとくるくる回りながら落ちるツクバネの実や、シカのふんやリスの食べたクルミ、イノシシが通った道など、ガイドの方からいろいろと教えて見つけることができました。
- ・小河内ダムはすごく広くて水がきれいなダムでした。ダムの上からのぞくと、とても高くて驚きました。
- ・5分前行動が大切であることを学び、友達と協力してできるようになりました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・全員が3日間、元気に楽しく過ごすことができました。時には支援や指導を受けながら、時間やルールを守り、互いに協力して学習・生活することの大切さを学ぶことができました。今回の経験は、大きな達成感と自信、セカンドスクールへの意欲に繋がった。
- ・総合的な学習の時間としては、奥多摩町について課題を設定し、調べ、整理・分析し、まとめた。自然豊かな奥多摩町の様々な特色や武蔵野市と比較することで互いの違いやよさが分かった。セカンドスクールでの飯山市についての学習にも生かし、さらに学習を深められると考える。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は2回目の実施ということで、昨年度の反省を生かしておくたま地域振興財団と連絡調整の上、3日間の行程を検討・実施したので、体験活動をより充実させることができました。
- ・奥多摩町の児童との交流も、昨年度から一層充実させようと、奥多摩町の小学校との打ち合わせを重ね、今年度は学校の周辺を一緒に歩いて案内してもらう活動を行った。その結果、奥多摩町の学区域の環境について本校児童が実感を伴って理解したり、限られた時間の中で互いの児童が距離を縮め、交流を深めたりすることができた。
- ・ガイドウォークでは、台風19号の影響で奥多摩湖の浮橋が時間帯で渡れなくなることが分かり、予定を変更して行った。今後は、天候による影響が少ない活動を考えていく。
- ・3つの宿に男女別で宿泊したが、宿の規模に差があり、分けるのが難しかった。今後は参加児童数が増加するので、宿の数を増やす予定である。

関前南小学校

東京都西多摩郡檜原村

9月18日～9月20日(2泊3日)

参加人数 男子23名 女子17名
計40名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験活動や現地の人々の話から檜原村の産業や自然、生活について理解を深め、地域の特色を生かした取組についての概念を形成する。
- ・問いから設定した課題に対し、体験活動や現地の人々の話から必要な情報を集め、整理してまとめることができる。
- ・生活班や行動班の友達と協働的に取り組み、互いのよさを認めながら積極的に活動しようとする態度を養う。

○日程表

9月18日(水)		9月19日(木)		9月20日(金)	
7:45	出発式	6:30	起床・健康観察・清掃	6:30	起床・健康観察・清掃
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:15	フォレストイングコテージ着	8:00	各民宿出発	8:30	各民宿発
	開校式	8:30	都民の森着 三頭山ハイキング	9:00	井上食品見学
	林業体験	11:25	昼食	10:30	井上食品発
12:45	昼食	13:00	木工教室 森林館見学	11:00	檜原小学校着
13:30	水生昆虫観察	15:00	都民の森発		交流活動
16:00	各民宿着・入浴	15:15	数馬分校記念館見学	12:15	昼食
17:45	夕食	16:15	各民宿着・入浴	13:20	檜原小学校発
18:45	特産品づくり	18:00	夕食	15:20	学校着
20:00	学習の記録 明日の準備	20:00	学習の記録 明日の準備		帰校式～解散
21:00	消灯・就寝	21:00	消灯・就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の授業で、檜原村の自然や地形を生かした生活について学習した。
- ・総合的な学習の時間に、自分が調べたい課題を見付け、グループをつくり、課題解決の見通しをもたせた。図書資料やインターネットで調べ、現地で何を見たり聞いたりしてくるのか、課題を明確にさせた。
- ・宿での係を決めたり、過ごし方について話し合いを行った。宿の方へ手紙と写真も送った。

- ・出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。
- ・檜原小学校との交流に向けて、学校や武蔵野市を紹介するための準備をしたり、相手校の児童と楽しく交流するための計画を立てたりした。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間において、「武蔵野市と檜原村を比べて考えよう」をテーマに、事前に調べたことや体験したことをまとめ、グループごとに第3学年児童と保護者を対象にした発表会を行った。それぞれ探究した課題ごとにグループで発表した内容は次の通りである。
 - 「林業体験」…林業の果たす役割や間伐の方法や実演紹介
 - 「水生昆虫」…南秋川で観察した昆虫の種類や採取の方法を実演紹介
 - 「都民の森」…都民の森の施設や三頭山にいる動物や植物の紹介
 - 「数馬分校記念館」…模型を作り、展示してある資料や檜原村の小学校の歴史を紹介
 - 「檜原小学校」…学校生活の様子や施設の特徴を紹介
 - 「こんにやく工場」…こんにやく製造、工場働く人々の工夫の紹介
- ・社会科において、「わたしたちの東京都」の「山地の自然を生かした人々の暮らし」で山地の自然環境を生かしながら生活している人々の様子や産業の様子について学習した。プレセカンドスクールでの体験活動から、学習の理解が深まった。
- ・国語科において、「説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」の学習では、檜原村で体験したことについて見出しや項目の立て方を工夫してリーフレットにまとめた。また、檜原村でお世話になった方々や檜原小学校の児童にお礼の手紙を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 水生昆虫観察

南秋川で水生昆虫を採集して観察した。きれいな川の水に触れ、生き物を採集することにより自然と生物との関わりを考えることができた。事前に課題追究した武蔵野市の様子と比較し、違いについて考えることができた。

2 三頭山ハイキング

三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。ハイキングで見つけた様々な動植物について、都民の森のガイドの方から詳細な説明を受けた。植林された森と天然の森を比べながら展望することができ、環境保全や林業について理解を深めることができた。



【三頭山で自然観察をしながらハイキング】

<社会体験活動>

1 林業体験

林業体験では、地元の林業家から東京都、檜原村の林業について、森林の保全や管理、植林と間伐することの大切さについて学んだ。その後、林業に携わる講師の方々から間伐の仕方について指導を受けた。ロープを幹にかけ、木を倒す方向を定めてからのこぎりを用いて間伐体験を行った。児童8名あたり1人の講師で、きめ細かい指導を受けることができた。



【間伐する木を引き倒す様子】

2 檜原村の自然の学習

都民の森の森林館では、森林や動植物に関する展示を見学した。職員の方から檜原村の四季の変化により変わる様々な動植物の様子について説明を聞き理解を深めた。

3 キーホルダー作り

都民の森の木工教室では、檜原村の間伐材の杉板から型をとり、電動糸のこぎりでキーホルダーを作った。

4 数馬分校記念館見学

昔の檜原村の児童の写真や掲示物、道具についての資料を見学した。記念館を管理されている廃校当時の先生から当時の学校の様子や民具について説明を聞くことができた。

5 地元の特産物についての見学

檜原村の特産であるこんにやくの工場を見学した。こんにやく工場では、こだわりの製法について話を聞き、出来上がったこんにやくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。

<生活・文化体験活動>

1 地域の人々とのふれあい

檜原村の地域の人々との3日間のふれあいにより、地域のよさを感じることができた。1日目の夜に、宿舎の方と各宿で交流した。各宿で檜原村の特産物であるこんにやくやジャガイモスープ作りをして交流した。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は児童にとって貴重な経験であった。また、檜原村の歴史についての話を聞くこともできた。

2 地元の小学校との交流

檜原小学校の児童と交流した。お互いの学校紹介をした後、グループに分かれ自己紹介やレクリエーションをした。また、校内を案内してもらい、児童数の違いや木材を生かした校舎の様子など、自校との違いを知ることができた。



【武蔵野市と本校についての紹介（檜原小学校にて）】

○児童の感想

- ・ 林業体験では、ロープを木の高いところにかける作業が心に残りました。初めは上手くいかなかったけれど、講師の方に教えてもらったらできるようになりました。林業をする方々の技のすごさや、努力や工夫を知ることができてよかったです。
- ・ 宿で友達と過ごしたことが一番の思い出です。友達と協力して行動することができました。これまでよりももっと仲良くなれたと思います。
- ・ 武蔵野市にも自然はたくさんあると思っていたけれど、檜原村はもっと自然にあふれていました。同じ東京都でも、場所によってこんなにちがうのかと驚きました。
- ・ 檜原小学校の4年生との交流が一番楽しかったです。発表の時はどきどきしましたが、上手く伝えることができてよかったです。その後のゲームも楽しかったです。関前南小学校と、教室の様子が全然違いました。今度は檜原小学校の4年生が武蔵野市に来てくれたらうれしいです。そのときは、たくさん案内をしたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・ 初めての宿泊学習なので、体験活動の心構えや集団生活の指導に重点を置いた。自分の持ち物の準備や片付け、整理整頓などができるよう意識付け、係活動を分担することで、集団として助け合って行動できるようにした。
- ・ 現地の方との交流を大切に、気持ちのよい挨拶や、感謝の言葉を伝えられるよう指導した。
- ・ 課題をもって学習に取り組めるよう課題解決に向けての取り組み方からまとめ発表へ向けての学習の流れを指導した。



【プレセカンドスクール報告会の様子】

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 山地である檜原村の特色について、各体験活動を関連付けて課題追究することができた。
- ・ 事前に学習したことを実際に確かめたり、体験したことを他者に伝えたりする活動を充実させることができ、児童が意欲的に取り組むことができた。
- ・ 体験内容を精選したことで、一つ一つのプログラムにじっくりと取り組むことができた。
- ・ 児童がさらに主体的に活動できるよう、宿での役割や他の担当内容について事前指導を充実させる必要がある。
- ・ 次年度は実施場所を変更しているため、実地踏査を入念に行い、これまでのノウハウを生かせるように計画する。

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月12日～9月14日(2泊3日)

参加人数 男子73名 女子78名
計151名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山や山中湖周辺の自然に触れ、周辺の自然について理解を深める。
- ・富士山や山中湖周辺での活動を通して、人々や文化に触れ、自分たちの生活を支えている取り組みや活動について理解を深める。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を育成する。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を育成する。

○日程表

9月12日(木)		9月13日(金)		9月14日(土)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:10	富士山世界遺産センター見学	9:05	宿舎発	8:15	大掃除
12:05	富士山5合目 昼食	9:30	ネイチャーラリー	9:30	閉校式 宿舎発
13:00	富士山トレッキング	11:50	交流プラザきらら着 昼食	10:05	忍野村着
16:20	宿舎着 開校式		山中湖散策	10:20	ほうとう作り体験
17:00	入浴	13:40	富士湧水の里水族館見学	11:35	昼食
18:15	夕食	15:30	宿舎着	12:45	忍野八海見学
19:15	絵手紙かき	16:00	入浴	13:25	忍野八海発
19:50	係会議	18:00	夕食	15:55	学校着 帰校式
21:00	消灯	19:00	室内レク		
		19:55	係会議		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「プレセカンドスクールを成功させよう」で、富士山や山中湖などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。

- ・主なテーマとして、富士山の形成の過程や歴史、富士山の自然、富士五湖、山中湖の自然、山梨県の食文化、忍野八海などについて調べた。
- ・インターネットや図書資料を使って、調べたことをリーフレット形式や新聞、本などにまとめ、友達と交流したり、発表したりした。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「プレセカンドスクールを伝えよう」で、調べたことや分かったこと、体験したことなどを、リーフレット形式や紙芝居、プレゼンテーションソフトなどにまとめた。
- ・プレセカンドスクールで学んだことや考えたこと、楽しかったことなどを、まとめ方や発表の仕方を工夫し、3年生に発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山トレッキング

自然解説員が、武蔵野市では見ることができない樹木や植物について、詳しく説明してくれた。児童が飽きることがないように、イラストを示すなど工夫しながら話してくれた。また、天気にも恵まれ、富士山の赤い山肌や眼下に広がる景色に、児童は驚きを見せていた。森林限界を実際に見るなど、武蔵野市との違いを肌で感じる事ができた。



【富士山5合目からのトレッキング】

2 ネイチャーラリー

山中湖村営キャンプ場を利用して、富士山ネイチャークラブによるネイチャーラリーを行った。丸太渡りやロープ渡り、パチンコ鉄砲など、8つの自然体験活動を行った。草木の匂いを嗅ぎ分けたり、目隠しされた状態で手や足の感覚を頼りにゴールを目指したりするなど、自然を五感で感じられる体験活動だった。



【草木の匂いを当てるクイズ】

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

富士山御中道コースのトレッキングに向けて、事前に富士山の自然や歴史、文化などについて見学した。滞在時間が1時間という短い時間の中、解説員の話聞き、学習を行った。北館は富士山の自然を中心に構成されているのに対し、南館は富士山の文化を中心に構成されてい

る。富士山の文化という視点は、児童にとって新たな学びとなった。

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に生息する魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は、透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、富士山の湧水に手を入れたり、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったりする体験的な学習もできた。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

学級ごとに4つの民宿に分かれ、ほうとう作りを行った。宿の方に教えてもらいながら、小麦粉と水を混ぜ、こねて伸ばすなど、班員で協力しながら作った。昼食には、学級のみんなで作ったほうとうを入れたほうとう汁を食べた。自分たちで作ったほうとうの味は格別だったようで、普通の給食よりたくさん食べる姿が見られた。



【班員で協力して作っている様子】

2 忍野八海

ほうとう作りの後、学級ごとに忍野八海を見学した。忍野八海は富士山の伏流水を水源とした湧水池であり、ガイドの方がそれぞれの池の名前の由来や歴史について丁寧に説明してくれたので、児童は興味深く見学することができた。そのひとつである湧池（わくいけ）では、のぞき込んだ池はとても透明であったがその水深が7mもあることを知り、水のきれいさを実感した。



【忍野八海・鏡池を見学する様子】

○児童の感想

- ・富士山世界遺産センターでは、富士山の歴史や文化を知ることができました。
- ・昔から伝わる富士山の話聞いて、たくさんの人に大切に守られてきたことを知りました。
- ・富士山は、遠くから見ると青く、登って見ると赤かったです。
- ・東京では見られないきれいな景色を見ることができました。
- ・東京には緑が少ないので、もっと自然を大切にしたいと思いました。
- ・風や雨の影響で木が倒れてしまっていたけれど、それでも頑張っている様子に、自然の力強さを感じました。
- ・普段あまりしたことがない丸太渡りやロープ渡りができて楽しかったです。

- ・富士湧水の里水族館では、富士山の湧き水に生息する魚について詳しくなりました。
- ・ほうとうは、みんなで協力して作って食べたから、とてもおいしかったです。
- ・班のみんなで生活して、協力することの大切さを学びました。この経験をセカンドスクールに生かしたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けて、「時間を意識して行動すること」、「仲間と協力すること」を学年の目標にし、学習を続けた。一人一人が係を担当し、責任をもって活動することができた。宿舎や見学先で、式や会の挨拶や司会進行、食事や入浴、部屋の整理整頓の声かけなど、児童が率先して行動する場面を設け、「自分たちでつくり上げるプレセカンドスクール」を実践した。多くの児童が、「今、何をすべきなのか」ということを考えながら、行動することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度、富士山世界遺産センターでの活動は、1時間ほどであった。南館は、富士山周辺の歴史や文化について学ぶことができる施設であるため、もう少し活動時間を確保できるとよりよい学びにつながると思われる。
- ・今年度は、富士山の文化を取り扱う南館の解説を十分に聞かせるために、南館のみ解説員を依頼した。南館に入るグループを決めておくことで、一度に解説を聞く児童の人数を減らすことができた。
- ・富士山トレッキング（御中道コース）では、自然解説員を設置している団体があるが、児童数が多いことを理由に、実施不可となる可能性もある。今年度は、NPO法人富士山ネイチャークラブに依頼し、解説員を手配することができた。
- ・宿舎との連携を円滑にするために、アレルギー対応など、事前の打ち合わせを綿密に行う必要がある。
- ・教員と生活指導員で事前に共通理解を図り、充実した活動ができるようにする。

令和2年3月発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

令和元年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

令和二年三月

武蔵野市教育委員会